

第4章 遺物

番号	図版 番号	出土遺構	グリ ッド	器 種・ 器形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎 土	色調	焼成	残存 率	備考
75-5	60	住居	5		壺 口縁部～ 肩部	口縁端部は大きく屈曲し外反する 外)口縁部に櫛描波状文、頸部に クシガキ直線文(6本)2帯、その 下にクシガキ波状線1帯 内)不明	13.6	—	残6.5	①	淡黄褐	良好	口縁 部2/3	
75-6	60	住居	5		甕 底部 欠損	口縁端部をナデ面取りする 外)ナナメハケ 内)ナデ	13.7	—	残13.8	③	褐	やや 不良	1/3	
75-7	61	住居	6	土壇 300	壺 底部 欠損	外)上半部タテハケ、底部付近は ヨコハケ 内)ヨコハケ、口縁部はナデ	6.6	—	残15.8	②	赤褐	良好	1/6	
76-1	62	土壇	12		甕 底部 欠損	口縁部はハケ後ナデ、ヘラ刻みを 加える 外)タテハケ 内)口縁部はヨコハケ、以下はナ ナメハケ、その後ナデ	16.6	—	残6.2	③	淡赤黄 褐	良好	口縁 部4/5	スス付着
76-2	62	土壇	18		壺 上半 部	外)口縁部にヘラ刻みを加える 以下はヨコハケからタテハケ 内)口縁部にナナメハケ後鋸歯状 の沈線を施す	15.2	—	残9.4	①	褐	良好	上半 部2/3	スス付着 雲母
76-3	62	土壇	18		壺 底部 欠損	口縁端部は内側に肥厚する 外)口縁端部に1条の沈線を描き、 全体はタテハケ。その後20条の浅 い沈線を施す。肩部にヘラ描きの 記号を描く 内)タテハケ	11.6	—	残24.5	①	暗褐	やや 不良	1/3	雲母
76-4	64	土壇	29		壺 口縁 部	口縁部が内傾して立上がる。 外)櫛描直線文(4か5本)を数段 重ねる	(9.6)	—	残6.4	②	淡赤褐	やや 不良	1/2	
76-5	65	土壇	64		甕 底部 欠損	外)口縁部にヘラ刻みを加える、 以下はタテハケ 内)口縁部内面にヨコハケ	27.4	—	残28.2	③	黄褐	良好	4/5	
77-1	63-1	土壇	1		甕 口縁 部	外)タテハケ 内)ヨコハケの後?櫛描波状文	—	—	残2.9	④	淡茶褐	やや 不良	1/6	
77-2	63-1	土壇	9		壺 口縁 部	口縁端部を内側へ摘み上げる 外)タテハケ 内)ヨコハケ	16.4	—	残7.3	③	橙褐	良好	1/8	
77-3	63-1	土壇	12		壺 胴部 上半	外)櫛描直線文(4本)と櫛描波 状文(4本)を間隔をあけて重ね たあと櫛描直線文を3段重ねる 内)ヨコハケ	—	—	残9	③	褐	良好	1/6	
77-4	63-1	土壇	28		甕 口縁 部	口縁端部をやや内傾させる 外)口縁外面に櫛連続刻み目 内)ヨコハケ	—	—	残5.4	①	橙褐	良好	1/8	
77-5	63-1	土壇	20		壺 口縁 部	口縁端面を面取りし、やや内側へ 摘み上げる 外)左上がりのナ ナメハケ 内)ヨコハケ	18.3	—	残2.6	④	橙褐	良好	1/10	
77-6	63-1	土壇	18		壺 胴部 上半	外)羽状櫛刺突列点文の下に4本 のヘラ描沈線	—	—	残5.8	③	褐	やや 不良	1/16	
77-7	63-1	土壇	5		壺 底部	木葉痕	—	5.6	残1.7	④	淡褐	良好	底部 1/1	
77-8	63-1	土壇	44		壺 頸部	外)3段の櫛描直線文(7本)の下 に羽状櫛刺突列点文を加えた凸帯 を巡らす	—	—	残5.4	③	灰白	良好	1/6	
77-9		土壇	9		蓋 覆い 部	ユビオサエで仕上げる。頂部(摘 部)を欠く	—	4.7	残2.3	③	橙褐	良好	覆い 部1/1	
77-10	63-1	土壇	18		壺 胴部 上半	外)大振りな櫛描波状文(5本) の下に櫛描直線文(5本)を2段重 ねる	—	—	残5.6	③	淡褐	良好	1/6	
77-11	63-1	土壇	18		壺 胴部 上半	刺突列点文の下にタテ沈線を密に 施文する	—	—	残4.4	③	淡灰白	良好	1/16	
77-12	63-1	土壇	5		壺 胴部 上半	外)櫛描直線文(5本)の下に刺 突列点文を加えた2段に、さらに 櫛描波状文と櫛描直線文、扇形文 を施文する 内)タテナデ?	—	—	残7	④	暗茶褐	良好	1/6	
77-13	63-1	土壇	18		甕 口縁 部	外)口縁をナナメハケでやや面取 りして立ち上げ、以下はタテハケ 内)ヨコハケ	—	—	残4.4	③	灰白	やや 不良	1/6	

第2節 遺物各説

番号	図版 番号	出土遺構	グリ ッド	器 種・ 器 形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎 土	色調	焼成	残存 率	備考
77-14	63-1	土壇	18		甕 口縁部	口縁端部に刺突ありか？ 外) タテハケ 内) ヨコハケの後？櫛描波状文を施文して、さらに山形に櫛刺突列点文を加える	—	—	残3.8	③	灰白色	良好	1/8	
77-15	63-1	土壇	18		甕 口縁部	口縁部に櫛刺突列点文の刻み目 外) タテハケ 内) ヨコハケ	—	—	残4.2	①	淡褐	良好	1/8	
77-16	63-1	土壇	18		壺 胴部 上半	外) 5本の沈線の下にナナメの沈線を重ねて山形とする 内) ヨコハケ	—	—	残4.2	④	暗茶褐	良好	1/8	
77-17	63-1	土壇	13		壺 口縁部	口縁下端にヘラ刻み目を加える 外) タテハケ 内) 羽状櫛刺突列点文に2個一対の瘤状突起	—	—	残1.8	①	淡褐	良好	1/12	
77-18	63-1	土壇	19		壺 口縁部	口縁下端にヘラ刻み目を加える 外) タテハケ 内) ヨコハケ	—	—	残2	③	暗茶褐	良好	1/6	
78-1	62	土壇	23		器台 受部	外) 2条の擬凹線文に、ヨコミガキ？ 内) ヨコミガキ	(22.0)	—	残5.8	②	赤褐	良好	1/3	
78-2		土壇	23		壺 口縁部	外) 2条の擬凹線文 以下ケズリ 内) ナデ	(18.4)	—	残3.8	②	赤褐	やや良	口縁部1/5	
78-3		土壇	23		壺 口縁部	外) 口縁端部ナデ、以下ナナメハケ 内) 口縁端部ナデ、以下ナナメハケ	(13.7)	—	残3.6	③	茶褐	良好	口縁部1/6	
78-4		土壇	24		鉢 口縁部	外) 2条の擬凹線文 頸部ナデ、以下ハケ 内) 口縁部ナデ、以下ヨコケズリ	(22.9)	—	残6.4	④	淡褐	良好	口縁部1/4	
78-5		土壇	24		甕 口縁部	外) 5条の擬凹線文 口縁部は屈曲し内傾する、以下ハケ 内) ハケ後ナデ消す	(17.2)	—	残5.2	②	明褐	良好	口縁部1/12	
78-6	62	土壇	39		甕 底部 欠損	外) 口縁部はナデ、面取りする 以下はハケだが不明瞭 内) 口縁部はナデ、以下ヨコハケ	14.6	—	残8.2	①	淡黄褐	良好	上半部1/4	
78-7		土壇	39		高坏 坏部	口縁部は外反する 外) ヨコミガキ 内) ヨコミガキ	30.4	—	残4.8	④	赤褐	やや不良	坏部1/3	
78-8	62	土壇	39		高坏 坏部	口縁部は外反する 外) ヨコミガキ 内) ヨコミガキ	30.5	—	残6.0	②	淡褐	やや良		
78-9	64	土壇	39		蓋	外) ハケ後ナデ 内) ハケか？剥離のため不明瞭	4.2	—	6.0	③	淡褐	やや不良	1/2	
78-10	64	土壇	39		甕 口縁部～ 肩部	外) 3条の擬凹線文、一部ナナメハケが残る 内) 口縁部ナデ、以下はヨコケズリ	(14.4)	—	残6.8	④	淡黄灰	良好	口縁部1/3	
78-11	64	土壇	39		- 脚部	脚端部を面取り 外) タデミガキ 内) ヨコハケ後ナデ	-	—	残9.6	①	淡赤褐	良好	脚部7/8	雲母？
78-12		土壇	290		蓋 裾部 欠損	指頭圧痕 外) ナデ 内) ナデ	3.4	—	残3.7	①	灰褐	良好	1/3	
78-13	64	土壇	56		壺	外) 口縁部ナデ、以下タテハケ 内) ナデ	(11.4)	—	25.6	②	橙褐	良好	1/4	
78-14		土壇	145		鉢	外) 口縁部付近タテハケ、以下タデミガキ 内) ナデ	9.3	—	9.3	④	赤褐	良好	ほぼ完形	スス付着
78-15		土壇	49		壺 口縁部～ 胴部	外) 口縁端部ヨコナデ、頸部以下をタテハケ 内) 頸部以下をヨコケズリ	(17.6)	—	残6.5	③	赤褐	良好	1/2	
78-16		土壇	97		高坏 坏部	外) ヨコミガキ？ 内) ヨコミガキ？	(16.0)	—	残4.2	①	淡黄褐	良好	1/2	
78-17		土壇	154		甕 口縁部～ 胴部	外) 口縁部はナデで面取りを行う、以下頸部はナナメハケ、胴部はヨコハケ 内) ヨコハケ	(16.6)	—	残13.6	①	灰白	やや不良	上半部1/4	
78-18		土壇	32		鉢 口縁部～ 胴部	外) 口縁部に1条の弱い沈線、頸部以下をタテハケ 内) 胴部ヨコケズリ	(17.6)	—	残7.6	③	茶褐	良好	1/2	スス付着
78-19		土壇	155		甕？ 胴部	外) ナナメハケ、一部タデミガキが残る 内) ケズリ	—	—	残16.2	①	黄灰	良好	胴部1/6	
79-1	63-2	土壇	11		鉢 口縁部	口縁端部を摘み上げて立ち上げる 外) 3条の擬凹線文 内) 胴部ケズリ	16.5	—	残5.8	③	淡褐	良好	1/4	

第4章 遺物

番号	図版 番号	出土遺構				グリッド	器 種・ 器形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎土	色調	焼成	残存率	備考
79-2	63-2	土壇	39				鉢	胴部 上半	口縁端部を僅かに摘み上げる 外) 3条の擬凹線文 内) ヨコナデ	19.5	—	残5.9	③	淡茶褐	良好	1/10	
79-3	63-2	土壇	49				高 坏	脚部	端部外面に3条の擬凹線文。円孔 を残す。 外) タテミガキ 内) ナデ?	—	22.5	残3.9	③	橙褐	良好	1/8	
79-4	63-2	土壇	40				高 坏	口縁 部	口縁内面を幅広く肥厚	32.5	—	残3.2	③	淡灰白	良好	1/4	
79-5	63-2	土壇	39				壺	口縁 部	口縁端部を僅かに摘み上げる 外) 口縁外面に弱い2条の擬凹線 文。タテミガキ 内) ヨコナデ?	11.5	—	残6.2	④	淡褐	良好	1/6	
79-6	63-2	土壇	49				広 口 壺	口縁 部	口縁端部を僅かに摘み上げる 外) 2条の擬凹線文 内) ヨコナデ	13.4	—	残2.8	③	淡茶褐	良好	1/10	
79-7	63-2	土壇	49				甕	口縁 部	立ち上がった口縁下端に櫛刺突列 点文	15	—	残1.5	①	淡茶褐	良好	1/4	
79-8	63-2	土壇	40				甕	口縁 部	立ち上がった口縁部はヨコナデで 無文	19	—	残4.2	③	淡茶褐	やや 不良	1/6	
79-9	63-2	土壇	40				鉢	胴部 上半	口縁端部を摘み上げて立ち上げる 外) 3条の擬凹線文 内) ヨコナデ	19.3	—	残4.5	③	淡褐	やや 不良	1/6	
79-10	63-2	土壇	26				壺	口縁 部	口縁部を屈曲させ、ヨコナデで幅 広とする。 外) タテハケ 内) 口縁部指押さえ	14.4	—	残6.1	③	橙褐	良好	1/4	
80-1	64	土壇	76				甕		外) 3条の擬凹線文 口縁部ナデ以 下タテハケ 内) 口縁部はナデ 以下ケズリ	17.6	—	21.5	①	淡赤褐	良好	1/2	スス付着
80-2	64	土壇	76				口縁 部～ 胴部		外) 5条の擬凹線文 胴部にナメ ハケの後、ヘラ刺突連点文 内) 口縁部ナデ、以下ケズリ	(19.2)	—	残15.9	①	淡赤褐	良好	上半 部1/3	スス付着
80-3	65	土壇	76				鉢		外) 口縁部に1条の沈線、以下ミ ガキ 内) 上半部ミガキ、下半部ケズ リ、底部ナデ	12.4	—	10.1	②	白褐	やや 不良	ほぼ 完形	把手付き
80-4	62	土壇	76				壺	口縁 部	外) タテハケ 内) ヨコハケ 指頭圧痕	13.4	—	残14.9	②	淡赤褐	良好	口縁 部3/4	
80-5	62	土壇	76				高 坏	裾部 欠損	外) ナデ 内) ナデ	28.1	—	残16.0	②	淡黄褐	良好	3/4	
80-6	62	土壇	76	12	D		鉢		外) 4条の擬凹線文、屈曲部に連続 した指頭圧痕、以下はナメハケ 内) 口縁部ハケ、以下ケズリ、ナ デ、指頭圧痕	19.8	—	9.8	②	淡褐	やや 不良	2/3	
80-7	64	土壇	76				甕		外) 口縁部ナデ、以下ナメハケ 内) 口縁部ナデ、以下ケズリ	12.6	—	15.2	①	淡黄褐	良好	ほぼ 完形	スス付着
81-1	66-1	土壇	86				壺	口縁 部	口縁部にやや面を持つ。 外) 口縁部ヨコナデ、胴部タテの ナデ	19.4	—	残8	③	淡褐	良好	1/8	
81-2	66-1	土壇	86				甕	口縁 部	外) 口縁をナメハケでやや面取 りして立ち上げ、以下はタテハケ 内) ヨコハケ	17.8	—	残3	③	暗茶褐	良好	1/8	
81-3	66-1	土壇	86				甕	口縁 部	外) 口縁部をヨコハケとするが立 ち上げない。以下タテハケ 内) ヨコハケの後波状文2段	16	—	残4.3	③	淡茶褐	やや 不良	1/6	
81-4	66-1	土壇	79				甕	口縁 部	口縁端部刻み目? 外) タテハケ 内) ヨコハケの後波状文	17.4	—	残5.1	③	暗茶褐	良好	1/8	
81-5		土壇	65				甕	口縁 部	外) 口縁をナメハケで面取りし て立ち上げ、以下はタテハケ 内) ヨコハケ	—	—	残3	③	褐	良好	1/10	
81-6	66-1	土壇	64				甕	口縁 部	口縁端部に2個一対のへら刻み目 外) タテハケ 内) ヨコハケ?	—	—	残4.6	③	暗茶褐	良好	1/6	
81-7		土壇	70				高 坏	脚部	脚端部を上へ摘み幅広い面をつく る。 外) タテハケ	—	10.2	残4.2	③	橙褐	良好	底部 1/4	

第2節 遺物各説

番号	図版 番号	出土遺構				グ リ ッド	器 種 ・ 器 形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎 土	色調	焼成	残存 率	備考
81-8	66-2	土壇	77				甕	胴部 上半	外) 羽状櫛刺突列点文を3段重ねる。 内) 口縁内面にも羽状刺突列点文?	—	—	残8.6	③	赤褐	良好	1/6	
81-9	66-1	土壇	99				広口 壺	口縁 部	口縁下端にへら刺突 外) ヨコハケの後ナデ? 内) 櫛描直線文 (6本)	24.9	—	残2.2	③	淡灰白	良好	1/4	
81-10		土壇	100				壺	頸部	外) 間隔をあけた櫛描直線文 (7本) 2段	—	—	残3.3	③	淡灰白	良好	1/12	
81-11	66-1	土壇	99				壺	頸部	外) 間隔をあけた櫛描直線文 (7本) 3段	—	—	残3.9	②	淡褐	良好	1/4	
81-12		土壇	104				壺	胴部 上半	外) 直線文?	—	—	残4.2	③	淡橙褐	やや不良	1/6	
81-13	66-1	土壇	100				壺	胴部 上半	外) 沈線でつくられた浮線4本をまとめて結束して上下に連ねる 内) ヨコハケのちミガキ	—	—	残3.4	①	暗茶褐	良好	1/16	
81-14	66-2	土壇	99・ 100				甕	口縁 部～ 胴部 上半	口縁端部にへら刻み目 外) タテハケ 内) ヨコハケの後波状文2段	23.8	—	残10.4	②	淡褐	良好	1/6	
81-15	66-1	土壇	82				甕	口縁 部	外) タテハケ 内) ヨコハケ	23.6	—	残5	①	褐	良好	1/6	
81-16	66-2	土壇	107				甕	口縁 部	口縁端部に指押圧1ヶ所 外) 頸部に櫛刺突列点文 (8か9本) を2段の下に櫛描直線文 (条数不明) 内) タテハケの後? ヨコハケ	—	—	残6.4	②	淡褐	やや不良	1/5	
81-17	66-2	土壇	113				壺	口縁 部	口縁部が大きく内側へ立ち上がる袋状口縁 外) 沈線でつくられた浮線4本をまとめて結束し、上と下へ逆方向に向ける。内傾する立上り下端にへら刺突列点文。口縁部立上りの下に指押圧を連続する。以下は太い櫛による条痕 内) ナデ?	—	—	残6.4	④	淡褐	やや不良	1/6	
81-18	66-2	土壇	116				壺	胴部 上半	外) タテミガキの後円形竹管文を連続する。 内) ナデ	—	—	残4.4	④	橙褐	良好	1/8	
81-19	66-2	土壇	142				壺	口縁 部	外) 口縁部が上へ立ち上がり、羽状櫛刺突列点文を施文する	—	—	残3.9	③	淡灰白	やや不良	1/12	
81-20	66-2	土壇	155				壺	口縁 部	口縁端部に刺突し一部を厚く脹らませる 外) ふくらみに沈線を結束 内) 端部にへら刺突列点文、接して5条の沈線で箱重ねする。	—	—	残1.2	③	淡褐	やや不良	1/12	
81-21		土壇	155				壺	胴部 上半	外) 櫛描直線文 (条数不明) に接して、へら刺突列点文で羽状とする	—	—	残3.8	③	橙褐	やや不良	1/20	
81-22	66-2	土壇	155				壺	口縁 部	外) 押し引き列点文の施文された幅広の粘土帯を貼付け、さらに粘土帯の下にも押し引き列点文を施文する 内) ヨコハケ	—	—	残3	④	淡橙褐	良好	1/12	
81-23	66-2	土壇	140				甕	口縁 部	幅広の口縁端面にヨコハケ 外) タテハケ 内) ヨコハケの後波状文2段	—	—	残5.2	③	淡褐	良好	1/5	
81-24		土壇	141				甕	口縁 部	口縁端部をハケで押し引き列点 外) タテハケの後直線文 内) ヨコハケの後波状文2段	19.7	—	残3.8	②	暗茶褐	やや不良	1/8	
81-25		土壇	146				壺	口縁 部	口縁端部ヨコハケ 外) タテハケの後ヨコハケ? 内) ヨコハケ	—	—	残4.4	③	暗茶褐	やや不良	1/6	
81-26	66-2	土壇	190				壺	口縁 部	口縁端部にへら刺突列点文 外) タテハケ 内) ヨコナデ?	22	—	残7	③	淡灰褐	良好	1/6	

第4章 遺物

番号	図版 番号	出土遺構		グリッド	器種・ 器形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎土	色調	焼成	残存率	備考
81-27		土壇	158		甕	口縁部	口縁端部にヘラ刺突列点文 外) 不明 内) ヨコハケの後波状文2段	—	—	残4.8	②	暗茶褐	やや不良	1/4	
81-28	66-2	土壇	197		甕	口縁部	やや下へ拡張した口縁端部をヨコ ナデ 外) タテハケ、頸部に沈 線複数? 内) 2個1対の瘤状突 起を避けてヨコハケ	—	—	残8	③	橙褐	良好	1/3	
81-29		土壇	192		壺	口縁部	口縁端部を上下にやや拡張 外) タテハケ 内) ヨコハケ	—	—	残7.8	③	淡褐	やや不良	1/10	
82-1		土壇	141		甕	口縁部 ～ 胴部 上半	外) タテハケ 内) ヨコハケの後波状文	(19.6)	—	残10.9	②	灰褐	やや良	2/3	
82-2		土壇	138		壺	頸部	外) 櫛描直線文(6本3帯) 内) ナデ	—	—	残5.9	②	灰褐	良好	頸部 1/5	
82-3	65	土壇	138		壺	口縁部	受け口状口縁 外) 口縁部不明瞭、以下タテハケ 内) ヨコハケ	(17.4)	—	残3.5	②	明褐	良好	1/12	
82-4	65	土壇	153		甕	口縁部 ～ 頸部	口縁部は屈曲し若干内湾する、口 縁部にヘラ刻み目 外) 口縁部ナデ、以下タテ及びヨ コハケ 内) ナデ	21.8	—	残8.5	④	赤褐	良好	4/5	
82-5	67	土壇	153		甕	上半部	外) タテハケ 内) 口縁部ヨコハケ、胴部ナデ	(21.9)	—	残9.8	②	明褐	良好	1/4	
82-6	65	土壇	198		壺	口縁部 ～ 頸部	外) 口縁端部にヘラ刻み目、頸部 に沈線で区画して、羽状沈線文 内) ヨコハケ	(17.6)	—	残14.6	④	赤褐	やや不良	1/2	
82-7		土壇	199		甕	口縁部	外) タテハケ 内) ヨコハケの後波状文	—	—	残5.8	③	灰褐	良好	1/6	
82-8		土壇	99		甕	口縁部	口縁端部をヨコハケ 外) タテハケ 内) ヨコハケの後波状文	(24.0)	—	残3.5	②	茶褐	良好	1/2	第82図9の口縁部
82-9		土壇	99		甕	胴部 上半	外) タテハケの後ヨコハケ?	—	—	—	②	茶褐	良好	—	第82図8の胴部
82-10	65	土壇	92		壺	頸部 ～ 胴部 下半	外) ハケの条痕調整で、直線文の 上に2段のは跳ね上げ文、下に横 羽状の条痕調整 内) ナデ	—	—	(37.6)	③	灰白	良好	1/2	
82-11		土壇	153		壺	口縁部	口縁上端へラ刻み目 外) ヨコハケ 内) 櫛描直線文	(20.1)	—	残1.1	②	淡褐	良好	一部	
82-12		土壇	153		甕	口縁部	外) 口縁部ナナメハケでやや面取 りして立ち上げる、以下をタテハ ケ 内) ヨコハケの後波状文	—	—	残1.8	①	濃褐	やや良	一部	雲母
82-13		土壇	128		壺?	口縁部	外) タテハケ 内) ヨコハケ	(24.4)	—	残3.2	①	灰白・ 灰黄	やや不良	1/5	
82-14		土壇	153		壺	口縁部	口縁部は摘み上げ若干内湾する 外) ヨコハケ 内) ヨコハケ	—	—	残4.3	③	茶褐	良好	一部	
82-15		土壇	128		壺	口縁部	口縁部は摘み上げ若干内湾する 外) 櫛描直線文(本数不明) 内) ナデ	(8.8)	—	残6.1	②	赤褐	良好	1/2	
82-16		土壇	153		甕?	底部	外) タテハケ 内) 不明	—	—	残3.9	③	灰褐	やや良		
83-1	75-2	土壇	160		高坏?	口縁部	立ち上がる口縁端部の外を弱く押 さえる 外) 立ち上がった口縁 部に刺突列点文を施文する	20	—	残3.2	③	淡褐	良好	1/12	
83-2	75-2	土壇	85		甕	口縁部	立ち上がった口縁部に5条の擬凹 線文	18	—	残3.6	③	淡灰褐	やや不良	1/6	
83-3	75-2	土壇	180		甕	口縁部	受口状口縁の端部に平坦面 外) 立上りにヘラ刺突列点文、タ テハケの後沈線(本数不明) 内) ヨコハケ	—	—	残4.2	③	淡灰白	良好	1/12	
83-4	75-2	土壇	294		甕	口縁部	受口状口縁の端部に平坦面 外) 立上りにヘラ刺突、タテハケ の後沈線(本数不明)	—	—	残2.2	③	淡灰白	良好	1/12	

第2節 遺物各説

番号	図版 番号	出土遺構	グリ ッド	器 種・ 器 形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎 土	色調	焼成	残存 率	備考
83-5	75-2	土壇	149		高 坏	口縁部 立ち上がった口縁端部を外側へ拡張 外) 口縁部はヨコミガキ、 坏底部はタテミガキ 内) 口縁部はヨコミガキ、坏底部 はタテミガキ	30.2	—	残5.2	③	淡褐	良好	1/8	
83-6	75-2	土壇	151		壺 胴部 上半	櫛描直線文 (6本) の間に扇形文	—	—	残4.2	③	淡灰褐	良好	1/10	
83-7	75-2	土壇	111		甕 口縁部	立ち上がった口縁部に8条の擬凹 線文	22.4	—	残4	④	橙褐	やや 不良	1/6	
84-1	67	土壇	206		壺 口縁部 ～ 胴部 上半	外) 頸部以下に櫛描直線文 (4 本) と櫛描波状文 (4本) を交互 に3段重ねる	(19.0)	—	残12.0	③	灰褐	不良	1/4	微細写真 図版100
84-2	67	土壇	212		甕 口縁部 ～ 胴部	口縁部は屈曲し、内湾して受け口 状を呈する 外) 不明 内) ハケ?	22.6	-6.1	残14.3	③	橙褐	良好	上半 部1/5	
84-3	67	土壇	212		壺? 胴部	外) タテハケ後ミガキ 内) ケズリか?	—	—	残23.1	②	橙褐	良好	胴部 1/2	
84-4	67	土壇	153		甕 口縁部 ～ 胴部	口縁端部にヘラ刻み目 外) タテハケ 内) ヨコハケ	(22.4)	—	残11.2	②	茶褐	良好	1/2	
84-5	67	土壇	249		甕 口縁部 ～ 胴部	口縁部は屈曲し、屈曲部は比較的 厚い、端部はヘラ刻み目を加える 外) ヨコ及びナナメハケ 内) ヨコ及びナナメハケ	17.0	—	残11.5	①	黄灰	良好	上半 部1/2	
84-6	67	土壇	249		甕 略完 形	口縁部は屈曲し外側に擠み出す? 外) ハケか? 内) 不明	14.5	8.4	28.0	①	黄灰	良好	2/3	黒班あり
84-7	70	土壇	233		壺 口縁部	外) タテハケ 内) ヨコハケ	(12.0)	—	残4.4	③	赤褐	良好	3/4	
85-1	68	土壇	256		甕 口縁部 ～ 頸部	受口状口縁。口縁端部4ヶ所に突起 外) 口縁部に櫛描波状文が 一部残る。以下はヨコ及びナナメ の荒いハケ 内) 口縁部櫛描波 状文、以下荒いヨコハケ	37.7	—	残10.9	③	赤褐	やや 不良	口縁 部1/2	口縁部押圧
85-2	68	土壇	224		甕	口縁部は屈曲し外傾する。口縁端 部に2ヶ所押圧突起。口縁端 外) タテハケ (条痕文系) 櫛描直 線文 (6本4帯) 内) ヨコハケ (条痕文系) 肩部指 頭圧痕、底部ナデ	19.9	—	25.4	①	茶褐	やや 不良	4/5	口縁部押圧突起
85-3	68	土壇	275		壺 上半 部	口縁部と頸部に貼付け突帯、及び その間に縦型の貼付け突帯。それ らに櫛刺突列点文。 外) 条痕文 内) 口縁端にヘラ刻み目	(15.9)	—	残18.8	③	灰白	やや 不良	上半 部1/5	
85-4	70	土壇	226 ・ 246		高 坏	外) 口縁部、脚端部ナデ、他タテ ハケ 内) 坏部ヨコハケ、脚部上 ケズリ後ナデ、下ヨコハケ後ナデ	19.4	—	(18.4)	①	淡黄褐	良好	1/3	黒班あり
85-5	70	土壇	265		甕 略完 形	外) 口縁端部をヨコハケ、以下を タテハケの後頸部に櫛描直線文 (6本) 底部を僅かに上げ底 内) ヨコハケの後波状文	21.6	6.2	27.4	④	淡黄褐	良好	胴部 の一部を 欠	
85-6	70	土壇	267	8 F	壺	口縁端部は内側に肥厚する 外) タテハケ 内) 不明	10.2	(4.8)	31.0	②	淡褐	良好	4/5	口縁端部をナデ、内 側に肥厚させる ス ス付着
86-1	70	土壇	279		無 頸 壺	外) 口縁端部外面にヘラ刻み目を 加え、直下に指押圧の貼付凸帯を 2条、以下に櫛描直線文 (7本) 2 段、櫛描波状文 (7本)、櫛描直 線文 内) 頸部にユビオサエ	(9.0)	—	残16.8	③	赤褐	良好	1/2	
86-2	68	土壇	295		壺 口縁部 ～ 頸部	口縁下端部にヘラ刻み目 外) タテハケ、頸部にヘラ描き沈 線 (4本) 内) 口縁端部ナデ、以下ヨコハケ	17.0	—	残5.2	②	薄赤褐	やや 不良	口縁 部1/2	

第4章 遺物

番号	図版 番号	出土遺構				グリ ッド	器 種・ 器 形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎 土	色調	焼成	残存 率	備考
86-3	68	土壇	295				甕	口縁部～ 頸部	口縁帯面にヘラ刻み目 外) タテハケ、胴部に箱重ね文 内) 口縁部に4列の円形竹管文	18.0	—	残8.1	③	褐	良好	口縁 部2/3	
86-4	69	土壇	295				甕	口縁部～ 頸部	口縁部は屈曲し若干受口状を呈する。 口縁帯面にヘラ刻み目 外) ナナメハケ、胴部にヘラ刺突 列点文 内) 口縁部ナデ、以下ナナメハケ	(22.0)	—	残8.8	①	赤褐	良好	口縁 部1/4	
86-5	69	土壇	295				壺	底部 欠損	口縁帯面にヘラ刻み目 外) ヨコハケ 頸、肩部に櫛描直 線文 (5本5帯)、間に櫛描波状文 (5本4帯) 内) ナナメハケ後ナデ	(13.0)	—	残23.4	①	赤褐	良好	上半 部1/3	
86-6	70	土壇	296				壺	口縁部～ 頸部	外) タテハケの後、櫛描直線文 (7本) とヘラ刺突列点文を交互 に3段重ねる 内) ヨコハケの後波状文	(16.0)	—	残6.6	④	赤褐	やや 不良	1/2	
86-7	68	土壇	291				甕	口縁部～ 頸部	外) 口縁帯に櫛描波状文(2本)、頸 部に櫛描直線文 内) 口縁部に櫛描波状文、以下ナ ナメハケ	(19.1)	—	残5.9	②	淡褐灰 白	やや 良	口縁 部1/4	
86-8	68	土壇	295				壺	口縁部～ 頸部	口縁端上下にヘラ刻み目 外) タテハケ 内) ヨコハケ後ナデ、指頭圧痕	15.2	—	残7.5	④	薄橙	良好	口縁 部1/2	
86-9	68	土壇	291				高坏	裾部 欠損	外) 口縁部ナデ、坏部タテミガ キ、脚部ハケ後ミガキ 内) 口縁部ナデ	(20.6)	—	残13.4	①	淡褐灰 白	やや 不良	1/3	3ヶ所穿孔
86-10	69	土壇	305				甕		外) タテハケ 内) 一部ハケ 底部・指頭圧痕	(11.6)	—	20.2	①	灰褐	良好	1/3	黒班あり
86-11	68	土壇	291				甕	口縁部～ 頸部	外) ナナメハケ。口縁帯に櫛描波 状文、頸部櫛描直線文(13本) 内) ヨコハケ。口縁部、櫛描波状 文	(20.6)	—	残6.5	②	淡褐灰 白	やや 良	口縁 部1/4	
86-12	69	土壇	314				甕	口縁部～ 頸部	外) ナデ 口縁帯に斜状櫛刺突を 加え、頸部には櫛描直線文 (3 本)、櫛描波状文(2本)、櫛描直線 文(3本) 内) ナデ	19.6	—	残10.2	②	赤褐	不良	口縁 部2/3	
86-13	70	土壇	315				甕	口縁部～ 胴部	外) 口縁端面をヨコハケで幅広とし、 以下をタテハケ 内) ヨコハケ	(21.5)	—	残7.9	①	灰褐	良好	口縁 部ほぼ 完形	
87-1	71-2	土壇	211				甕	口縁部	口縁部を摘み上げて受口状とする 外) 口縁はヨコハケ、以下タテハ ケ 内) ヨコハケ	—	—	残6.6	③	暗茶褐	良好	1/5	
87-2	71-2	土壇	244				甕	口縁部	外) ヨコハケで口縁部を幅広くする。 以下、タテハケ 内) ヨコハケのち波状文3段	—	—	残7.2	③	淡灰白	良好	1/8	
87-3	71-1	土壇	244				壺	頸部	外) 櫛描直線文 (3本) の間にヘ ラ刺突列点文	—	—	残3.8	④	淡灰白	良好	1/16	
87-4		土壇	208				甕	口縁部	「く」の字に屈曲した口縁端部を 強くヨコナデし、面をつくる。 外) ヨコナデ 内) ユビオサエの後ヨコナデ	15.8	—	残4.8	①	淡褐	良好	1/6	
87-5	71-2	土壇	208				甕	口縁部	外) ヨコハケで口縁部を幅広くする。 以下、タテハケ 内) ヨコハケ	13	—	残3.8	③	橙褐	やや 不良	1/6	
87-6		土壇	240				甕	口縁部	外) 口縁端部をヨコナデして、摘 み上げる。以下、タテハケ 内) ヨコハケ	—	—	残6.8	①	淡褐	良好	1/6	
87-7		土壇	246				鉢	口縁部	外) ヨコからナナメハケ 内) ユビオサエの後ヨコナデ	17	—	残7.4	③	淡褐	良好	1/6	
87-8	71-2	土壇	246				鉢	口縁部	外) ヨコハケ 内) 横方向のケズリ?	—	—	残5.2	①	灰白	良好	1/8	

第2節 遺物各説

番号	図版 番号	出土遺構	グリ ッド	器 種・ 器 形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎 土	色調	焼成	残存 率	備考
87-9		土壇	249		壺 口縁部	厚手の口縁端部をヨコナデで幅広く面をつくる 外) タテハケ 内) ヨコハケ	—	—	残2.8	③	暗茶褐	良好	1/4	87-10は同一個体の可能性があるが、色調が大きく異なり、一応別個体とした
87-10		土壇	249		壺 口縁部	厚手の口縁端部をヨコナデで幅広く面をつくる 外) タテハケ 内) ヨコハケ	—	—	残3.2	④	橙褐	良好	1/8	87-9は同一個体の可能性があるが、色調が大きく異なり、一応別個体とした
87-11	71-2	土壇	249		壺 胴部上半	外) 櫛描直線文(10本)の下に羽状櫛刺突列点文 内) タテの指ナデ	—	—	残4.6	③	橙褐	良好	1/6	
87-12	71-2	土壇	256		壺 胴部上半	外) 刺突列点文に波状文と直線文を加え、その上に振幅の大きな波状文	—	—	残5	③	淡灰白	良好	1/16	
87-13	71-1	土壇	256		壺 胴部上半	外) 沈線(5本以上)で箱重ね	—	—	残5.7	④	淡褐	良好	1/8	
87-14	71-2	土壇	256		甕 口縁部	厚手の口縁端部をヨコナデで摘み上げ 外) タテハケ 内) ヨコハケ	—	—	残2.8	①	淡茶褐	良好	1/10	
87-15	71-2	土壇	256		甕 口縁部	外) 丸みのある口縁端部をヨコハケし、以下、タテハケ 内) ヨコハケのち波状文	20	—	残3.4	①	暗茶褐	良好	1/8	
87-16	71-2	土壇	257		甕 口縁部	外) 口縁端部に波状文、以下タテハケ 内) ヨコハケの後波状文	19.8	—	残2.4	③	淡赤褐	良好	1/12	
87-17	73-2	土壇	257		甕 口縁部	外) 口縁にヨコハケ、以下タテハケ 内) ヨコハケの後波状文	—	—	残2.8	③	淡灰白	良好	1/16	
87-18	71-2	土壇	250		甕 口縁部	外) 口縁部ヨコハケ、以下タテハケ 内) ヨコハケの後波状文3段	—	—	残3.6	②	淡褐	良好	1/8	
87-19	71-2	土壇	250		壺 口縁部	外) 幅広の口縁下端に櫛刺突列点文の刻み目、以下ヨコハケかヨコナデ 内) 羽状櫛刺突列点文の中央に円形浮文状の突起4個	—	—	残2.8	①	淡赤褐	良好	1/6	
87-20	71-2	土壇	258		甕 口縁部	外) 口縁端部へラ刻み目、以下タテハケ 内) ヨコハケ	—	—	残3	③	淡茶褐	良好	1/8	
87-21	71-1	土壇	259		甕 口縁部	外) 膨らませた口縁の上下両端にへラ刺突列点文、以下タテハケ 内) 不明	—	—	残2.8	③	淡灰白	やや不良	1/12	
87-22	71-1	土壇	261		壺 口縁部	外) 口縁端部にへラ?で羽状刺突列点文 以下タテハケ 内) 端部より順に三角の連続したへラ刺突列点文、櫛描直線文(条数不明)、櫛描波状文(6本)、円形のへラ刺突列点文、三角の連続したへラ刺突列点文でさらにその内側に櫛描直線(条線不明瞭)で垂線を3帯	—	—	残4.8	④	橙褐	良好	1/6	
87-23		土壇	260		甕 口縁部	外) 口縁端部不明、口縁部付近ヨコハケ、以下タテハケ 内) ヨコハケの後波状文2段	20	—	残4	③	暗茶褐	不良	1/5	
87-24		土壇	260		甕 口縁部	外) 口縁端部ヨコハケ、口縁部近くヨコナデ、以下タテハケの後ヨコハケ 内) 波状文を2から3段重ねる	19.4	—	残5	③	暗茶褐	良好	1/4	
87-25	71-1	土壇	262		広口壺 口縁部	外) 幅広の口縁下端に櫛刺突列点文の刻み目、以下ヨコハケ 内) ヨコハケ	—	—	残2.2	③	淡灰白	やや不良	1/8	
87-26	71-1	土壇	262		甕 口縁部	外) 口縁端部ヨコハケ、以下タテハケ 内) 端部にへラ刻み目、ヨコハケのち波状文2段	22	—	残3.4	③	淡茶褐	良好	1/5	
87-27	71-1	土壇	262		壺 口縁部	外) 口縁部が上へ立ち上がり、上端面へラ刺突列点文、外面に羽状櫛刺突列点文を施文する	—	—	残2.8	③	橙褐	良好	1/10	

第4章 遺物

番号	図版 番号	出土遺構	グリ ッド	器 種・ 器 形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎 土	色調	焼成	残存 率	備考
87-28	71-1	土壇	274		壺 口縁部	外) 羽状櫛刺突列点文 (6本)	—	—	残3.2	②	淡灰白	やや不良	1/3	
87-29	71-1	土壇	276		甕 口縁部	強く屈曲する頸部に上端部にヘラ刻み目の口縁端部 外) タタキの後タテハケ 内) 口縁部のみヨコハケ	16	—	残4.6	③	暗茶褐	良好	1/6	
87-30	73-2	土壇	265		壺 口縁部	外) 口縁端面にナナメにヘラ刻み目、以下タテハケ 内) 三角の連続したヘラ刺突列点文を4段重ねる	—	—	残2.6	①	褐	良好	1/4	
87-31		土壇	265		甕 口縁部	外) 摘み上げた口縁端部をヨコハケ、以下タテハケ 内) ヨコハケ	—	—	残4.2	③	案茶褐	やや不良	1/12	
87-32	71-1	土壇	283		広口 壺 口縁部	口縁端部に櫛描波状文 (2~3本)、下端にヘラ刻み目	—	—	残3	②	淡灰白	良好	1/12	
87-33	71-1	土壇	288		広口 壺 口縁部	外) 口縁端面に櫛描波状文 (4本?)、その上下両下端にヘラ刻み目、以下タテハケ 内) 櫛描波状文 (6本?) を2段	—	—	残1.6	④	橙褐	良好	1/4	
87-34	71-1	土壇	297		甕 口縁部	ゆるく外反する口縁 外) ヨコ条痕 内) 太い櫛描直線文 (3本)	20	—	残4.6	④	淡灰白	やや不良	1/10	
87-35		土壇	285		甕 口縁部	ヨコハケで幅広くした口縁を山形にする。 外) 頸部タテハケ 内) ヨコハケ	—	—	残4.8	③	淡灰白	やや不良	1/6	
87-36		土壇	285		甕 口縁部	外) 口縁をヨコハケで幅広くにする。以下タテハケ 内) ヨコハケ	—	—	残3.4	①	淡灰白	良好	1/10	
87-37	71-1	土壇	298		壺 口縁部~ 胸部 上半	胸部からすばまり頸部に至り、口縁部が短く開く。 外) 口縁端部に櫛の刻み目、以下タテハケ 内) ヨコハケ	14	—	残8.8	③	淡灰白	良好	1/4	
88-1	73-1	土壇	204		甕 口縁部	外) ヨコハケで幅広くした口縁を僅かに山形にする。以下タテハケ 内) ヨコハケ	—	—	残5.2	③	淡褐	良好	1/6	
88-2	73-1	土壇	206		甕 口縁部	外) ヨコハケで口縁を幅広くにし、以下タテハケ 内) ヨコハケ	19.8	—	残5.4	③	淡褐	やや不良	1/6	
88-3		土壇	208			外) ヨコハケで口縁を幅広くする。以下タテハケ 内) ヨコハケ	18	—	残4.6	③	淡茶褐	良好	1/12	
88-4	73-2	土壇	206		甕 口縁部	外) 口縁端部に櫛刻み目、以下タテハケ 内) ヨコハケ	—	—	残3.2	②	暗茶褐	良好	1/8	
88-5	73-2	土壇	203		壺 口縁部	外) 口縁端部を強くヨコナデ、以下タテハケ 内) 羽状櫛刺突列点文	18.8	—	残2	③	淡褐	やや不良	1/8	
88-6	73-2	土壇	290		甕 口縁部	口縁端部を下から押し上げ山形にする 外) 頸部に櫛描直線文 (条線不明瞭) 内) 櫛描波状文 (条線不明) を数段重ねる	20	—	残3.8	④	暗茶褐	良好	1/8	
88-7	73-2	土壇	290		甕 口縁部	外) 口縁端部に刻み目 内) ヨコハケ	—	—	残3.4	③	淡褐	良好	1/8	
88-8	73-1	土壇	290		甕 口縁部	外) タテハケ 内) 端部をヨコハケ、以下波状文2から3段	—	—	残2.8	④	淡灰白	良好	1/10	
88-9		土壇	279		壺 口縁部	外) 頸部に沈線で山形に区画し、その内部をタテとヨコの沈線で充填する	—	—	残7.2	④	淡灰白	やや不良	1/8	
88-10		土壇	291		壺 胸部 上半	外) 櫛刺突列点文の直線を沈線で弧状に区切り、流水文状にする 内) ユビオサエ	—	—	残2.6	②	淡茶褐	良好	1/16	15とは区切る場所が異なる

第2節 遺物各説

番号	図版 番号	出土遺構	グリ ッド	器 種・ 器 形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎 土	色調	焼成	残存 率	備考
88-11	73-1	土壇	292		甕 口縁部	口縁端部に面をつくる立上りの しつかりした受口状口縁 外) 口縁をナナメハケ、以下タテ ハケのち頸部に直線文 内) ヨコハケ	17.2	—	残7.6	①	暗茶褐	良好	1/3	
88-12	73-1	土壇	292		壺 胴部 上半	外) ナナメハケの後櫛描直線文 (4本)を間隔をあけて4帯 内) ヨコハケ	—	—	残6.6	③	褐	良好	1/4	
88-13	73-1	土壇	292		壺 底部	外) ナナメハケの後、底部からの 立上りをヨコハケ	—	7.2	残2.8	④	橙褐	やや 不良	1/2	
88-14	73-2	土壇	292		壺 口縁部	外) 口縁端面に羽状ヘラ刺突列点 文 内) 羽状櫛刺突列点文 (条線細か い)	—	—	残3	③	淡茶褐	良好	1/8	
88-15	73-2	土壇	293		甕 口縁部	外) 櫛刺突列点文の直線を沈線で 弧状に区切り、流水文状にする 内) ユビオサエ	—	—	残2.8	①	淡茶褐	良好	1/16	10とは区切る場所が 異なる
88-16	73-2	土壇	293		壺 胴部 上半	外) 櫛描直線文 (6から7本) 2段 の上に扇形文	—	—	残3.6	②	橙褐	良好	1/16	
88-17	73-1	土壇	293		甕 口縁部	外) 口縁端部にヘラ刻み目、以下 タテハケ 内) ヨコハケの後波状文2段	—	—	残2.2	③	淡褐	良好	1/8	
88-18	73-2	土壇	295		壺 頸部	外) 頸部に沈線で山形に区画し、 その内部をタテとヨコの沈線で充 填する	—	—	残6	④	淡褐	やや 不良	1/8	
88-19		土壇	299		壺 胴部 上半 ?	外) 羽状文の間に1条の沈線	—	—	残4.8	④	淡褐	良好	1/4	
88-20	73-2	土壇	295		壺 口縁部	外) 口縁下端にヘラ?刻み目、沈 線1条以上 内) 上下反対方向に両端が跳ねる 4本の沈線を櫛刺突列点文ではさ む	—	—	残2.2	①	淡茶褐	良好	1/16	
88-21	73-2	土壇	295		壺 胴部 上半	外) 8本以上の沈線の下に櫛刺突 列点文	—	—	残2.8	①	淡茶褐	良好	1/16	
88-22	73-2	土壇	295		壺 口縁部	外) 口縁端面に1条の沈線の後下 端から櫛刺突列点文; 以下タテハ ケ 内) 羽状斜行短線文	—	—	残3	④	橙褐	良好	1/12	
88-23	73-2	土壇	295		壺 頸部	外) 櫛描直線文 (3本?) の下に 刺突列点文を2段	—	—	残3.6	③	淡茶褐	良好	1/16	
88-24	73-2	土壇	295		壺 口縁部	袋状口縁 外) 袋状口縁の両側 を沈線でうめる	—	—	残3.2	③	灰白	良好	1/10	
88-25	73-2	土壇	297		広口 壺 口縁部	外) 垂下する口縁の中と下端にヘ ラ刺突列点文 内) 波状文 (6~8本) をタテに直 線で切る	—	—	残3.2	③	灰白	良好	1/16	
88-26		土壇	299		壺 口縁部	内) 刺突列点文の下に沈線	—	—	残2.8	③	淡褐	やや 不良	1/16	
89-1		土壇	306		壺	外) ナナメハケ。口縁部ハケ後ナ デ。頸部に2ヶ所穿孔あり紐孔 か? 内) ナナメハケ 口縁部ナデ	20.8	—	(22.3)	①	黄褐	良好	1/3	紐孔は2ヶ所1組 対 面で2対か? スス付着 黒斑あり
89-2	72	土壇	306		壺	口縁端部で上方に摘み上げ 外) ナナメハケ、口縁部にナデ。 肩部に線刻の鹿 内) 口縁部ナデ、上半部ハケ後指 頭圧痕、下半部ヨコハケ	8.0	—	26.0	①	暗茶褐	良好	2/3	微細写真 図版第99 鹿の角上に列点、そ の上に線刻あり スス付着 黒斑あり 底部葉脈痕?
89-3		土壇	306		壺 下半 部	外) ナナメハケ 内) ヨコハケ(条痕文?) 底部ナ デ	—	—	残13.3	②	暗茶褐	良好	下半 部1/2	スス付着 底部穿孔
89-4	72	土壇	306		壺 口縁 部欠 損	外) ナナメハケ、肩部に線刻の鹿 (不明瞭) 内) ナナメハケ 上下端はナデ	—	—	残21.7	①	黄橙褐	良好	胴部 1/2	微細写真 図版99 スス付着 内面黒斑 あり
89-5	69	土壇	317		甕	口縁部1ヶ所押圧後2点刺突する 外) タテ及びナナメハケ 内) 口縁部ナナメハケ 以下ナデ	19.6	—	残23.8	①	赤褐	良好	3/4	

第4章 遺物

番号	図版 番号	出土遺構			グリ ッド	器 種・ 器形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎 土	色調	焼成	残存 率	備考
91-1	72	土壇	316		4	G	壺 口縁部～ 肩部	口縁下端部にへら刻み目 外) タテハケ 頸部にヨコハケ 内) ヨコハケ	18.6	—	残17.0	①	淡褐	やや 不良	上半 部1/2	
91-2	72	土壇	316				甕 口縁部～ 胴部	口縁部にへら刻み目 外) タテハケ(条痕文系?) 内) ヨコハケ	26.2	—	残17.4	④	灰褐	良好	上半 部1/2	スス付着
91-3	69	土壇	316				甕	外) タテハケ 内) ヨコハケ	14.2	—	(19.5)	④	黄灰	良好	1/3	スス付着
91-4		土壇	346				壺	口縁下端部にへら刻み目 外) ナデ。一部にハケが残る。頸 部に櫛描直線文3帯、櫛描波状文1 帯、底部ミガキ 内) ナデ	17.0	—	(32.9)	②	赤褐	不良	1/4	
91-5	72	土壇	320				甕 口縁部～ 頸部	口縁部は屈曲しわずかに上方に上 げる。端部を面取りする。一部押 圧し突起を作る。 外) 粗いナメハケ。一部押圧 内) ヨコハケ、口縁部に櫛描波状 文	(28.2)	—	残10.9	②	明灰褐	やや 良	1/6	雲母
91-6	72	土壇	320				甕	口縁部にへら刻み目 外) ヨコ及びタテハケ 一部に波 状文が見られる 内) ヨコハケ	(19.8)	—	(25.7)	②	黄灰	良好	1/5	底部穿孔
92-1	74-1	土壇	312				広口 壺 口縁部	外) 幅広の口縁帯は無文、頸部に 櫛描直線文(4本以上)	17	—	残5.2	④	淡灰白	良好	1/4	
92-2	74-1	土壇	312				甕 口縁部	外) 口縁端部に波状文? 以下タ テハケ 内) ヨコハケの後波状文	20.2	—	残3.2	③	淡灰白	やや 不良	1/8	
92-3		土壇	308				鉢 口縁部	外) タテハケ?	17	—	残4.6	③	淡褐	良好	1/6	
92-4	74-1	土壇	310				壺 口縁部	外) 頸部に櫛描直線文(4本)を 間隔をあけて2帯	—	—	残6	③	淡灰白	良好	1/6	
92-5	74-1	土壇	318				甕 口縁部	口縁の一部を山形として、端部上 下両端にへら刺突列点文 外) タテハケ、頸部に直線文 内) ヨコハケの後波状文2段	—	—	残4	①	暗茶褐	良好	1/6	
92-6	74-1	土壇	307				甕 口縁部	外) 口縁端部に櫛刺突列点文? 内) ヨコハケの後波状文	20	—	残4	③	褐	良好	1/8	
92-7	74-1	土壇	307				壺 胴部上 半	外) 沈線をはさんで羽状に沈線を 加える	—	—	残4.2	④	褐	やや 不良	1/8	
92-8	74-1	土壇	307				甕 口縁部	外) ヨコハケで口縁を幅広にし、 以下タテハケ 内) ヨコハケ	—	—	残3.6	②	暗茶褐	良好	1/8	
92-9	74-1	土壇	307				広口 壺 口縁部	焼成前穿孔1個あり 外) 口縁端部を下へ拡張し、斜め の櫛刺突列点文(7本) 内) 端部上端に円形刺突列点文、 その内側に羽状刺突列点文(6 本?)を施文し、その上に円形浮 文を貼り付ける	—	—	残2.2	②	赤褐	良好	1/8	
92-10	74-1	土壇	319				壺 口縁部	口縁を山形に水平に突出させその 頂部を円形に刺突を加える 外) 口縁下端に弧状にへら沈線を 7本 内) 4本の沈線を重ねた楕円の文 様を櫛刺突列点文ではさむ	—	—	残2.2	①	暗茶褐	良好	1/10	
92-11	74-1	土壇	319				甕 口縁部	外) 口縁端部に波状文、以下タテ ハケ 内) ヨコハケの後波状文	—	—	残2.6	②	暗茶褐	良好	1/8	
92-12	74-1	土壇	328				壺 胴部上 半	外) 櫛描直線文(8本)を間隔を あけて2帯に櫛描波状文(8本)の ほかタテハケ	—	—	残6.6	③	淡灰白	良好	1/4	
92-13	74-2	土壇	320				甕 口縁部～ 胴部上 半	外) 口縁端部施文不明? タテハケ の後頭部に直線文 内) ヨコハケの後波状文	17	—	残8.2	③	淡褐	良好	2/3	
92-14	74-2	土壇	320				甕 口縁部	外) ヨコハケで口縁を幅広にす る。その他は摩滅にて不明	—	—	残5.8	③	淡褐	良好	1/6	

第2節 遺物各説

番号	図版 番号	出土遺構	グ リ ン ド	器 種 ・ 器 形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎 土	色調	焼成	残存 率	備考
92-15	74-2	土壇	320		壺 口縁部	袋状口縁 外) 棒状浮文を貼付て細かい櫛描波状文、以下タテハケ	—	—	残4.2	③	淡褐	良好	1/10	
92-16	74-2	土壇	320		壺 口縁部	外) 口縁端部にヘラ刻み目、頸部に櫛描直線文(6本)3段内) ヨコハケ	12.4	—	残8.2	④	淡褐	良好	口縁部1/1	
92-17	74-2	土壇	320		壺 口縁部	頸部が強く屈曲し、口縁が短くひらく。 外) 口縁端部にヘラ刻み目、以下ヨコナデ	15.4	—	残4.6	③	淡褐	良好	1/3	
92-18	74-2	土壇	320		甕 口縁部	外) 口縁端部にヘラ刺突列点文?の後ヨコハケ、または1条の沈線、以下タテハケ内) ヨコハケの後波状文3段	—	—	残4.2	②	暗茶褐	良好	1/12	
92-19	74-2	土壇	320		甕 口縁部	外) 口縁端部にヨコハケ、以下タテハケ内) 端部をヘラ刻み目、以下ヨコハケの後波状文(7~8本)	—	—	残3.2	③	暗茶褐	良好	1/10	
92-20	74-2	土壇	320		甕 口縁部へ 胴部 上半	頸部がほとんど屈曲しないで、口縁もわずかにひらく。 外) 口縁を幅広にし、ヨコハケ、以下タテハケの後頸部に直線文(条線数は一定ではない)内) ヨコハケ	22	—	残8.4	④	褐	良好	1/5	
92-21		土壇	342		高坏 脚部	外) タテハケ 内) ハケ	—	3.8	残7	③	褐	良好	脚部1/1	
93-1	75-1	土壇	331		甕 口縁部	外) タテハケ 内) ハケ	—	—	残2.8	③	暗茶褐	良好	1/8	
93-2	73-2	土壇	338		壺 口縁部へ 頸部	外) 口縁帯無文、頸部に櫛描直線文(7から8本)内) ヨコハケ	17.2	—	残7.2	③	灰白	良好	1/2	
93-3	75-1	土壇	338		壺 口縁部	外) やや肥厚した口縁上端面に櫛描直線文(条線数不明)、頸部に間隔をあけて櫛描直線文(4本)を4帯 内) ヨコハケ	—	—	残7.8	③	暗茶褐	良好	1/6	
93-4	75-1	土壇	338		甕 口縁部	外) 口縁端部にヘラ刻み目を加え、以下をタテハケ内) ヨコハケの後波状文	—	—	残4.6	③	橙褐	やや不良	1/6	
93-5	75-1	土壇	345		甕 口縁部	外) 口縁端部にヨコハケ、以下タテハケ 内) ヨコハケの後波状文(3~4本)	—	—	残3.2	③	暗茶褐	良好	1/10	
93-6	74-2	土壇	336		甕 口縁部	外) 口縁端部にヘラ刺突列点文の後ヨコハケ?以下タテハケ内) ヨコハケの後波状文2段	—	—	残7	③	暗茶褐	良好	1/8	
93-7	75-1	土壇	336		高坏 脚部	「ハ」の字状に開く脚部の上半部	—	—	残6.8	③	灰白	良好	脚部1/1	後期の土器が混入か?
93-8	75-1	土壇	336		甕 口縁部	頸部の屈曲が「く」の字 外) 口縁下端部にヘラ刻み目、以下ナメハケ 内) ヨコハケ	—	—	残4.4	③	暗茶褐	良好	1/12	
93-9	75-1	土壇	336		壺 口縁部へ 胴部 上半	胴部上半からほとんど直立して口縁となり、端部を沈線状に窪む 外) タテハケ 内) ユビオサエの後ヨコハケ	9.4	—	残7.6	③	暗茶褐	良好	1/3	
93-10	75-1	土壇	339		壺 口縁部	口縁端部が僅かに立上る 外) 櫛刺突列点文(5本)内) ヨコハケ	—	—	残3.2	③	淡褐	良好	1/4	
93-11	75-1	土壇	339		広口 壺	外) 端面に櫛描直線文(5本以上)の後、口縁下端に指で連続押圧 内) ヨコハケ	26.2	—	残3.4	③	橙褐	良好	1/6	
93-12		土壇	347		甕 口縁部	端部幅広 外) タテハケ 内) ヨコハケの後波状文	—	—	残3.2	③	灰白	良好	1/8	
93-13		土壇	347		甕 口縁部	端部摩滅 外) タテハケ 内) ヨコハケの後波状文	—	—	残3	②	暗茶褐	良好	1/12	
93-14	75-1	土壇	347		甕 口縁部	口縁端部にヘラ刻み目の後下端をさらに大きく3箇所刻む 外) タテハケ 内) ヨコハケの後波状文	—	—	残3.4	③	暗茶褐	良好	1/10	

第4章 遺物

番号	図版番号	出土遺構		グ リ ド	器 種 ・ 器 形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎土	色調	焼成	残存率	備考
94-1	76	溝	11	5	H	壺 口縁部～ 頸部	袋状口縁 外) 条痕文 口縁部上、条痕波状文、棒状浮文。口縁部下、指頭圧による波状文。頸部、断面三角形の貼り付け突帯、6.3cmごとに指頭圧痕 内) ナデ 口縁部上、貝殻押し引き文。口縁部下、条痕直線文	27.7	—	残12.8	②	茶褐	やや不良	口縁部2/3	
94-2	76	溝	11	4	H	壺 口縁部～ 頸部	口縁端部で内側に肥厚 外) 条痕文 口縁部、ナデ。頸部、へら描き沈線2本、間に連続刺突文、その下にへら描き斜線文 内) ナデ	11.8	—	残10.2	①	灰褐	良好	口縁部4/5	
94-3	76	溝	11			壺 口縁部欠損	外) 条痕文 頸部、上から5本沈線、羽状文、区画沈線、重弧文、縦及び斜線文、重弧文 内) ナデ	—	7.2	残44.3		暗茶褐	やや不良		微細写真 図版100
94-4	76	溝	11	5	G	壺 口縁部、 底部欠損	外) ハケ 5～6条クシガキ横線5帯間に刻み目を持つ貼り付け突帯5～6条縦波状文10帯 2帯1セットか？ 内) ナデ 指頭圧痕	—	—	残22.4	③	薄褐	やや不良	1/2	微細写真 図版99・100
94-5	76	溝	34A群			壺	口縁部は摘み上げ、内側に内湾する。 外) 表面をミガキで調整した後、7本の沈線で胴部を区画し、中を櫛描直線文などで充填する。上から櫛描波状線、櫛描直線文を施す。胴部の櫛描直線文の1帯目内には縦櫛描直線文と縦波状文、2帯目には重弧文と縦波状文、3帯目には中間で屈曲する櫛描文と縦波状文が組み合わせられ施される。 内) ヨコハケ	8.5	7.0	31.2	①	褐	良好	ほぼ完形	微細写真 図版99雲母？
94-6		溝	5			鉢	口縁端面取り 外) タテミガキ 内) ヨコミガキ	10.0	3.4	5.1	①	淡茶褐	良好	1/3	
95-1	77	溝	36	8	F	甕 胴部欠損	外) ナナメ及びタテハケ 底部横に穿孔あり。 内) 不明	(15.7)	4.2	(21.9)	③	淡褐	やや不良	1/5	
95-2	77	溝	4			壺	外) 口縁部はナデの後、端部に沈線を施す。ナデのしたにへら刺突列点文、以下はナナメハケ 内) 口縁部はナデ、頸部ヨコハケ、胴部ケズリ？	11.9	3.3	25.0	②	黄灰	やや良	1/3	
95-3	77	溝	11			壺	外) ナナメハケ 内) ナナメ及びヨコハケ	13.5	5.4	27.1	③	淡褐	やや不良	ほぼ完形	
95-4	77	溝		4	H	壺 口縁部～ 肩部	口縁帯にへら刻み目を加える 外) タテ及びナナメハケ 内) ヨコ及びナナメハケ	14.2	—	残15.5	③	淡褐	やや不良	口縁部1/3	
95-5	78	溝	11	5	G	鉢	外) 上から、櫛描直線文(7本)、へら刺突列点文、櫛描直線文(4本) 櫛描波状文(4本)、へら刺突列点文を施す。以下はナナメハケ。 内) ナデ、一部ハケが残る。	(23.9)	8.4	(17.2)	④	淡褐	やや不良	1/4	
95-6	78	溝	11	5	G	甕 口縁部～ 胴部	口縁部内面4ヶ所に突起状に貼り付ける。 外) 口縁帯に2～3条の櫛描波状線。胴部は上から簾状文(1本)、櫛描直線文(6本)、波状文(3本)の1セットで施文。口縁部突起から下に縦の簾状文が伸びる。 内) 上から簾状文(6本)、櫛描波状文(4～5本)、ヨコハケが施される。	30.0	—	残15.2	①	灰褐	やや良	7/8	
95-7	77	溝		8	E	甕 口縁部～ 胴部	外) 口縁をナナメハケでやや面取りして立上げ、以下はタテ及びナナメハケ、頸部に櫛描直線文(18本)を施す。 内) ヨコハケ	(23.4)	—	残21.9	②	淡黄灰	やや不良	2/3	

第2節 遺物各説

番号	図版 番号	出土遺構		グ リ ン ド	器 種 ・ 器 形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎 土	色調	焼成	残存 率	備考
96-1	77	溝	16			甕	口縁下端にヘラ刻み目を加える 外) 頸部はタテハケ、肩部はヨコハケ、以下はナナメハケ 内) 口縁部から頸部にかけてナナメもしくはヨコハケ、以下はナデ	19.1	4.8	(28.3)	①	褐色・赤褐	良好	1/3	
96-2	78	溝	11	13	I	壺	外) ヘラ描の沈線(現状3本)で上下に区画し、区画内にヘラ描斜格子文等が施される。以下はタテ及びヨコハケ(条痕文系?) 内) ナデ	14.1	3.5	(26.4)	③	暗褐	やや良	1/5	
96-3	78	溝	11	10	H	口縁部欠損 壺	若干外傾する有段口縁。 外) 口縁帯は無文でナデ、以下はナナメハケ。 内) 一部ハケが残る。	—	6.2	残26.0	②	淡褐	やや不良	1/3	
96-4	78	溝	16C群2			甕	有段口縁。2条の擬凹線文。 外) ナナメハケ 内) 不明	17.0	5.0	(28.1)	③	暗褐	やや不良	1/3	
97-1	82-1	溝	11	9	H	口縁部 壺	口縁を山形に水平に突出させその頂部を円形に刺突を加える 外) 口縁下端に弧状にヘラ沈線を7本 内) 4本の沈線を重ねた楕円の文様を櫛刺突列点文ではさむ	—	—	残1.2	①	暗茶褐	良好	1/10	
97-2	82-1	溝	11	4	G	口縁部 壺	外) 口縁下端にヘラ刻み目 内) 8本以上の沈線で箱重ね	—	—	残2.2	①	暗茶褐	良好	1/12	
97-3	82-1	溝	11	5	H	口縁部 壺	外) 口縁下端にヘラ?刻み目、沈線5条 内) 9本の沈線を櫛刺突列点文ではさむ	—	—	残1.5	①	暗茶褐	良好	1/12	
97-4	82-1	溝	11	8	H	口縁部 壺	外) 沈線8条 内) 屈曲する3から4本の沈線を櫛刺突列点文ではさむ	—	—	残2.4	①	暗茶褐	良好	1/12	
97-5	97-2	溝	11	6	H	胴部上半 壺	口縁端面にヘラ刺突 外) 弧状?の沈線 内) 箱重文?	—	—	残1.8	①	暗茶褐	良好	1/16	
97-6	82-1	溝	11			胴部上半 壺	外) 櫛描直線文(5本)2段の上に扇形文	—	—	残7.4	③	橙褐	良好	1/6	
97-7	82-1	溝	16	4	H	口縁部 壺	外) 口縁端面無文 内) 羽状櫛刺突列点文	—	—	残2.6	③	淡灰白	良好	1/6	
97-8	82-1	溝	16	3	H	胴部中 壺	外) 羽状の沈線の中に1条の沈線	—	—	残3.7	①	淡褐	やや不良	1/20	
97-9	82-1	溝	11	6	H	胴部上半 壺	外) 胴部中ほどの瘤状突起に山形の沈線を結束	—	—	残4	③	灰白	良好	1/8	
97-10	82-1	溝	16	3	I	胴部上半 壺	外) 3条の沈線の下にナナメの沈線を重ねる	—	—	残4.8	②	淡褐	良好	1/8	
97-11	82-1	溝	16	3	H	胴部上半 壺	外) 3条の沈線の下にナナメの沈線を重ねる	—	—	残3.6	②	淡褐	良好	1/10	
97-12	82-1	溝	11			口縁部 甕	口縁の上端面を強く押さえた受口状口縁 外) 口縁の立上りに櫛刺突列点文	—	—	残5.1	①	暗茶褐	良好	1/8	
97-13	82-1	溝	11	14	I	口縁部 器台	ラッパ状に開く筒部をさらに屈曲させて外反し有段口縁とする。 外) 口縁帯に7本の沈線	—	—	残7.7	③	橙褐	やや不良	1/8	
97-14	82-1	溝	11	12	I	口縁部 器台	ラッパ状に開く筒部をさらに屈曲させて外反し有段口縁とする。 外) 口縁帯に8本の沈線	—	—	残4.4	④	灰白	良好	1/10	
97-15	82-1	溝	16			胴部上半 壺	外) タテハケの後に櫛描直線文(7本)の下にヘラ描斜格子文	—	—	残4.2	③	淡灰白	良好	1/12	
97-16	98-2	溝	16	3	H	口縁部 壺	外) 上下に口縁帯を拡張させ、3もしくは4本の擬凹線文を施文の後、円形竹管文を、2個1対で連続する?	—	—	残2.8	①	淡灰白	良好	1/10	
97-17	82-1	溝	11	19	I	口縁部 壺	外) 上下に口縁帯を拡張させ、3もしくは4本の擬凹線文を施文の後、円形竹管文を、2個1対で連続する	—	—	残3.2	④	淡灰白	良好	1/8	
97-18	82-1	溝	16	4	H	口縁部 壺	外) 上下に口縁帯を拡張させ、4本の擬凹線文を施文の後、円形竹管文を2個1対で連続する	—	—	残1.6	③	淡灰白	良好	1/6	

第4章 遺物

番号	図版番号	出土遺構			グリッド	器種・器形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎土	色調	焼成	残存率	備考
97-19	82-1	溝	16		5	I	甕 口縁部	口縁の上端面を強く押さえた受口状口縁 外) 口縁外面に櫛刺突列点文	—	—	残2.5	③	灰白	良好	1/6	近江からの搬入品の可能性
98-1	80-1	溝	11		6	G	壺 口縁部	袋状口縁 外) 口縁端部を内側へ突出させ、沈線で区画して山形文を施文する？口縁外面に沈線(7本)で箱重ねし、立上りを条痕の後連続指押圧内) ユビナデ	—	—	残4.6	③	灰白	やや不良	1/6	
98-2	80-1	溝	11		6	H	壺 口縁部	袋状口縁 外) 口縁端部を内側へ突出させ、山形文と箱重ねを施文する。口縁帯の上に沈線を加えた瘤状突起を2個1対で加え、その下に山形文、その間に箱重ねを沈線で施文する。立上りには連続指押圧し、以下はタテ条痕内) ヨコ条痕の後、タテ沈線を加え、口縁付近のみナナメに条痕調整	—	—	残4.2	③	灰白	やや不良	1/8	
98-3	79-1	溝	11		5	G	壺 胴部上半	外) 櫛描直線文(5から7本)を弧状に区切って、流水文とする	—	—	残4.1	③	褐	良好	1/12	
98-4	79-2	溝	11		8	H	広口壺 口縁部	外) 口縁端部にハケに近い櫛描直線文の後上下両端にヘラ刺突列点文を加える。以下はタテハケ内) ヨコハケの後、口縁全体にヘラを束ねてような刺突列点文ちりばめる	—	—	残3.2	④	橙褐	やや不良	1/6	
98-5	79-1	溝	11				壺 口縁部	外) 口縁下端にヘラ刺突列点文、さらに続いてタテハケの後3段以上のヘラ刺突列点文内) 羽状刺突列点文2段	—	—	残3	③	淡灰白	良好	1/12	
98-6	79-1	溝	11		8	H	壺 口縁部	口縁部をヨコハケ？の後両上下面にヘラ刺突列点文 外) 刺突列点文を連続する 内) 羽状刺突列点文2段以上	—	—	残1.6	③	淡灰白	良好	1/10	
98-7	79-1	溝	11		6	H	壺 胴部上半	外) 羽状刺突列点文を数段重ねたあと櫛描直線文(3本)にさらに刺突列点文	—	—	残6	③	淡灰白	良好	1/8	
98-8	80-1	溝	11		6	H	壺 口縁部	袋状口縁 外) 口縁端部を内側へ突出させ、山形文と箱重ねを施文する。口縁帯の上に沈線を加えた瘤状突起を2個1対で加え、その下に山形文、その間に箱重ねを沈線で施文する。立上りには連続指押圧し、以下はタテ条痕内) ヨコ条痕の後、口縁付近のみナナメに条痕調整	—	—	残6.7	③	灰白	やや不良	1/4	
98-9	80-1	溝	11		4	H	壺 頸部	外) やや膨らませた位置にヘラ羽状刺突列点文し、その上下に沈線数条	—	—	残7.6	③	淡黄褐	良好	1/4	
98-10	80-1	溝	11		4	H	壺 頸部	外) やや膨らませた位置にヘラ羽状刺突列点文し、その上に沈線数条	—	—	残5.4	①	暗茶褐	良好	1/8	
98-11	80-1	溝	11		4	H	壺 胴部？	外) 数条の沈線の間にタテの沈線を充填し、この中央を沈線で切る	—	—	残5.4	②	暗茶褐	良好	1/12	
98-12	80-1	溝	11		6	H	壺 胴部上半	外) 1条の沈線の上下にナナメの沈線を羽状に施文	—	—	残6.7	④	褐	良好	1/8	
98-13		溝	11		5	G	壺 胴部上半	沈線の上にナナメの沈線(羽状文)	—	—	残3.4	①	淡褐	良好	1/20	
98-14	80-1	溝	11		4	H	壺 胴部上半	沈線の下にナナメの沈線(羽状文)	—	—	残2.1	②	淡茶褐	良好	1/20	
98-15	80-1	溝	11		7	H	壺 胴部上半	沈線の下に羽状沈線	—	—	残4.8	③	淡茶褐	良好	1/16	
98-16	79-1	溝	11		8	H	壺 頸部	外) 刺突列点文を数段重ねる 内) 羽状刺突列点文	—	—	残4.2	④	淡灰白	良好	1/8	

第2節 遺物各説

番号	図版 番号	出土遺構			グリ ッド	器 種・ 器形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎 土	色調	焼成	残存 率	備考
98-17	79-1	溝	11		8	H	壺 頭部	外) 刺突列点文を数段重ね、一部 櫛描直線文をはさむ 内) 羽状刺突列点文	—	—	残4.8	③	淡灰白	良好	1/4	
98-18	79-1	溝	11				壺 口縁部	外) 強いユビナデで2本の突線を 回らす	—	—	残3.2	③	灰白	良好	1/16	
98-19	79-1	溝	11		5	G	壺 胴部 上半	外) 櫛刺突列点文3段 内) ヨコハケのち刺突列点文	—	—	残8.8	①	暗茶褐	良好	1/8	
98-20	80-1	溝	11		5	H	壺 胴部 上半	外) 櫛描(4本)の波状文と直線 文を交互に重ねる 内) ユビナデ	—	—	残7.2	③	淡褐	良好	1/12	
98-21	80-1	溝	11				壺 胴部 上半	外) 櫛描直線文(6から8本)2段 の下に櫛刺突列点文	—	—	残6.8	③	淡茶褐	良好	1/6	
98-22		溝	11		5	H	壺 口縁部	口縁端部に明瞭な平坦面をつくら ない 外) 摩滅で不明 内) 羽状の櫛刺突列点文2段	—	—	残2.8	③	橙褐	良好	1/8	
98-23	79-1	溝	11				甕 口縁部	外) 口縁端部にヨコハケの後一部 に波状文、以下タテハケ 内) ヨコハケの後?波状文	—	—	残2.4	③	暗茶褐	良好	1/12	
98-24	79-1	溝	11		6	H	壺 口縁部	外) 口縁下端に刺突列点文、以下 にタテの沈線を重ねる 内) ヨコハケの後向きを変えた羽 状櫛刺突列点文	—	—	残3	④	橙褐	良好	1/8	
98-25	79-1	溝	11		4	G	壺 胴部 上半	外) 2本1対の櫛描直線文を4段重 ね、上に同じ櫛描直線の縦区画、 下に扇形文	—	—	残5.4	②	淡褐	良好	1/6	
98-26	80-1	溝	11		5	H	壺 胴部 上半	外) 櫛描(9本)の直線文と波状 文を交互に重ねる	—	—	残9.4	③	橙褐	良好	1/8	
98-27	79-1	溝	11		11	H	壺 口縁部	外) 口縁をやや上下に拡張し、端 面にヘラ刺突列点文	—	—	残3	③	橙褐	良好	1/12	
98-28	79-1	溝	11		5	H	壺 胴部 上半	外) 櫛描直線文(7本)2段の下に 櫛描波状文(7本)	—	—	残7	③	淡茶褐	良好	1/6	胎土より東海からの 搬入品の可能性
98-29	79-2	溝	11		4	H	甕 口縁部	外) 口縁端部に櫛刺突列点文、以 下はタテハケ 内) ヨコハケ	21.8	—	残9.1	④	褐	良好	1/5	
98-30	79-2	溝	11		4	H	甕 口縁部	外) 口縁端部に櫛刺突列点文?以 下はタテハケ 内) ヨコハケ	17.8	—	残8	③	淡褐	やや 不良	1/7	
98-31	79-2	溝	11		11	H	甕 口縁部	頸部の屈曲が直角に近く、口縁が ほぼ水平に伸びる 外) 細く弱い タテハケ 内) ユビナデ	17	—	残8	③	褐	良好	1/6	
98-32	79-2	溝	11		10	H	甕 口縁部	外) 口縁端部にヘラ刺突列点文、 タテハケの後櫛描直線文(4本) と櫛描波状文(4本)、さらに同 じ直線文?	18.6	—	残7.2	④	淡褐	良好	1/4	
98-33	79-2	溝	11		7	H	壺 口縁部	口縁端部を大きく押し上げ山形口 縁とする 外) 口縁部に沈線文 はさんだ羽状沈線、頸部以下に2 条の沈線ではさんだ2段の刺突列 点文 内) 口縁部にヘラ刺突列 点文3段	—	—	残7.4	④	淡褐	良好	1/8	
98-34	79-1	溝	11		4	G	甕 口縁部	外) 口縁端部にヘラ刺突列点文、 以下にタテハケ 内) ヨコハケの後波状文2段	—	—	残6.2	②	淡褐	良好	1/8	
98-35	79-1	溝	11		5	I	壺 底部	Xのヘラか?	—	—	残2.8	③	橙褐	良好	底部 1/4	
99-1	81-1	溝	6		12	G	甕 口縁部	外) ヨコハケで口縁部を幅広くす る。 内) 波状文2段?	—	—	残3	②	淡灰白	良好	1/10	
99-2	80-2	溝	7				壺 口縁部	外) 口縁端部にヘラ刺突列点文	—	—	残2.6	④	橙褐	良好	1/8	
99-3	80-2	溝	5				壺 口縁部	外) 垂下させた口縁端部に3条の 擬凹線文の後円形竹管文	—	—	残1.4	①	淡灰白	良好	1/8	
99-4	81-1	溝	12				甕 口縁部	口縁を上へ押圧して山形に突起さ せる 外) タテハケ 内) 突起にあわせて向きを逆にし た羽状櫛刺突列点文	—	—	残4.3	③	淡灰白	良好	1/8	
99-5	80-2	溝	9				壺 胴部 上半	横向きのヘラ刺突列点文の下にナ ナメ沈線、もしくは条痕の跳ね上 げ文?	—	—	残6.2	③	淡褐	良好	1/6	微細写真 図版99

第4章 遺 物

番号	図版 番号	出土遺構			グリ ッド	器 種・ 器 形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎 土	色調	焼成	残存 率	備考
99-6	81-1	溝	17		10	F	壺 口縁部	外) 端面にヘラで山形文、以下、 タテハケ 内) ヨコハケ	—	—	残1.8	④	橙褐	良好	1/8	
99-7	80-2	溝	17		10	F	壺 口縁部	袋状口縁 外) 2本の沈線で縦に区画し、横 の沈線を充填し、立上りにヘラ刺 突列点文、以下はナナメの条痕	—	—	残2.8	④	灰	良好	1/8	
99-8	81-1	溝	17		10	F	甕 口縁部	口縁端部に櫛刺突列点文 外) タテハケ 内) 沈線の楕円文	—	—	残3	③	淡灰白	良好	1/6	
99-9	81-1	溝	17		10	F	壺 口縁部	外) 端面に櫛刺突列点文 内) 2個1対の瘤状突起、2段の羽 状櫛刺突列点文	—	—	残5.7	④	淡灰白	やや 不良	1/3	16とは胎土色調もこ となり別個体
99-10	80-2	溝	14		13	F	壺 口縁部	外) 口縁下端にヘラ刺突列点文、 沈線で山形に充填	—	—	残2.2	①	暗褐	良好	1/16	
99-11	80-2	溝	16		4	H	壺 頸部	外) 羽状ヘラ刺突列点文	—	—	残3.2	②	淡褐	良好	1/8	
99-12	81-2	溝	26		13	D	壺 口縁部	外) 口縁下端にヘラ刺突列点文、 沈線で山形に充填した下を、刺突 列点文を加えた凸帯状に膨らませ る	—	—	残4.2	②	暗褐	良好	1/8	
99-13	81-1	溝	17		10	F	甕 口縁部	外) 口縁端部にヘラ刻み目、タテ ハケ 内) 波状文の後ヨコハケ	—	—	残3.6	③	淡灰白	良好	1/4	
99-14	81-1	溝	35		6	J	甕 口縁部	外) 口縁と頸部に櫛刺突列点文、 タテハケ 内) 頸部ヨコハケ	—	—	残5	①	淡褐	良好	1/6	
99-15	80-2	溝	36		8	F	壺 頸部	刺突列点文を沈線で区画	—	—	残5.8	②	淡灰白	良好	1/4	
99-16	81-1	溝	32		10	J	甕 口縁部	外) 口縁端部にヘラ刺突列点文 内) 瘤状突起、2段の羽状櫛刺突 列点文	—	—	残4.2	③	橙褐	良好	1/8	9とは胎土色調もこ となり別個体
99-17	80-2	溝	32		10	J	壺 胴部 上半	外) 一条の沈線をはさんで羽状沈 線	—	—	残5.6	④	橙褐	良好	1/8	
99-18	81-1	溝	51		7	G	壺 口縁部	外) 垂下させた口縁下端に櫛刺突 列点文、以下をタテハケ 内) 羽状櫛刺突列点文	—	—	残1.8	③	橙褐	良好	1/8	
99-19	81-2	溝	45		9	G	壺 口縁部	大きく幅広く立ち上げた口縁帯 外) 口縁上端をヘラ刺突列点文、 5本の沈線の箱重ねのなかに刺突 列点文	—	—	残3.6	③	灰白	良好	1/8	
99-20	81-1	溝	94		4	G	甕 口縁部	外) 口縁端部ヨコハケ、以下はタ テハケ 内) ヨコハケの後波状文	—	—	残1.6	①	淡灰白	良好	1/6	
99-21	80-2	溝	32		9	J	無 頸 壺 口縁部	短く立上がった口縁に面をつく る。径5mmほどの孔を2個1対、外 側から焼成前に穿孔	11.2	—	残4	①	淡灰白	良好	1/4	
99-22	81-1	溝	47				甕 口縁部	幅広の口縁をヨコハケ、端部の平 坦面にヘラ刻み目 外) タテハケ 内) ヨコハケ	22	—	残3.8	③	暗褐	良好	1/4	
99-23	81-2	溝	47				壺 口縁部 ～ 頸部	袋状に立ち上げた口縁に2本の棒状 浮文、頸部にヘラ刺突列点文を加 えてタテハケ 内) ヨコハケ	15.6	—	残6.8	③	橙褐	良好	1/6	
99-24	81-2	溝	47				高 坏 口縁部	立ち上げた口縁端部を押さえてヨ コナデし、4条の沈線を凹線とす る。タテミガキ 内) 口縁部ヨ コミガキ、底部タテミガキ	18.8	11	16.2	③	橙褐	良好	1/4	
99-24	81-2	溝	47				高 杯 脚部	外) 端部を押さえて上へ肥厚し、 平坦面をつくる 内) ヨコケズリ	—	—	—	③	橙褐	良好	2/3	
99-25	80-2	溝	47				壺 頸部	外) 刺突列点文を加えた2条の凸 帯	—	—	残3.6	①	橙褐	良好	1/5	
99-26	81-2	溝	63		9	E	鉢 口縁部	内側へ「く」の字に屈曲した口縁 端部に平坦面、2個1対の円孔を焼 成前に穿孔	17.4	—	残4.2	③	淡灰白	良好	1/6	
99-27	81-2	溝	63		9	E	甕 口縁部	幅広の口縁をヨコハケ 外) タテ ハケ 内) ヨコハケ	17.8	—	残6.8	②	淡灰	良好	1/4	
99-28	81-1	溝	73		8	E	壺 口縁部 ～ 頸部	口縁端部に平坦面のある受口状口 縁 外) 口縁の立上りに櫛刺突 列点文、頸部に櫛刺突列点文を加 えた凸帯、タテハケ 内) 口縁部ヨコナデ、以下をヨコ ハケ	16.2	—	残4.1	①	橙褐	良好	1/4	

第2節 遺物各説

番号	図版 番号	出土遺構			グリ ッド	器 種・ 器形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎 土	色調	焼成	残存 率	備考
99-29	80-2	溝	87		7	E	壺 胴部 上半	外) 扇形文の下に櫛描直線文 (5 本) 2帯を2段 内) ヨコナデ	—	—	残6.8	③	橙褐	良好	1/6	
99-30	80-2	溝	34か		9	F	壺 胴部 上半	外) 頸部の無文帯を刺突列点文で 区画し、下に沈線で重菱形文 内) ヨコハケ	—	—	残4.9	①	淡褐	良好	1/8	
99-31	81-1	溝	83		7	F	甕 口縁 部	幅広の口縁をヨコハケ、端部に平 坦面 外) タテハケ 内) ヨコハケ	—	—	残3.2	②	淡褐	良好	1/8	
99-32	81-1	溝	19か		3	J	甕 口縁 部	外) 端面に櫛刺突列点文 内) 2個1対の瘤状突起、2段の羽 状櫛刺突列点文	—	—	残2.6	③	淡灰白	良好	1/8	
99-33	81-1	溝	88		7	E	壺 胴部 上半	外) タテハケの後間隔をあけて櫛 描直線文 (3から4本)、1ヶ所の み波状文 内) タテにユビオサエ	—	—	残8.2	③	淡褐	良好	1/8	
99-34	80-2	溝	36か		4	J	壺 胴部 上半	外) 櫛描直線文 (4本以上) に山 形の波状文	—	—	残3	①	淡褐	良好	1/12	
99-35	80-2	溝	88か			E	壺 頸部	外) 櫛描直線文 (7本以上) の下 に櫛刺突列点文 (8本)	—	—	残3.2	①	淡灰白	良好	1/8	
99-36	80-2	溝	107		3	G	壺 頸部	外) 指押圧を加えた幅広の貼付凸 帯	—	—	残8.2	③	淡褐	良好	1/8	
99-37	81-2	溝	89		7	E	壺 胴部 上半	外) 6本の沈線の下に三角の刺突 列点文	—	—	残7.4	③	淡褐	良好	1/8	
100-1	82-2	溝	106				壺 口縁 部	外) 口縁端面に連続押し引き列点 文、以下条痕	—	—	残3	③	淡褐	良好	1/8	
100-2	82-2	溝	106				壺? 口縁 部	小さく外反する口縁 外) 頸部の 櫛描直線文をはさんで上下に羽 状櫛刺突列点文か? 内) 口縁内面に羽状櫛刺突列点文	—	—	残6	③	淡褐	良好	1/8	100-7の胴部上半の破 片と施文・色調・胎 土が酷似し同一個体 と考えられる
100-3	82-2	溝	106				壺 口縁 部	袋状口縁 外) 口縁帯外面に羽 状ヘラ刺突列点文、その立上りに 連続指押圧	—	—	残2.8	③	淡褐	良好	1/12	
100-4	82-2	溝	106				甕 口縁 部	外) 幅広の口縁端部に波状文、以 下タテハケ 内) ヨコハケの後波状文	37.2	—	残4.4	③	淡茶褐	良好	1/8	
100-5	82-2	溝	106				壺 胴部 上半	外) 刺突列点文を間隔をあけて2 段	—	—	残4	④	淡褐	良好	1/8	
100-6	82-2	溝	106				甕 口縁 部	外) ヨコハケで幅広くした口縁、 以下タテハケ 内) 波状文を数段重ねる	—	—	残3.8	③	淡褐	良好	1/8	
100-7	82-2	溝	106				壺 胴部 上半	櫛描直線文 (6本) の上下に櫛刺 突列点文 (7から8本)	—	—	残4.4	②	淡褐	良好	1/6	100-2の胴部上半の破 片と施文・色調・胎 土が酷似し同一個体 と考えられる
101-1	83	方形 周溝 墓	1	南溝			壺	袋状口縁 外) 口縁部下半及び下半部ナメ ハケ、他ナデ。口縁部上半に櫛描 波状文2帯、頸部に櫛描直線文 (4 本6帯)、櫛描波状文 (4本3帯) 内) 口縁部及び上半部はナデ、口 縁屈曲部及び下半部にはヨコハケ	12.5	6.0	26.8	①	淡褐	やや 不良	2/3	
101-2	83	方形 周溝 墓	1	北東 隅			壺 頸部	外) 櫛描直線文、下にナメハケ 内) ナデ	—	—	残7.0	①	淡黄褐	良好	頸部 ほぼ 完形	
101-3	83	方形 周溝 墓	1	北東 隅			甕 底部 欠損	口縁上端面面取りか? 外) 一部ハケ? が残る 内) ナデ	(15.0)	—	残9.0	③	淡黄褐	良好	1/8	
101-4	83	方形 周溝 墓	1	西溝			壺 口縁 部	口縁部を一部押圧する 口縁上端 面取りか? 外・内) 不明	(20.8)	—	残7.2	④	赤褐	良好	口縁 部1/5	
101-5	83	方形 周溝 墓	4				甕	外) 口縁部に1本沈線、以下タテハ ケ 内) ケズリ、口縁部付近はナデ消 す	8.5	1.8	11.8	②	薄茶褐	良好	ほぼ 完形	把手付き

第4章 遺物

番号	図版 番号	出土遺構		グリッド	器 種・ 器形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎土	色調	焼成	残存 率	備考
101-6	83	方形 周溝 墓	3	西溝		底部	外)タテハケ 内)不明	-	7.0	残9.6	④	明褐	良好	底部 1/3	
101-7	83	方形 周溝 墓	5	南東 隅溝		口縁 部	口縁端部は外傾し、わずかに外に出る 外)ヨコミガキ、頸部ナデ 内)ミガキか?	15.7	-	残8.6	③	赤褐	やや 不良	口縁 部ほ ぼ完 形	
102-1	84	方形 周溝 墓	7	南溝 及び 東溝		甕	口縁部は屈曲しわずかに内湾する、口縁端面に1本沈線 外)上半・ナナメハケ 下半・ナデ 内)口縁部ナデ、以下ナナメハケ	18.8	5.0	30.3	②	淡黄褐	良好	3/4	スス付着
102-2	83	方形 周溝 墓	7	北溝		口縁 部～ 頸部	口縁端部をわずかに摘み上げ、側面を面取りする 外)ナナメハケ、ハケ後頸部に櫛描直線文(不明瞭) 内)口縁部に一部タテハケが残る	21.6	-	残16.5	④	赤褐	良好	口縁 部1/3	
102-3	85	方形 周溝 墓	7	北溝		高坏	外)タテハケ 口縁端面に1本沈線 内)不明	(30.8)	-	残7.0	③	赤褐	やや 良	坏部 1/4	
102-4	85	方形 周溝 墓	7	東溝 北部		甕 上半 部	受口状口縁。ナナメハケでわずかに面取り 外)ナナメハケ、ハケ後9本のヘラ描直線文 内)一部ハケが残る	(7.9)	-	残13.0	③	暗黄褐	良好	上半 部1/3	
102-5	83	方形 周溝 墓	7	北溝		接合 部 欠損	外)ナナメハケ 内)脚部ハケ	17.2	15.5	(15.8)	②	淡黄褐	良好	1/2	
103-1	84	方形 周溝 墓	7	北溝		壺	口縁部の1ヶ所を棒状工具で3点押圧 外)ナナメハケ 内)ヨコハケ	11.8	5.7	16.9	①	淡赤褐	良好	9/10	
103-2	84	方形 周溝 墓	7	北西 隅溝		壺	外)口縁部をヨコハケ、胴部ヨコハケ、底部ミガキ 内)ヨコハケ	10.6	5.6	29.4	①	淡黄褐	良好	3/4	
103-3	85	方形 周溝 墓	7	南溝		甕 口縁 部	口縁端面に1本沈線 外)タテハケ 内)口縁端部に2～3本の沈線、下に櫛描波状文	-	-	(5.5)	①	暗灰褐	良好	-	
103-4	83	方形 周溝 墓	7	東溝		甕	口縁端部をわずかに摘み上げ、端面に3～4ヶ所5個のヘラ刻み目 外)タテハケ、脚部はハケ後ナデ 内)ハケ後ナデか?	9.8	6.1	13.2	②	灰黄褐	良好	3/4	雲母
103-5	84	方形 周溝 墓	7	北溝		壺	口縁端部をわずかに摘み上げる 外)ナナメハケ、口縁部はナデ 内)ヨコハケ	7.7	4.9	19.9	②	淡赤褐	良好	ほぼ 完形	
103-6	85	方形 周溝 墓	7	北溝		壺 口縁 部	口縁端部を摘み上げか? 外)ナナメハケ 内)ヨコハケ	6.9	-	残8.3	①	淡黄橙	良好	口縁 部4/5	
103-7	84	方形 周溝 墓	7	西溝		壺 口縁 部 欠損	外)タテハケ 内)上半・ハケ 下半・ケズリ	-	4.2	残19.7	①	淡黄褐	良好	1/3	
103-8	84	方形 周溝 墓	7	北溝		壺	口縁端部をわずかに摘み上げる 外)頸部に櫛描直線文(本数不明)を数段施文 内)ヨコハケ	7.6	4.6	22.4	③	赤褐	良好	ほぼ 完形	体部下半焼成後穿孔 すす付着
103-9	85	方形 周溝 墓	7	東溝		高坏	外)ミガキ 裾端・ナデ 内)ケズリ 裾端・ナデ	-	16.7	残15.3	②	淡黄白	良好	脚部 7/8	
104-1	85	方形 周溝 墓	7	埋葬 施設		胴上 半部 ～底 部	外)ナナメハケ 内)ハケ	-		残25.0	①	にぶい 褐	良好	胴部 2/3	
104-2	85	方形 周溝 墓	7	埋葬 施設		甕 口縁 部～ 胴部	口縁部内側4ヶ所に瘤状の突起を貼付する 外)タテハケ 胴部に「口」字重ね文 内)不明	19.6		残12.1	③	にぶい 黄橙	良好	上半 部1/3	胴部に貼り付けの突起あり

第2節 遺物各説

番号	図版 番号	出土遺構			グリ ッド	器 種・ 器形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎 土	色調	焼成	残存 率	備考
105-1	86	方形 周溝 墓	9	埋葬 施設		壺	底部 を除 き略 完形	口縁端面に櫛描直線文を施文の 後、上下端にヘラ刻み目 外)ハケの後ミガキ、頸～胴部に 複数体の櫛描直線文、胴部の直線 文は弧状の扇形文で区切る 内)上半部ハケの後ナデ、下半部 ヨコハケ	19.2	10.8	27.0	②	茶褐	良好	ほぼ 完形	焼成後底部打ち欠き
105-2	85	方形 周溝 墓	9	埋葬 施設		甕	下半 部	外)タデミガキか？ 内)ナデか？	-	(5.4)	残13.2	④	明灰褐	やや 不良	下半 部1/4	
105-3		方形 周溝 墓	9	西溝		壺		口縁内面に瘤状突起、口縁端部を 面取り 外)タデハケ後ミガ キ、頸肩部数本の櫛描直線文 内)ナデ、口縁部、ハケ後ナデ	9.0	4.0	12.2	②	薄灰褐	やや 良	3/4	
105-4	86	方形 周溝 墓	10	東溝		壺	底部 欠損	外)条痕文、頸部に14本櫛描直線 文、胴部に櫛描直線文。細かい12 本櫛描直線文 内)ナデ	15.5	-	残37.8	②	灰白	やや 不良	3/4	
105-5	85	方形 周溝 墓	10	南東 隅		-	底部	外)不明 内)不明	-	5.8	残5.6	④	赤・黒 褐	良好	底部 1/3	
106-1	86	方形 周溝 墓	11	南溝		壺		外)上半部タテ及びナナメハケ、 下半部タテミガキ 内)ナデ、一部ハケが残る	11.2	5.2	24.3	③	淡褐	良好	ほぼ 完形	
106-2	86	方形 周溝 墓	11	東溝		壺	口縁 部欠 損	外)ハケ後ミガキ、胴部櫛描直線 文3帯 内)上半部ナデ、下半部ナナメハ ケ	-	4.6	残20.0	①	淡茶褐	やや 不良	2/3	
106-3		方形 周溝 墓	11	東溝		壺		外)口縁部ハケ後ナデ、頸部タテ ハケ、胴部タテミガキ 内)口縁部～頸部ハケ後ナデ、胴 部タテハケ	11.4	4.4	19.2	④	茶褐	良好	完形	接合部、内外両面か らナデ
106-4	86	方形 周溝 墓	12	東溝		壺	口縁 部	口縁下端部ヘラ刻み目 外)ナデ 内)不明、口縁端部ヘ ラ刺突列点文	17.9	-	残6.3	④	橙 灰 白	不良	口縁 部1/3	
106-5	86	方形 周溝 墓	12			壺	頸部	外)タテハケ、指頭圧痕 内)ヨコハケ	-	-	残5.8	②	明赤褐	やや 良好	-	
106-6	87	方形 周溝 墓	12	西溝		壺	底部 欠損	外)ヨコハケ後ナデ、一部ハケが 残る 内)ヨコハケ、口縁部ヨ コハケ後ナデ	13.6	-	残24.0	①	淡褐	やや 不良	3/5	
106-7	87	方形 周溝 墓	12	西溝		甕		口縁端部を4ヶ所摘み上げ突起を 作り、ナナメハケでわずかに面取 りする 外)ナナメハケ(荒い)、頸部に 櫛描直線文 内)口縁部櫛描波 状文。胴部タテナデ	24.8	-	残21.9	①	淡灰褐	良好	上半 部2/3	口縁部折り返し、折 り返しかい？
106-8	87	方形 周溝 墓	12	東溝		鉢		外)6条の擬凹線文、ナナメハケ 内)口縁部ヨコハケ、胴部ヨコケ ズリ	33.8	6.2	22.0	①	淡黄褐	やや 不良	2/3	
106-9	86	方形 周溝 墓	12	西溝		小型 土器		口縁部を摘み上げ、側面を面取り 外)タテミガキ 内)ヨコハケ後ナデ	(8.4)	4.4	8.2	①	暗褐 黄褐	良好	1/4	
106-10	86	方形 周溝 墓	12	西溝		甕	口縁 部～ 肩部	口縁端部を摘み上げ、口縁部にヘ ラ刻み目 外)タテ及びヨコハケ 内)ハケ？	17.5	-	残8.2	③	淡赤褐	やや 不良	口縁 部1/3	
107-1	87	方形 周溝 墓	13	南溝		甕		外)口縁部ナデ、頸部タテハケ、 胴部タテミガキ 内)口縁部ナデ、上半部ナナメハ ケ、下半部ヨコミガキ	16.2	7.5	31.4	①	茶褐	良好	1/3	
107-2	87	方形 周溝 墓	13	西溝		壺	口縁 部欠 損	外)上半部櫛描直線文、扇形文、 下半部一部タテハケが残る 内)上半部ナデ、下半部ヨコハケ	-	6.0	残19.3	②	黄褐	不良	胴部 1/4	
107-3	87	方形 周溝 墓	13	北溝		壺	口縁 部欠 損	口縁端部を摘み上げる 外)タテハケ 内)ヨコハケ後タテナデ	8.8	5.4	15.1	③	淡灰褐 色	良好	ほぼ 完形	

第4章 遺物

番号	図版番号	出土遺構	グリッド	器種・器形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎土	色調	焼成	残存率	備考
107-4	88	方形周溝墓	14		口縁部	口縁端部を揃み上げる 外)口縁部櫛刺突斜列点文、以下タテハケ 内)櫛描波状文	-	-	残6.5	②	暗灰褐	良好	-	
107-5	89	方形周溝墓	14	東溝	口縁部欠損	外)不明 内)不明	-	13.0	残10.7	②	明褐	やや良	2/3	
107-6	88	方形周溝墓	14	北溝	甕	口縁端面にヘラ刻み目 外)一部タテハケが残る 内)不明	(16.8)	(5.6)	(22.3)	②	灰黄褐	良好	1/10	
107-7	88	方形周溝墓	14	東溝	甕	口縁上下端を面取り 外)口縁部ナメハケ、肩部タテハケ後ヨコハケ(櫛描直線文か?)し、格子状に見せる 内)ナデ、口縁部櫛描波状文・直線文・波状文の順で施文される	18.0	4.9	23.1	①	暗褐	良好	1/6	
107-8	89	方形周溝墓	14	南溝	- 底部	外)タテハケ 内)ナデ	-	4.4	残7.6	②	赤褐	やや不良	底部2/3	内面スス付着
107-9	88	方形周溝墓	14	東溝	壺	口縁端部を揃み上げる 外)不明、下半部にヨコナデが残る、頸部に4本櫛描直線文2帯 内)不明	7.3	4.0	13.6	③	淡赤褐	良好	1/2	
107-10	88	方形周溝墓	14	北溝	接合部欠損	外)タデミガキ、口縁部ナデ 内)坏部ナデ	22.6	-	残16.0	②	赤褐	良好	1/2	
107-11	88	方形周溝墓	14	西溝	- 底部	外)タテハケ 内)不明	-	5.4	残10.8	④	明褐	良好	底部1/3	
107-12	88	方形周溝墓	14	東溝	甕 口縁部～胴部	口縁端面にヘラ刻み目 外)タテハケ、口縁部ナデ 内)口縁部ナデ、胴部ヨコハケ、頸部に指頭圧痕	15.5	-	残8.2	②	にぶい黄橙	良好	上半部1/2	
107-13	88	方形周溝墓	14	埋葬施設	甕 上半部	外)タテハケ後タテナデ 口縁部タテナデ 内)ナデ 口・指頭圧痕	19.2	-	残7.5	①	淡橙褐	良好	口縁部1/5	
108-1		方形周溝墓	16	東溝	壺 口縁部～頸部	外)ハケ、頸部に箱重文 横区画線 内)不明	(17.4)	-	残12.6	④	淡褐	やや不良	口縁部1/3	
108-2	89	方形周溝墓	16	北溝	壺	外)口縁部に櫛刺突を2個1対を4ヶ所、頸部に「小」字の櫛刺突文、頸部ナデ、以下ヨコハケ、底部に木葉痕	15.2	6.6	30.3	③	茶褐	やや良	ほぼ完形	微細写真 図版100 雲母
108-3	89	方形周溝墓	16	北溝	壺	外)ハケ 口縁部4方4ヶ所押圧し刺突文で施文、頸部4本櫛描直線文5帯、肩部4本2本の櫛描直線文2帯施文後、擬流水文を6単位 内)口縁部ヘラ描き直線、押圧部に集中するように施文、以下ヨコハケ、ナデ	23.4	6.0	24.7	③	淡灰褐	やや不良	3/4	微細写真 図版100
108-4	89	方形周溝墓	15	東溝	壺 口縁部欠損	外)ナメハケ 内)ナデ	-	6.2	残27.9		赤褐	良好		
109-1	90	方形周溝墓	17	東溝	甕	口縁上下端にヘラ刻み目 外)タテハケの後、胴上半部に櫛描直線状にヨコハケ 内)ヨコハケ	24.2	6.0	33.1	②	淡褐	やや不良	ほぼ完形	
109-2	90	方形周溝墓	17	東溝	甕	口縁端面にヘラ刻み目 外)ナメハケ、櫛描直線文 内)ハケ	21.1	5.2	26.4	③	淡赤褐	良好	ほぼ完形	スス付着
109-3	89	方形周溝墓	17	東溝	壺 口縁部～頸部	外)ハケ(条痕文系)。口縁部ナメハケ後タテハケを6ヶ所に施す。頸部に連続指頭圧痕 内)ナデ	(14.8)	-	残13.7		淡褐	不良		

第2節 遺物各説

番号	図版 番号	出土遺構	グリ ッド	器 種・ 器 形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎 土	色調	焼成	残存 率	備考	
109-4		方形 周溝 墓	17	東溝		甕	外)タデハケ、口縁部ナデ、頸部7 本櫛描直線文、波状文ともに1帯 内)ナデ	22.8	7.0	30.5	④	赤褐	良好	ほぼ 完形	内外面スス付着
109-5	90	方形 周溝 墓	17	東溝		甕	口縁 部～ 胴部 外)ナナメハケ 内)ナナメハケ	24.0	-	残14.1	②	にぶい 黄橙	良好	上半 部1/5	
109-6	90	方形 周溝 墓	17	東溝		壺	口縁 部欠 損 外)ナナメハケ 内)ナデ一部ハケ	-	6.7	残30.0	①	褐	やや 不良	胴部 1/2	
110-1	91	方形 周溝 墓	18	西溝		甕	口縁部を一部押圧し突起を作る、 側面をヨコハケで面取り、口縁端 部に刻み目 外)タデハケ 内)ナデ、口縁部3本櫛描波状文	22.7	-	残18.2	②	淡灰褐	良好	1/2	微細写真 図版99
110-2	91	方形 周溝 墓	18	西溝		甕	口縁上端部にヘラ刻み目、一部押 圧し山形とする 外)タデ及びヨコハケ 内)ナナメハケ	23.0	5.0	23.4	②	赤褐	やや 不良	3/4	
110-3	90	方形 周溝 墓	17	東溝		壺	口縁 部欠 損 外)頸部11本櫛描直線文2帯施文 後、間に7本櫛描波状文 内)ナデ	-	7.6	残26.5	②	灰白褐	良好	胴部 ほぼ 完形	
110-4	90	方形 周溝 墓	17	東溝		鉢	底部 一部 欠損 外)1条の沈線。ヨコミガキ 口 帯・1条凹線 内)口縁部ミガキ、体部ナデ、底 部ハケ	8.2	2.2	8.3	①	淡褐	良好	1/3	
110-5	90	方形 周溝 墓	17	北溝		壺	口縁 部～ 頸部 口縁上下端部にヘラ刻み目 外)タデハケ、口縁部ハケ後ナデ 内)口縁部ナデ、頸部ヨコハケ	12.8	-	残7.0	③	淡黄褐	やや 良		
110-6	91	方形 周溝 墓	19	西溝		壺	口縁 部～ 頸部 口縁端部にヘラ刻み目、端面に1 本沈線 外)タデハケ、頸部に櫛描直線文 内)不明	16.8	-	残12.8	①	明褐	良好	口縁 部2/3	
110-7		方形 周溝 墓	19	北溝		壺	底部 一部 欠損 口縁下端部にヘラ刻み目、端面に 1本沈線 外)タデハケ(条痕文系)、頸部に3 本1帯の櫛描擬流水文 内)ハケ(荒い) 接合部ナデ	22.8	10.7	35.8	③	灰褐	やや 良	ほぼ 完形	
110-8	91	方形 周溝 墓	19	西溝		壺	口縁 部欠 損 外)上半部ヨコミガキ、3帯の櫛描 直線文、下半部ヨコ及びタデハ ケ、底部ミガキ 内)上半部ナデ、下半部ヨコハケ	-	4.8	残20.1	①	淡茶褐	良好		
111-1	91	方形 周溝 墓	20	西溝		壺	外)ハケ、口縁端面に3本櫛描波状 文、頸部6本1帯の櫛描直線文7 帯、波状文1帯、体部ナナメハケ 後ナデ 内)ヨコハケ、頸部に指頭圧痕	20.2	7.3	37.5	②	赤系茶 褐	やや 良	3/4	
111-2	91	方形 周溝 墓	22	東溝		壺	外)タデハケ、頸部に27本前後の 櫛描直線文 内)ヨコハケ、口縁部櫛描波状文 と直線文	18.1	7.2	31.9	②	淡黄褐	不良	1/3	雲母
112-1	92	方形 周溝 墓	24	北溝		壺	口縁 部欠 損 外)櫛描直線文12・9本、間に扇形 文、下半部ハケ後ミガキ 内)ナデ 底部ナナメハケ	-	6.2	残22.0	④	淡灰褐色	やや 不良	3/4	微細写真 図版99
112-2	92	方形 周溝 墓	22	西溝		壺	外)不明、頸部にハケが櫛描の直 線文と波状文があるが不明瞭 内)不明	14.6	6.2	23.3	④	橙褐	良好	1/2	
112-3	92	方形 周溝 墓	23	北溝		壺	袋状口縁 外)ミガキ、口縁部4 条簾状文、頸部7本1帯櫛描直線文 3帯、4本簾状文、胴部7本1帯櫛描 直線文2帯、重ねて4本簾状文2帯 内)ナデ	8.8	5.4	(24.6)	③	淡赤褐	やや 不良	ほぼ 完形	
112-4	92	方形 周溝 墓	23	北溝		壺	上半 部 外)タテナデ 内)ヨコハケ 口・ナデ	15.7	-	残12.8	④	橙褐	良好	1/5	第112図5と同一個体 か？
112-5	92	方形 周溝 墓	23	北溝		壺	下半 部 外)タテナデ 内)タテナデ	-	7.1	残22.0	③	橙褐	良好	1/2	第112図4と同一個体 か？

第4章 遺物

番号	図版 番号	出土遺構				グ リ ッ ド	器 種 ・ 器 形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎 土	色調	焼成	残存 率	備考
112-6	92	方形 周溝 墓	24	南東 隅溝			壺		口縁下端部にヘラ刻み目 外) タテハケ、頸部27本櫛描直線 文、直線文の間に櫛描山形文2 帯、下に1帯 内) ナナメハケ	19.3	6.8	29.7	②	橙褐	良好	ほぼ 完形	微細写真 図版100
113	93	方形 周溝 墓	10	壺棺			壺	胴部 の一部を 欠く	強く内湾した袋状口縁に2本1対 の棒状浮文を4方向に貼付け 外) 前面タテハケ 口縁部に櫛描 波状文3本 頸部に櫛描直線文を 施文 内) 口縁内面ヨコハケの後頸部以下 全体にユビナデ	24.4	9.4	74.4	③	黄褐	良好	略完 形	
114-1	94-1	方形 周溝 墓	1	北溝			壺	口縁 部	口縁端部を細くし無文 内) 羽状櫛刺突列点文2段、瘤状 突起	—	—	残4.4	③	橙褐	良好	1/6	
114-2	94-1	方形 周溝 墓	6	南溝			壺	頸部	外) 櫛描直線文(条線数不明)と 廉条文 内) ユビオサエ	—	—	残8	③	橙褐	良好	1/6	
114-3	94-1	方形 周溝 墓	1	西溝			壺	口縁 部	袋状口縁 外) 棒状浮文をは さんで羽状櫛刺突列点文か? 内) ヨコハケ	—	—	残6.6	③	暗茶褐	やや 不良	1/6	
114-4	94-2	方形 周溝 墓	6	西溝			壺	頸部	外) 沈線で箱重文	—	—	残5	④	橙褐	良好	1/8	
114-5	94-1	方形 周溝 墓	7	南溝			広口 壺	口縁 部	外) 口縁端面に波状文の後下端に 櫛刺突列点文 内) 内面端部に扇形文	—	—	残5.4	③	淡褐	良好	1/8	
114-6	94-1	方形 周溝 墓	2	北溝			壺	頸部?	ヘラ刺突列点文	—	—	残3.8	③	暗茶褐	良好	1/8	
114-7	94-1	方形 周溝 墓	6	北溝			壺	口縁 部	袋状口縁 外) 口縁帯に羽状櫛 刺突列点文、頸部に櫛描直線文 (5本) 内) ヨコハケ	—	—	残3.6	④	橙褐	やや 不良	1/12	
114-8	94-1	方形 周溝 墓	3	東溝			壺	頸部	羽状櫛刺突列点文	—	—	残3.2	③	灰白	良好	1/12	
114-9	94-2	方形 周溝 墓	6	西溝			壺	胴部 上半	外) 沈線で箱重文	—	—	残4.2	④	橙褐	良好	1/12	
114-10	94-1	方形 周溝 墓	2	南溝			壺	口縁 部	外) ヘラ刺突の山形文	—	—	残2	④	淡褐	良好	1/12	
114-11	94-1	方形 周溝 墓	4	西溝			壺か 鉢	口縁 部	外) 円形竹管文3段 内) ユビナデ	—	—	残3.8	②	灰白	良好	1/8	
114-12	94-1	方形 周溝 墓	5	北溝			無頸 壺	口縁 部	短く立上った口縁をヨコナデし て面をつくる。径3mmほどの孔を 内側から焼成前に穿孔	—	—	残4.7	①	淡褐	良好	1/6	
114-13	95-1	方形 周溝 墓	17	北溝			壺	胴部	外) ヘラ羽状	—	—	残7.2	③	淡茶褐	やや 不良	1/6	
114-14	94-1	方形 周溝 墓	7	北溝			壺	口縁 部	内) 羽状櫛刺突列点文	—	—	残1.5	①	淡褐	良好	1/16	
114-15	94-2	方形 周溝 墓	9	西溝			壺	口縁 部?	内) 沈線で箱重文	—	—	残3	①	暗茶褐	良好	1/20	
114-16	94-2	方形 周溝 墓	9	主体 部周 辺			甕	口縁 部	外) 口縁端部にヘラ刻み目、以下 にタテ沈線 内) 羽状ヘラ沈線	—	—	残1.8	③	淡茶褐	良好	1/12	
114-17	94-1	方形 周溝 墓	12	西溝			甕	口縁 部	受口状口縁 外) 立上りに櫛刺突列点文、頸部 に櫛描直線文	—	—	残2.8	③	橙褐	良好	1/8	
114-18		方形 周溝 墓	12	東溝			壺?	口縁 部	外) 口縁端面に刻み目、以下をタ テハケ?	—	—	残3	②	淡茶褐	良好	1/10	

第2節 遺物各説

番号	図版 番号	出土遺構			グリッド	器 種・ 器形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎土	色調	焼成	残存 率	備考
114-19	94-2	方形 周溝 墓	9	東溝		壺	頸部	外) 縦の沈線で区画した内側を横の沈線で充填する	—	—	残6.9	③	暗茶褐	やや不良	1/6	
114-20	94-2	方形 周溝 墓	9	東溝		壺	頸部	外) 縦の沈線で区画した内側を横の沈線で充填する	—	—	残7.6	③	灰白	良好	1/10	
114-21	94-1	方形 周溝 墓	14	東溝		甕	口縁部	受口状口縁 外) 口縁帯に渦巻文のような竹管文 内) 口縁端部の平坦面を内傾する	—	—	残2.4	①	淡茶褐	良好	1/12	
114-22	94-2	方形 周溝 墓	8	西溝		壺	胴部 上半	外) 沈線で流水文状とする一部?	—	—	残2.6	①	暗茶褐	良好	1/20	
114-23	94-2	方形 周溝 墓	8	西溝		壺	胴部 上半	外) 沈線で流水文状する	—	—	残1.6	③	暗茶褐	良好	1/20	
114-24	95-1	方形 周溝 墓	12	東溝		甕	口縁部	外) 口縁上端面にヘラ刻み目、以下をタテハケ 内) ヨコハケの後連弧状の波状文4本)	—	—	残4.1	③	淡茶褐	良好	1/6	
114-25	95-1	方形 周溝 墓	12	東溝		壺	口縁部から 頸部	外) 頸部に櫛描直線文(条線数不明)を3段施文し、その間に櫛刺突列点文か? 内) 口縁内面に羽状櫛刺突列点文	—	—	残13	④	橙褐	良好	1/6	
114-26	94-1	方形 周溝 墓	14	東溝		壺	口縁部	袋状口縁 外) 口縁帯に施文した6本の沈線のうち4本を、口縁の立上りにユビ押圧を加えた突起に向け2本を上へ向ける。口縁端部を内側へ突出させ、沈線とヘラ刺突列点文を施文する。立上りの下には条痕調整の後ユビ連続押圧。	—	—	残3.8	③	灰白	やや不良	1/8	
114-27	94-2	方形 周溝 墓	14	東溝		壺	口縁部	外) 摘み上げるように立上がる口縁に櫛描波状文、以下をタテハケの後、頸部に櫛描直線文 内) ヨコハケ	—	—	残5.6	③	淡茶褐	良好	1/10	
114-28	94-2	方形 周溝 墓	12	西溝		壺	口縁部	内) 羽状櫛刺突列点文	—	—	残5	④	暗茶褐	やや不良	1/6	
114-29	94-2	方形 周溝 墓	12	東溝		壺	胴部 上半	外) 沈線で流水文状にする	—	—	残4.6	④	暗茶褐	良好	1/6	
114-30	94-1	方形 周溝 墓	14	東溝		甕	口縁部	口縁端部を丸くする受口状口縁 外) 口縁下端に櫛刺突列点文	14.4	—	残3.2	③	淡茶褐	良好	1/6	
114-31	94-2	方形 周溝 墓	14	東溝		甕	口縁部	外) やや脹らんだ口縁端部の上端にヘラ刺突列点文、下端に櫛刺突列点文 内) 羽状ヘラ刺突列点文	—	—	残1.6	④	暗茶褐	良好	1/8	
114-32	94-2	方形 周溝 墓	14	西溝		壺	胴部	外) 2条の沈線をはさんで羽状沈線	—	—	残5	④	淡茶褐	良好	1/8	
114-33	94-2	方形 周溝 墓	15	北溝		壺?	胴部	外) 4条の浅い沈線の両側に羽状ヘラ沈線?	—	—	残4.6	①	暗茶褐	良好	1/10	提示した拓本が縦とすると羽状を沈線で囲む鉢の胴部となる可能性あり。
114-34	95-1	方形 周溝 墓	16	東溝		無頸 壺	口縁部	外) 口縁端部にヘラ刻み目。櫛描直線文を3帯重ね、櫛刺突列点文、櫛刺突列点文(廉状文?)	—	—	残7	④	橙褐	やや不良	1/6	
114-35	95-1	方形 周溝 墓	15	西溝		壺	口縁部	袋状口縁 外) 口縁帯に棒状浮文を2本貼付、頸部に櫛描直線文(5本)を3段施文し、その間にヘラ刺突列点文を加える。 内) ヨコハケ	—	—	残6.8	③	橙褐	良好	1/8	
114-36	95-1	方形 周溝 墓	18	北溝		壺	底部	外) タテハケ、底部に木葉痕	—	—	残3.6	③	淡褐	良好	底部 1/1	

第4章 遺物

番号	図版 番号	出土遺構	グリ ッド	器 種・ 器形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎 土	色調	焼成	残存 率	備考
114-37	95-1	方形 周溝 墓	16	北溝	壺	底部	底部に木葉痕	—	—	残3.5	④	淡褐	良好	底部 1/2
114-38	94-1	方形 周溝 墓	17	北溝	壺	口縁 部	袋状口縁 外) 棒状浮文をはさんで羽状櫛刺突列点文。立上りにヘラ刺突列点文、以下をタデハケ	—	—	残4.7	③	淡茶褐	良好	1/12
114-39	94-2	方形 周溝 墓	17	東溝	壺	胴部 上半?	外) 沈線で流水文状にする?	—	—	残1.4	③	暗茶褐	良好	1/20
114-40	95-1	方形 周溝 墓	15	西溝	甕	口縁 部	外) 口縁端面ヨコハケ、以下をタデハケ 内) ヨコハケの後振幅の大きい櫛描波状文 (6本)	—	—	残2.8	③	淡茶褐	良好	1/6
114-41	94-2	方形 周溝 墓	17	東溝	壺	胴部 上半	外) 沈線で縦に楕円の沈線区画を重ね流水文状にする?	—	—	残3.2	③	暗茶褐	やや 不良	1/8
114-42	94-2	方形 周溝 墓	17	東溝	壺	口縁 部	口縁を山形に水平に突出させ、その頂部に円形の刺突を加える 内) 4本の沈線を突出に向ける	—	—	残1.6	③	暗茶褐	良好	1/8
114-43	94-2	方形 周溝 墓	17	東溝	壺	口縁 部	口縁を山形に水平に突出させ、その頂部に円形の刺突を加える 内) 5本の沈線を突出に向ける	—	—	残2.2	③	暗茶褐	良好	1/8
114-44	95-1	方形 周溝 墓	18	北溝	甕	口縁 部	口縁の両側にユビ押圧を加えさざなみ状の口縁とする。 外) 頸部に振幅の細かい櫛描波状文 (6本)	—	—	残3.9	③	淡茶褐	良好	1/6
114-45	95-1	方形 周溝 墓	21	東溝	広口 壺	口縁 部	外) 口縁端面に櫛描波状文の後下端にヘラ刺突。以下をヨコハケ 内) ヨコハケ	—	—	残1.8	①	橙褐	良好	1/10
114-46	94-2	方形 周溝 墓	24	東溝	甕	口縁 部	山形口縁 外) 口縁帯をヨコハケ、以下をタデハケ。 内) 櫛描波状文 (6本) を同じ櫛描 (6本) で「U」字状に切る	—	—	残4.2	①	淡茶褐	良好	1/8
115-1	包含 層		6	E	壺	口縁 部～ 頸部	口縁部上下端にヘラ刻み目、口縁端部及び口縁帯は面取りされる。頸部に貼り付け突帯。 外) ナデ 内) ナナメハケ	(28.2)	—	残11.9	②	淡橙	やや 不良	口縁 部1/5
115-2	93	包含 層	8	E	甕		口縁端部は摘み上げ、若干内湾する。 外) タテ及びナナメハケ 内) ヨコ及びナナメハケ	(18.7)	6.5	(29.2)	①	褐	やや 不良	1/3
115-3	93	包含 層	9	H	甕		口縁は屈曲し外側に開く。底部に穿孔あり。 外) ナナメハケ 内) ヨコハケ	(22.7)	4.4	(21.1)	①	灰褐	やや 良	1/3
115-4	99	包含 層	6	E	壺	口縁 部～ 頸部	袋状口縁。口縁帯三ヶ所に細長く三ヶ所ヘラ刻み目の入った瘤状突起。 外) 口縁帯および、口縁下端にヘラ刻み目。以下タデハケ 内) ヨコハケ。	8.7	—	残7.4	④	灰白・ 橙	やや 良	口縁 部4/5
115-5	99	包含 層	9	E	器台? 坏底 部～ 脚部		坏底部と脚部の接合部に断面三角形の突帯。脚部に涙滴形の透かしが6ヶ所あけられる(焼成前)。脚端部はナデにより面取りされる。 外) タデハケ 内) 坏部タデハケ、脚部ヨコハケ	—	(12.0)	残11.0	③	淡褐	やや 良	底部 1/3 台付き壺?
115-6	93	包含 層	13	H	甕		有段口縁。5条の擬凹線文。 外) ナナメハケ 内) ケズリ	(16.2)	4.8	(25.2)	②	茶褐	やや 不良	2/5
115-7	93	包含 層下 部	9	F	壺	口縁 部～ 頸部	袋状口縁。口縁上下端に沈線 外) タデハケ、頸部に貼り付け突帯、櫛刺突列点文 内) 口縁部ナデ、以下ナナメハケ	17.9	—	残12.3	②	黄褐	不良	
115-8	99	包含 層	14	E	壺		有段口縁。口縁帯は無文で、一部に接合痕?が見られる。 外) タデハケ 内) ヨコハケ	(13.2)	3.2	24.7	①	淡橙	やや 良	1/2
116-1	96-1	包含 層			壺	胴部 上半	外) 6本の沈線の下に三角の刺突列点文	—	—	残6.8	③	淡褐	良好	1/8

第2節 遺物各説

番号	図版 番号	出土遺構		グリ ッド	器 種・ 器 形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎 土	色調	焼成	残存 率	備考		
116-2	96-1	包含層			9	G	壺	胴部上半	外) 6本の沈線の下に三角の刺突列点文	—	—	残5.5	④	淡褐	良好	1/8	
116-3	96-1	包含層			9	G	壺	胴部上半	外) 6本の沈線の下に三角の刺突列点文	—	—	残5.4	④	淡褐	良好	1/8	183と同一個体
116-4	96-1	包含層				不明	壺	口縁部	外) 口縁上端をヘラ刺突列点文、 下端を櫛刺突列点文、以下をタテハケ 内) 波状文3段	—	—	残3.2	③	淡褐	やや不良	1/6	
116-5	96-1	包含層			8	H	甕	口縁部	口縁端面を押圧して山形として内面に瘤状突起 外) 口縁端面をヨコハケ、以下はタテハケ 内) 瘤状突起に縦垂線、ほかを羽状櫛刺突列点文	—	—	残2.8	③	淡灰白	やや不良	1/6	
116-6		包含層				不明	甕	口縁部	外) 口縁をナメハケでやや面取りして立ち上げ、以下はタテハケ内) ヨコハケ	—	—	残4.9	②	暗茶褐	良好		
116-7	96-1	包含層			9	G	甕	口縁部	外) 口縁端面をヨコハケの後ヘラ刺突列点文、以下をタテハケ内) ヨコハケの後櫛刺突列点文、波状文	—	—	残5.4	③	淡灰白	やや不良	1/8	
116-8	96-1	包含層				不明	壺	口縁部	外) 口縁端面に1条の沈線を施文後、下端にヘラ刺突列点文、頸部に櫛描直線文 内) 羽状櫛刺突列点文	—	—	残2.2	④	橙褐	やや不良	1/12	
116-9	96-1	包含層			4	I	甕	口縁部	外) 口縁をナメハケでやや面取りして立ち上げ、以下はタテハケ内) ヨコハケの後波状文	—	—	4.2	③	暗茶褐	良好	1/8	
116-10		包含層			11	H			外) 口縁端部の上下にヘラ刺突、以下はタテハケ内) ヨコハケの後波状文?	—	—	2.4	③	淡茶褐	良好		
116-11	96-1	包含層			5	G	甕	口縁部	外) 口縁端部の上下にヘラ刺突、以下はタテハケ内) ヨコハケの後波状文	—	—	3.2	①	淡灰白	良好	1/16	
116-12	96-1	包含層			9	H	壺	口縁部	外) 口縁端面に櫛刺突列点文? 直下はヨコハケ、以下をタテハケ内) 櫛刺突で山形とする	—	—	残5.8	③	淡灰白	やや不良	1/6	
116-13	95-2	包含層			11	F	広口壺	口縁部	外) 幅広い口縁端面の上に櫛刺突	—	—	残1.6	②	淡褐	良好	1/6	下端にも刺突がある可能性あり
116-14	95-2	包含層			10	F	壺	口縁部	外) 口縁端面にヘラ刺突で山形文	—	—	残2.5	③	橙褐	良好	1/10	
116-15	95-2	包含層				表採	壺	胴部上半	外) 櫛描直線文と櫛描波状文を数段重ね、その下にヘラ刺突列点文、以下をタテハケ	—	—	残8	④	淡褐	良好	1/10	
116-16	95-2	包含層			12	G	壺	口縁部	内) 羽状櫛刺突列点文	—	—	残5	③	橙褐	良好	1/10	
116-17	95-2	包含層			11	G	甕	口縁部	外) 口縁端部にヘラ刻み目、タテハケ内) 口縁部ヨコハケ、頸部以下をタテハケ	—	—	残6.2	①	淡褐	良好	1/8	
116-18	95-2	包含層			6	E	壺	胴部上半	外) 櫛描直線文、斜行短線文を2段、廉状文、扇形文	—	—	残5.4	④	淡褐	良好	1/8	505と同一個体
116-19	95-2	包含層			7	F	壺	口縁部	袋状口縁 外) 口縁帯に羽状櫛刺突列点文	—	—	残4.6	③	橙褐	良好	1/16	
116-20	95-2	包含層			5	F	壺	口縁部	有段口縁の端面を強くヨコナデして平坦面をつくる 外) 口縁帯に2条の凹線文、頸部をタテハケ	—	—	残6.6	③	橙褐	良好	1/6	色調・胎土から同一個体と判断
116-21	95-2	包含層				水切り溝	広口壺	口縁部	外) 垂下させた口縁帯の上に櫛刺突列点文、中央に櫛描波状文の後円形浮文を貼り付ける 内) 扇形文(斜行短線文に近い)の内側にヘラ刺突列点文を加えた凸帯を一条巡らす	—	—	残2.8	①	灰白	良好	1/8	

第4章 遺物

番号	図版 番号	出土遺構	グリッド	器種・ 器形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎土	色調	焼成	残存 率	備考
116-22	95-2	包含層			広口壺 口縁部	外) 垂下させた口縁帯の上に櫛刺突列点文、中央に櫛描波状文の後円形浮文を3個貼り付ける 内) 扇形文(斜行短線文に近い)の内側にヘラ刺突列点文を加えた凸帯を一条巡らし、さらに扇形文を施文する	—	—	残2.4	①	淡褐	良好	1/8	
116-23	96-2	包含層	9	I	甕 胴部上半	外) 櫛描直線文(4本)、刺突列点文、櫛描波状文を連続して施文する	—	—	残5	①	淡灰白	良好	1/8	
116-24	96-2	包含層	12	G	甕 胴部上半	外) 刺突列点文、櫛描波状文(4本)、刺突列点文を連続して施文する	—	—	残3.7	②	淡灰白	良好	1/8	
116-25	96-2	包含層	12	H	蓋 頂部	外) 頂部端にヘラ刺突列点文	—	3.8	残2.4	①	淡褐	良好	底部5/6	摘み部
116-26	96-2	包含層	12	G	甕 胴部上半	外) 櫛描波状文、刺突列点文、櫛描直線文(4本)、刺突列点文、櫛描波状文を連続して施文する	—	—	残6.9	①	淡灰白	やや不良	1/16	
116-27	96-2	包含層	7	E	高坏 脚部	外) 脚端部の上方にヘラを押して細長い三角を連続させスリット状とする	—	8	残3.2	③	灰白	やや不良	底部1/3	
116-28	96-2	包含層	4	G	壺 頸部	外) 2条の凸帯を2本の棒状浮文で繋ぐ	—	—	残6.4	④	淡褐	やや不良	1/6	
116-29	96-2	包含層	6	I	壺 底部	外) ヘラで「X」	—	4.6	残3	③	橙褐	良好	底部1/1	
116-30	96-2	包含層	15	I	壺 底部	外) 木葉痕	—	—	残2.5	④	橙褐	良好	1/6	
116-31	96-2	包含層	8	D	壺 頸部	外) 刻み目を加えた3条の凸帯を棒状浮文で繋ぐ	—	—	残3.6	④	橙褐	良好	1/12	
116-32	96-2	包含層	12	I	壺 頸部	外) 頸部にヘラ刺突列点文	—	—	残7.2	④	橙褐	良好	1/6	
116-33	96-2	包含層	4	G	壺 胴部上半	外) タテハケの後扇形文と櫛描直線文を施文	—	—	残4	②	淡褐	良好	1/8	
116-34	96-2	包含層	8	G	壺 頸部	外) タテハケの後頸部に連続ユビ押圧 内) ヨコハケ	—	—	残4.4	①	淡褐	良好	1/8	
117-1	包含層・溝11				壺 口縁部	口縁を山形に水平に突出させその頂部を円形に刺突を加える 外) 口縁下端に弧状にヘラ沈線を7本加え、無文帯をはさんで刺突列点文 内) 4本の沈線の楕円文様を櫛刺突列点文ではさむ	—	—	残3.7	③	暗茶褐	良好	1/6	
117-2	97-2	包含層	9	E	壺 頸部	外) ヘラ沈線 内) 4本の沈線の楕円文様を重ねる	—	—	残2.4	①	暗茶褐	良好	1/20	
117-3	97-2	包含層	11	H	壺 胴部上半	外) 櫛刺突列点文の下に4本の沈線の楕円文様	—	—	残2.2	①	暗茶褐	良好	1/16	
117-4	97-2	包含層	9	I	壺 胴部上半	外) 櫛刺突列点文の下に沈線の楕円文様?	—	—	残2.8	①	暗茶褐	良好	1/16	
117-5	包含層		11	H	壺 胴部上半	外) 櫛刺突列点文の下に沈線の楕円文様?	—	—	残3.6	①	暗茶褐	良好	1/16	
117-6	97-2	包含層	4	G	壺 口縁部	口縁を山形に水平に突出させその頂部を円形に刺突を加える 外) 口縁下端に弧状にヘラ沈線を7本 内) 口縁端部の刺突列点文に4本の沈線の楕円文様	—	—	残2	③	暗茶褐	良好	1/12	
117-7	97-2	包含層			壺 胴部上半	外) 沈線で区画した内を2本の山形沈線と羽状ヘラ刺突列点文で充填し、胴部中央の瘤状突起に菱形の重田文を結束させる	—	—	残5.4	③	淡褐	良好	1/6	
117-8	97-2	包含層	12	C	鉢 胴部上半	外) 縦に弧状の沈線を重ねる 内) ユビナデ	—	—	残4.4	③	暗茶褐	やや不良	1/16	頸部の屈曲が一部残る
117-9	97-2	包含層	8	E	壺 胴部上半	外) 沈線を山形文で充填する?	—	—	残5.4	③	淡褐	やや不良	1/12	
117-10	97-2	包含層	11	E	壺 頸部	外) 2条の沈線の下に斜めの沈線を重ねる	—	—	残3.6	④	橙褐	良好	1/20	

第2節 遺物各説

番号	図版 番号	出土遺構	グリ ッド	器 種・ 器形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎土	色調	焼成	残存 率	備考
117-11	98-1	包含層	4	G	甕 口縁部	外) 口縁端部にヘラ刺突、以下をタデの沈線内) 羽状ヘラ刺突列点文	—	—	残2.2	④	淡褐	やや不良	1/8	
117-12	97-2	包含層	12	F	甕 胴部上半	外) 横にヘラ沈線を重ねたのち、斜めの沈線で切り、沈線の連弧(跳ね上げ文?)	—	—	残5	③	淡褐	良好	1/16	
117-13	97-1	包含層	12	G	甕 頸部	外) 櫛描直線文(3から4本)を重ねる? 内) ヨコハケ	—	—	残3.8	③	暗茶褐	良好	1/6	16と同一個体?
117-14	97-2	包含層	4	G	甕 胴部上半	外) 羽状沈線	—	—	残3.2	③	淡褐	良好	1/20	
117-15	97-2	包含層	11	F	甕 頸部	頸部の膨らみに羽状ヘラ刺突列点文の後沈線で区画し、斜めのヘラ刺突で山形文	—	—	残5.2	④	灰白	良好	1/6	
117-16	97-2	包含層	12	G	甕 頸部?	外) 櫛描直線文を重ねる? 内) ヨコハケ	—	—	残1.8	①	暗茶褐	良好	1/16	13と同一個体?
117-17	97-2	包含層	12	E	甕又は鉢 口縁部	口縁上端面の内側にヘラ刺突列点文外) 沈線の櫛円文様を横に重ねる	—	—	残1.8	③	淡褐	やや不良	1/12	胎土がほかの沈線文系土器とことなり、在地の土器の胎土
117-18	97-1	包含層	12	H	甕 口縁部	袋状口縁外) 口縁上端に羽状櫛刺突列点文の後沈線の櫛円文様? 口縁への立上りにユビ連続押圧	—	—	残3.2	④	淡褐	やや不良	1/10	
117-19	98-1	包含層		表土	甕 胴部上半?	外) 刺突列点文の上に斜めの櫛条痕?	—	—	残2.2	④	灰白	良好	1/8	
117-20	97-1	包含層	1	G	甕 口縁部	袋状口縁外) 口縁上端面にヘラ刻み目、口縁帯に沈線を充填してのち、縦の棒状浮文を貼付。突出させた口縁の立上りにユビ連続押圧、頸部をヨコ条痕内) 口縁部側のみヨコ条痕	—	—	残5	④	淡茶褐	やや不良	1/6	胎土と調整(貝殻条痕)から東海地方からの搬入品と推定
117-21	97-1	包含層	12	D	甕 口縁部	袋状口縁外) 口縁屈曲の一部をユビ押圧し沈線を施文、この押圧位置で口縁帯に4本の沈線をそれぞれ上下2方向に向ける。口縁への立上りからやや離れてユビ連続押圧、以下をタデの櫛条痕	—	—	残5.2	③	淡褐	やや不良	1/8	25と同一個体
117-22	97-1	包含層	12	G	甕 口縁部	袋状口縁外) 丸くした口縁帯への立上りに櫛刺突列点文、口縁帯はヨコハケ内) ヨコハケ	—	—	残4.6	③	淡茶褐	良好	1/8	
117-23	97-1	包含層	12	D	甕 口縁部	袋状口縁外) 丸くした口縁帯立上りの下にユビ連続押圧、口縁帯は斜めの櫛条痕に1条のタデ沈線で切る	—	—	残4.6	④	淡褐	不良	1/8	
117-24	97-1	包含層	5	G	甕 口縁部	袋状口縁外) 口縁上端面にヘラ刺突列点文、丸くした口縁帯立上りの下にユビ連続押圧、刺突列点文を加えた棒状浮文の両側を「J」字状の沈線で上下に充填する	—	—	残5.8	③	淡褐	やや不良	1/6	
117-25	97-1	包含層	12	H	甕 口縁部	袋状口縁外) 口縁屈曲の一部をユビ押圧し沈線を施文、この押圧位置で口縁帯に4本の沈線をそれぞれ上下2方向に向ける。口縁への立上りからやや離れてユビ連続押圧、以下をタデの櫛条痕	—	—	残4.2	④	淡褐	やや不良	1/6	21と同一個体?
117-26	97-1	包含層	8	G	甕 頸部	外) 凸帯状に盛り上がりの1ヶ所をユビ押圧、その下はヨコの条痕、上を斜めの条痕(跳ね上げ文?)	—	—	残7.2	④	淡茶褐	やや不良	1/6	胎土より東海からの搬入品と推定
117-27	97-2	包含層			甕 胴部上半	外) 2段の櫛描直線文(8から9本)を4条の沈線で縦に切る	—	—	残5.4	③	淡褐	やや不良	1/8	
118-1	98-1	包含層	7	F	甕 口縁部	受口状口縁外) 口縁立上りに櫛刺突列点文	18.8	—	残5.4	③	橙褐	良好	1/6	

第4章 遺物

番号	図版番号	出土遺構	グ リ ッド	器 種 ・ 器 形	部位	調整・文様・技法	口径	底径	器高	胎土	色調	焼成	残存率	備考
118-2	98-1	包含層	12	G	甕 口縁部	受口状口縁外) 口縁立上りに櫛刺突列点文内) 微かにヨコハケ残る	—	—	残5.6	③	褐	やや不良	1/8	
118-3	98-1	包含層	7	G	甕 口縁部	受口状口縁外) 口縁立上りに櫛刺突列点文、以下をタテハケ	—	—	残4.3	③	橙褐	良好	1/8	
118-4	98-1	包含層	9	G	広口壺 口縁部	外) 口縁端部を下に垂下させ、2条の沈線?	—	—	残2.2	④	褐	やや不良	1/12	茶褐色の胎土で生駒産の可能性あり
118-5	98-2	包含層	8	G	器台 口縁部	外) 上下に拡張した口縁帯に3条の擬凹線文の後、円形竹管文を加えた円形浮文を2個1対貼付	—	—	残4.3	③	淡褐	良好	1/12	
118-6	98-2	包含層	13	H	器台 口縁部	外) 上下に拡張した口縁帯に3条の擬凹線文の後、円形竹管文を加えた円形浮文を2個1対貼付	—	—	残1.6	③	橙褐	良好	1/12	
118-7	98-2	包含層	13	H	器台 口縁部	外) 上下に拡張した口縁帯に3条の擬凹線文の後、円形竹管文を加えた円形浮文を2個1対貼付	—	—	残1.6	①	淡褐	良好	1/8	
118-8	98-2	包含層			器台 口縁部	外) 上下に拡張した口縁帯に4条の擬凹線文の後、円形竹管文を2個1対加える	—	—	残4.3	④	淡褐	良好	1/8	
118-9	98-2	包含層	12	E	鉢 口縁部～胴部上半	外) 有段口縁の口縁帯に擬凹線文を施し、頸部に近い胴部とにS字スタンプを連続させて巡らせる	—	—	残4.5	③	淡灰白	良好	1/6	10と同一個体か
118-10	98-2	包含層			高坏 口縁部	口縁端部の内面を幅広く肥厚させる	—	—	残2.4	③	淡灰白	やや不良	1/16	9の胴部か
118-11	98-2	包含層	7	H	鉢 頸部	外) 頸部に近い胴部にS字スタンプを連続させて巡らせる	—	—	残3	③	淡灰白	良好	1/6	9と同一個体か
118-12	98-2	包含層	12	E	鉢 口縁部	外) 有段口縁の口縁帯に擬凹線文を施し、S字スタンプを連続させて巡らせる	—	—	残2.3	①	淡灰白	やや不良	1/12	
118-13	98-2	包含層	13	H	壺 胴部上半	外) 櫛描直線文(8本)の間を櫛刺突列点文(8本)で埋めて、その下に扇形文を巡らせる	—	—	残5.8	②	淡褐	良好	1/8	
118-14	98-1	包含層	住居3カ		甕 口縁部	受口状口縁外) 口縁立上りに櫛刺突列点文	—	—	残2.9	③	淡灰白	やや不良	1/12	
118-15	98-2	包含層	13	H	壺 胴部上半	外) 櫛描直線文(8本)の間を櫛刺突列点文(8本)で埋めて、その下に扇形文を巡らせる	—	—	残4.3	③	淡褐	やや不良	1/6	
118-16	98-2	包含層	4	D	器台 口縁部	口縁帯を大きく立上げ7本の沈線を施文	—	—	残2.9	④	淡褐	やや不良	1/12	
118-17	98-1	包含層	住居3カ		壺 頸部	櫛描直線文(条線数不明)の下に櫛刺突列点文	—	—	残4	③	淡灰白	良好	1/16	
118-18	98-1	包含層	6	J	壺 口縁部	外) 口縁端面に2条の擬凹線文内) ヘラによる山形文	—	—	残2.4	③	橙褐	良好	1/8	
118-19	98-1	包含層	住居1カ		壺 口縁部	袋状口縁の立上りの突出部分とそ の下にユビ連続押圧	—	—	残2.4	④	淡灰白	やや不良	1/20	
118-20	98-1	包含層			壺 胴部上半	櫛刺突列点文(6本)の下に櫛描直線文(4本)を2段加え、さらにその下に櫛刺突で山形文を施文	—	—	残3.8	①	橙褐	良好	1/12	
118-21	98-1	包含層	住居1カ		壺 胴部上半	外) 櫛刺突列点文の下に沈線の楕円文様?	—	—	残2.5	③	褐	やや不良	1/12	

弥生土器観察表の内、胎土の表記で、①は微砂粒（直径1mm以下）を少量含む、②は微砂粒（直径1mm以下）を多く含む、③は微砂粒（直径1mm以下）を含む、④は微砂粒に加えてやや大きめの砂粒（直径2mm以上）も含むことを示す。
表中の寸法の単位は全てcm。

2 石器（図版第101～110、第119～130図）

(1) 構成と分布

石器の構成を第5表に示す。弥生時代中期後半中心で、道具類は武器や農工具が主体である。武器に石鏃や磨製石剣、農具に石包丁、工具に磨製石斧や砥石・石錐等がある。石鏃や石錐の未製品・2次加工のある剥片・剥片も多量に出土しており、石鏃等が集中的に製作されたと考えられる。また、大陸系磨製石器の各器種が多く特徴的で、嶺北とは異なる様相をもつ。

石質の構成は、安山岩とチャートで8割強を占め、チャートがやや多い。他に砂岩や粘板岩があり、少量だが頁岩や瑪瑙・凝灰岩等もある。器種別で石材の選択が明瞭である。打製石鏃や石錐・2次加工のある剥片等は、大半が緻密な安山岩とチャートであり、特に打製石鏃は安山岩が多く用いられている。また、磨製石剣や磨製石鏃・磨製の石包丁は高島石とみられる黒色粘板岩、磨製石斧や砥石は砂岩中心に安山岩も用いられる。

石器の分布を第6表で示す。溝11以西の集落域で9割強を占め、方形周溝墓が群在する墓域では疎らである。第6表では、溝11以東と墓域は他区として一括した。包含層で5割強が出土し、遺構では多くの溝や土壇等から数点程度出土する状況である。集落域全体にかけて分布するが、5～7-E・Fで特に集中する。また器種別では、安山岩やチャート製の石器群は全体の分布状況と同様であり、集中域で石鏃や石錐等の製作が行われたと考えられる。磨製石剣や磨製石鏃は、集中域周辺に散在し対照的である。

(2) 石器の形態

磨製石剣（第119図1～6） 両面に研磨され、刃部には長軸方向、他は斜行する研磨痕がみられる。形状から以下のように類別した。

1類（1～5） 鉄剣形を呈す。1は、両面とも器体中軸が鎗状となり、断面が菱形を呈す。両側縁下位に段をもち、扁平な茎部が作出される。茎部は側面との稜を除去するよう研磨される。2～5は茎部。2は左側縁上部に刃部が残る。3は表面上部の中軸が鎗状となる。遺存状態が悪く刃部境は不明瞭である。5は、両面とも器体中軸が鎗状となり、茎部下位に1対の小孔をもつ。

2類（6） 有樋式で銅剣形を呈す。小破片だが中央に樋がみられる。また、集落内での祭祀に用いられたとも考えられる。

銅鏃（第119図7） 錆が生じておらず赤銅色を呈す。湯まわりが悪く、表面の基部周辺と裏面全体が荒れている。器体中軸が鎗状となり、下位に孔をもつ。また、裏面の刺逆の付け根には共に刻みをもち、僅かに茎部が作出される。

磨製石鏃（第119図8～19） 多くは両面に研磨され、長軸方向や斜行する研磨痕がみられる。基部の形状から以下のように類別した。

1類（8） 凹基鏃。両側縁上半で湾曲し、基部中央に孔をもつ。基端はやや粗く研磨される。

2類（9～15） 平基鏃。9～12はやや細身で、平面が長三角形を呈す。両側縁が緩く湾曲し、

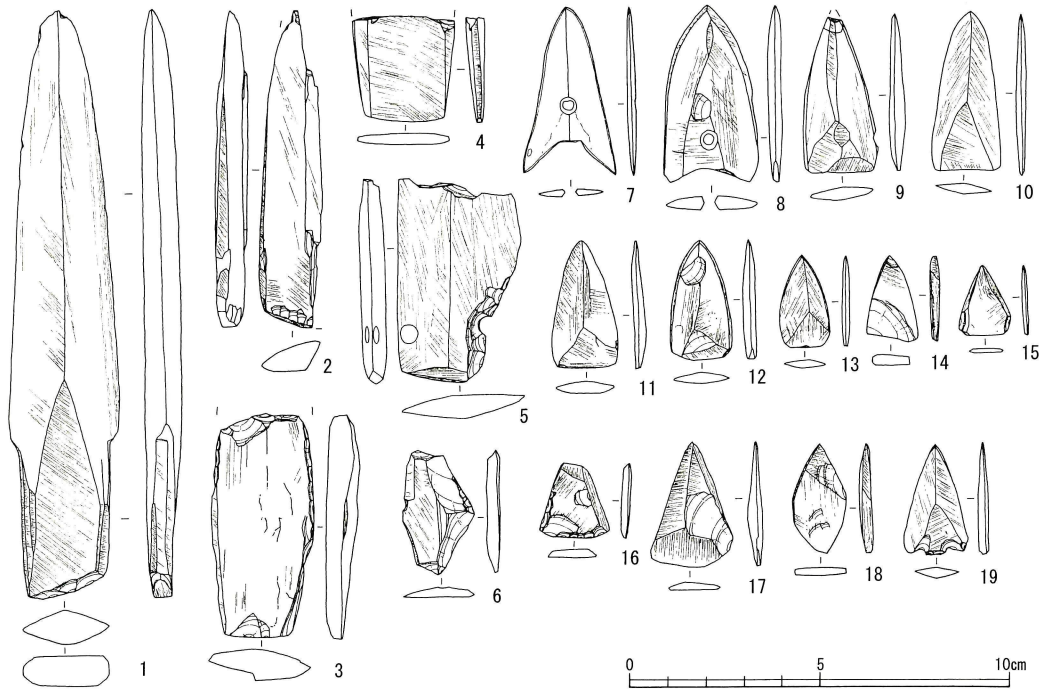
第4章 遺 物

第5表 石器組組成表1

石質	磨製 石劍	磨製 石鏃	打製 石鏃	石鏃 未	石鏃	石鏃 未	楔形 石器	R. F.	剥片	石包丁		磨製石斧						砥石	計
										1類	2類	1類	2類	3類	4類	破片			
安山岩			84	12	11	6	4	30	362		5	10		3	2	3		532	
チャート			18	12	12	5	5	33	571		3			1				660	
砂岩												34	3	9	1	23	10	80	
粘板岩	8	13							9	51				1				82	
頁岩				1		3			17				1		1		6	29	
凝灰岩																	13	13	
瑪瑙				1					39									40	
水晶			1															1	
計	8	13	103	26	23	14	9	63	998	51	8	44	4	14	4	26	29	1437	

第6表 石器組組成表2

区	磨製 石剣	磨製 石鏃	打製 石鏃	石鏃 未	石鏃	石鏃 未	楔形 石器	R. F.	剥片	石包丁		磨製石斧						砥石	計
										1類	2類	1類	2類	3類	4類	破片			
11C									1			1						2	
12C			2															2	
7D			2						5						1	1	2	11	
8D			1					1	8					1				11	
9D									7									7	
10D			2		1				22								1	26	
11D			1			1			9	1		1						13	
12D			1		1				4									6	
5E			1						5							1		7	
6E			3	1	1			1	69									75	
7E	1	1	4	1	1		3	4	76	1		3	1	1	1	4		102	
8E			5	2				2	28	1		2				1		41	
9E		2	2			1		2	25									32	
10E	1		1			1		1	12	1								17	
11E									3							1	1	5	
12E		1	1	1					6								1	10	
4F			4	1				1	28									34	
5F	1		14	2	3	2	1	2	111	2		2		1		4		145	
6F			3	2	3	1		3	113	3		2		1		3	1	135	
7F		1	3	5	1	1		4	70	2	1		1				1	90	
8F	1	1	1	2	1			2	23	2	1	2		1			2	39	
9F			1		1				8	1		1		2			1	15	
10F			1						12									13	
11F		1			1				5	1							3	11	
12F			3						4		1							8	
1G									1									1	
2G								1	7							1		9	
3G			1			1	1	3	29	2		1				1		39	
4G			6		1	1	1	2	26									37	
5G		1						1	23					1		1	1	28	
6G			2						14			1	1			1	1	20	
7G	1		2		1	1	1	1	21	1	1							30	
8G			4						8	3		1						16	
9G			1	2	1			1	10								1	16	
10G		1						2	13	1						2	2	21	
11G									5			1						6	
12G			1						1									2	
2H			4	2				3	15			1			1			26	
3H			3	1	1		1		14	1				1				22	
4H	2					1			10			2				1		16	
8H			3						3	1						1		8	
9H				1	1				3			1		1	1			8	
10H									2									2	
11H														1			1	2	
12H					1												1	2	
他	1	4	16	1				2	68	6	1	11		1		2	3	116	
表採			4	2	3	3	1	24	71	21	3	11	1	2		1	6	153	



第119図 石器実測図1(縮尺1/2)

9～11は両面とも器体中軸が鎗状となる。13～15は、やや小形の一群。13は、両側縁が緩く湾曲し、表面の器体中軸が鎗状となる。14は、側辺に面が作出され、基部境が最大幅となる。

3類(16、17) 円基鏃。基部境が最大幅となり、平面は幅広でずんぐりした形状を呈す。17は、左側辺に面が作出される。

4類(18) 凸基鏃。側辺に面が作出される。

5類(19) 有茎鏃。基部に挟入が作出され、両面とも器体中軸が鎗状となる。

打製石鏃(第120・121図) 多くが大形で、両面や周辺を中心に調整される。基部や全体の形状から以下のように類別した。

1類(第120図1～8) 有茎鏃。多くは両面中央まで平坦に調整される。1と2は、器体中軸が鎗状となる。1は、両側縁が内湾し、上位に緩く段をもつ。基部境が大きく突出する。2は細身で、基部境に緩い段と基端に面をもつ。磨製石剣の鉄剣形に近い形状を呈す。3は、両側縁が湾曲して丸みもち、基部は突出する。周辺に調整される。4は、器体上半の中軸が鎗状となる。5は、薄手で緩く反る。6はやや大形で、基部が突出する。7と8は、基部が平らに作出され、平面は三角形を呈す。共に右側縁上位が緩く湾曲し、先端の作出が不十分である。未製品とも考えられる。7は、周辺に調整される。8は、両側縁が内湾し基部境が突出する。

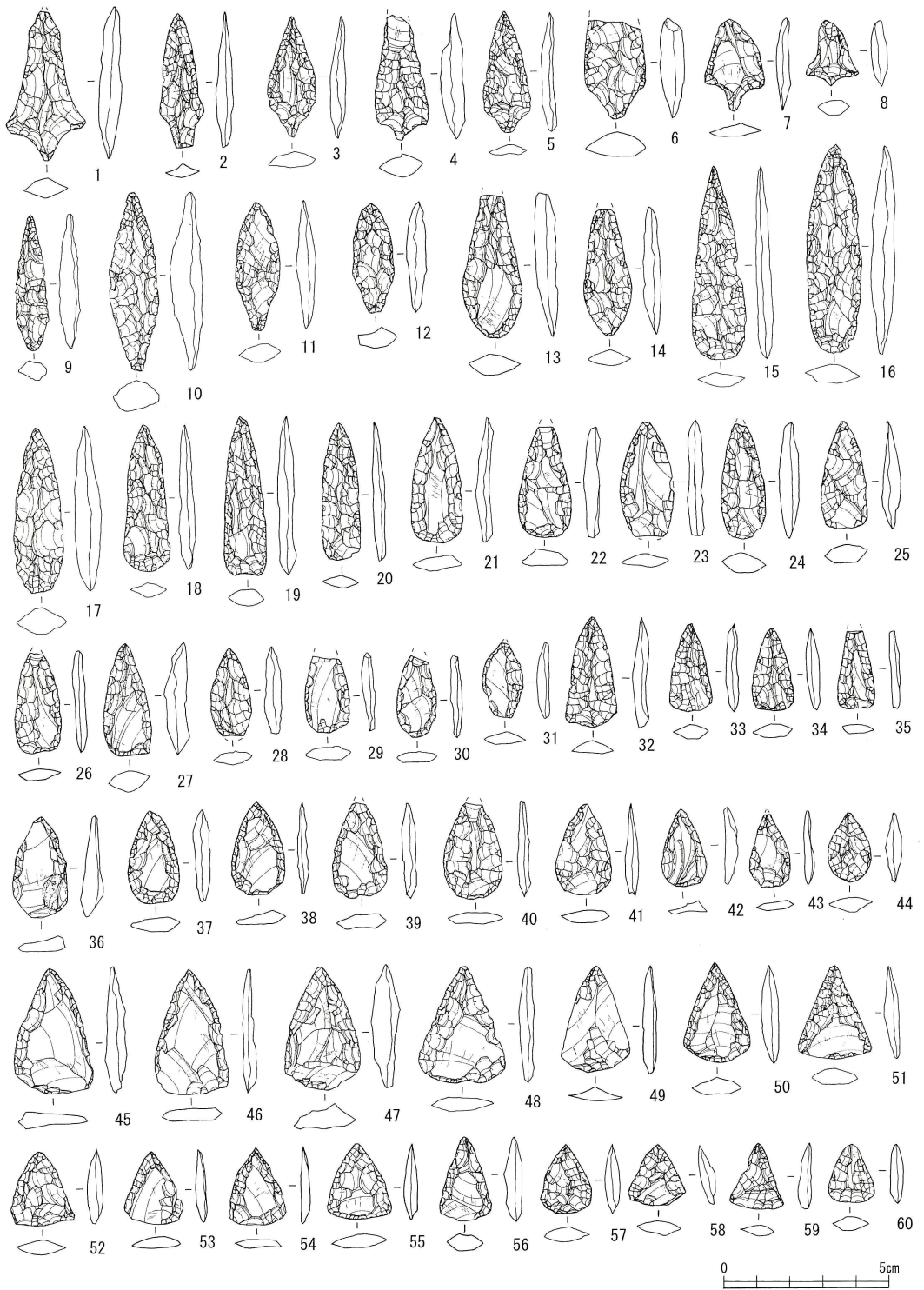
2類(第120図9～14) 凸基鏃。両面中央まで調整され細身となる。9と10はやや厚手で、基部が直線的に突出する。9は器体中軸が鎗状となる。11と12は、基部が僅かに内湾して突出し、

側縁は緩く湾曲して丸みをもつ。11は、表面が周辺に調整される。12は、表面中央に凹凸をもち先端が鈍い。13と14は、基部が湾曲して突出し丸みをもつ。器体上半の中軸が鎬状となる。

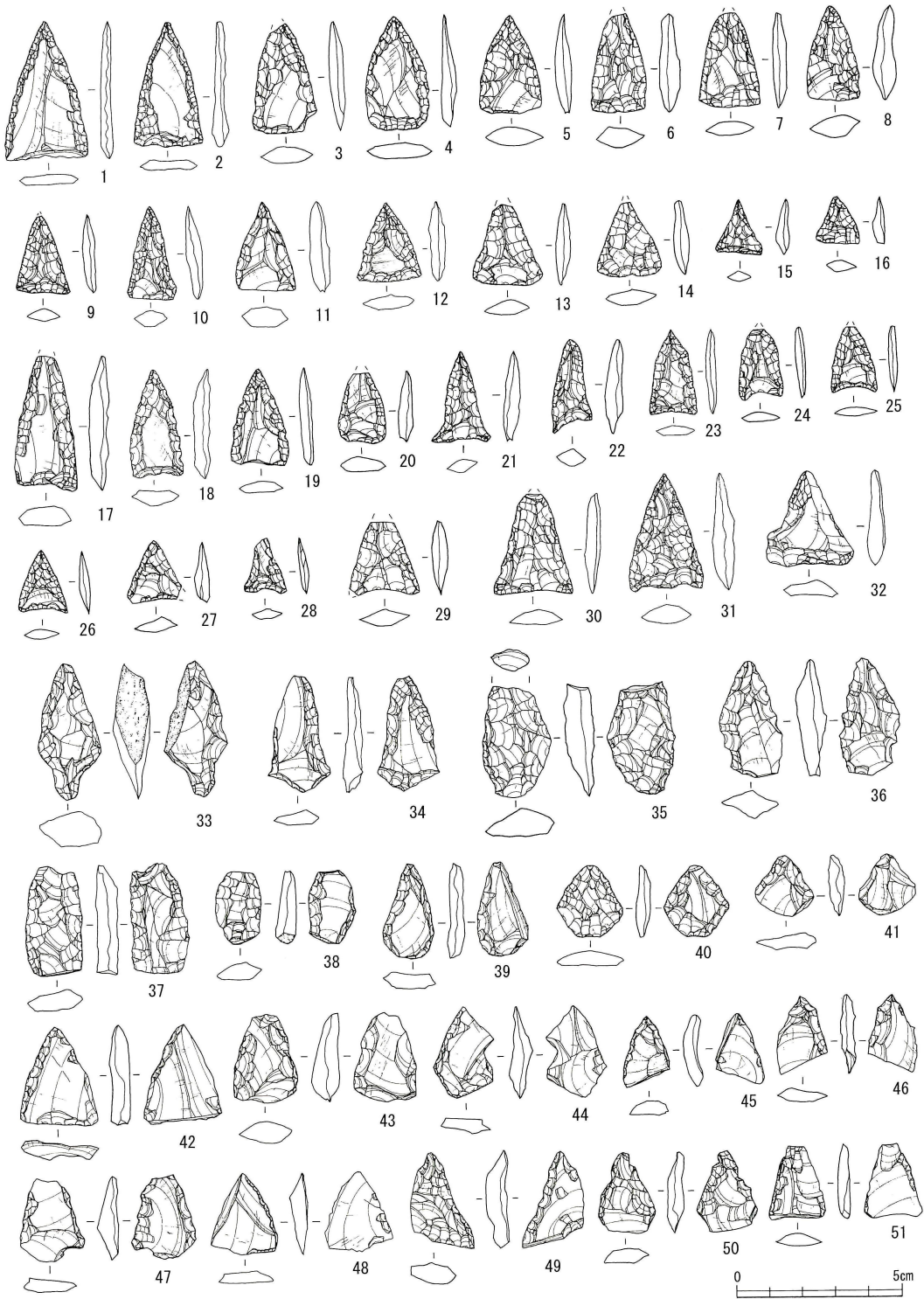
3類（第120図15～60）円基鋳。平面が幅広は周辺中心、細身ほど両面中央まで調整される。15～20は、両面中央まで調整されて柳葉形となる。15は薄手で、先端へ向け尖鋭に作出される。16と17はやや厚手で、最大幅が器体中位にくる。18は、右側縁上位に緩く段をもつ。19は、基部に挟入が僅かに作出される。21～60は、多くが周辺中心に調整される。21～31は、側縁が緩く湾曲し、やや細身の形状を呈す。26は薄手で、平坦に調整される。27は水晶製で、器体が厚手で緩く反る。28～31は小形の一群で、28は両面中央まで調整される。32～35は、最大幅が基部境にあり、細身の長三角形状を呈す。32～34は、両面中央まで平坦に調整され、32は器体が緩く反る。35は、周辺中心に調整され、細身の形状を呈す。36～44は、側縁が湾曲し、幅広でずんぐりした形状を呈す。36は、器体下半が厚手である。40と41は、平坦に調整され薄手である。42～44は、小形の一群。42は、器体が緩く反る。44は、両面中央まで平坦に調整される。45～60は、最大幅が基部境にあり、45～51は長三角形状、52～60は小形の三角形状を呈す。45は、左側縁下位が素材のバルブにあたり厚みをもつ。46と47は、側縁が緩く湾曲し、47はやや厚手である。48～51は、側縁が直線的である。49は、先端と基部に調整され、両側縁に素材の縁辺を残す。52・55・57・59は、両面中央まで平坦に調整される。52は、基部右端がやや突出する。53は、右側縁下半の作出が不十分である。56は、やや細手で厚手である。57は、側縁が湾曲する。58は、裏面中央に素材の凹凸が残る。

4類（第121図1～16）平基鋳。1～8は、多くが周辺中心に調整されて長三角形となる。1と2は、薄手である。3と7は、周辺が平坦に調整される。4は、側縁が湾曲してずんぐりした形状を呈す。5は、表面上半が器体中央まで調整される。6は、両面中央まで調整され、やや厚みをもつ。8は、平面に凹凸があり、厚みもち反る。9～16は、小形の三角形を呈す。9・13・14は両面中央まで、10～12は周辺中心に調整される。10は、やや細手である。11はやや厚手で、基端に素材の縁辺を残す。12は、両面中央に磨面を残す。安山岩製だが、他器種を転用したとも考えられる。15と16はさらに小形で、両面中央まで平坦に調整される。15は、側縁が緩く内湾し、先端が尖鋭に作出される。

5類（第121図17～32）凹基鋳。多くは基部の挟入が僅かである。17～25は、周辺中心に調整され長三角形状となる。17は、基部右端がやや突出する。19は、基部の裏面側が未調整である。21と22は、両面中央まで平坦に調整されてやや細手となる。また、器体中軸が鎬状となる。21は、側縁下半から内湾し、基端が大きく突出する。22は、基端の突出が左右で異なる。23～25は薄手で、24と25は基部の挟入が明瞭である。23は、側縁上位に緩く段をもつ。24は、側縁上半が緩く湾曲する。26～32は、平面が三角形を呈す。26～28は、小形の一群。26は周辺中心、27は両面中央まで調整される。28は、基部の挟入が明瞭だが、先端の作出が不十分である。29と31は両面、30は表面中央まで調整される。32は、周辺に調整されるが、右側縁の表面側は未調整で



第120図 石器実測図2(縮尺1/2)



第 121 図 石器実測図 3 (縮尺 1/2)

ある。左側縁中程が内湾し、基部左端の作出は不十分である。

石鏃未製品（第121図33～51） 製作工程のより後半の一群だが、石鏃未製品を含むとも考えられる。33と34は、有茎鏃の未製品と考えられる。33は、礫面を打面とする厚手の剥片が素材。表面は器体中央まで、裏面は周辺に調整されて茎部が作出される。34は、周辺に調整されるが先端の作出が不十分で、左側縁上半の表面側は未調整である。35は、凸基鏃か円基鏃の未製品と考えられる。両面中央まで平坦だが粗く調整され、右側縁中程が屈曲する。36～41は、円基鏃の未製品と考えられる。36は、器体上半の周辺に調整される。37は両面中央まで、38は周辺に調整されるが、先端と基部が未作出である。39は、周辺に調整される。40と41は、円基鏃で平面が小形の三角形の未製品と考えられる。40は、両面に調整されるが先端の作出が不十分である。41は、表面上半が周辺、裏面は器体中央まで平坦に調整される。基部の表面側は未調整である。42～51は、3～5類の未製品と考えられる。42は、周辺に調整され長三角形状となる。左側縁と基部の裏面側と右側縁下半は未調整である。43は、両側縁が調整されるが、先端が未作出である。厚手でずんぐりした形状となる。44は、左側縁から基部にかけ調整される。素材の縁辺や凹凸を多く残す。45は、両側縁の表面側が調整される。基部は未作出で、器体が反る。46は、右側縁に調整される。47は、両側縁に調整されるが、先端と基部が未作出である。48は、右側縁の表面側に調整される。49は、右側縁と基部の表面側に調整されるが、器体が反る。石鏃未製品とも考えられる。50は両側縁、51は左側縁に調整されるが、先端の作出が不十分である。

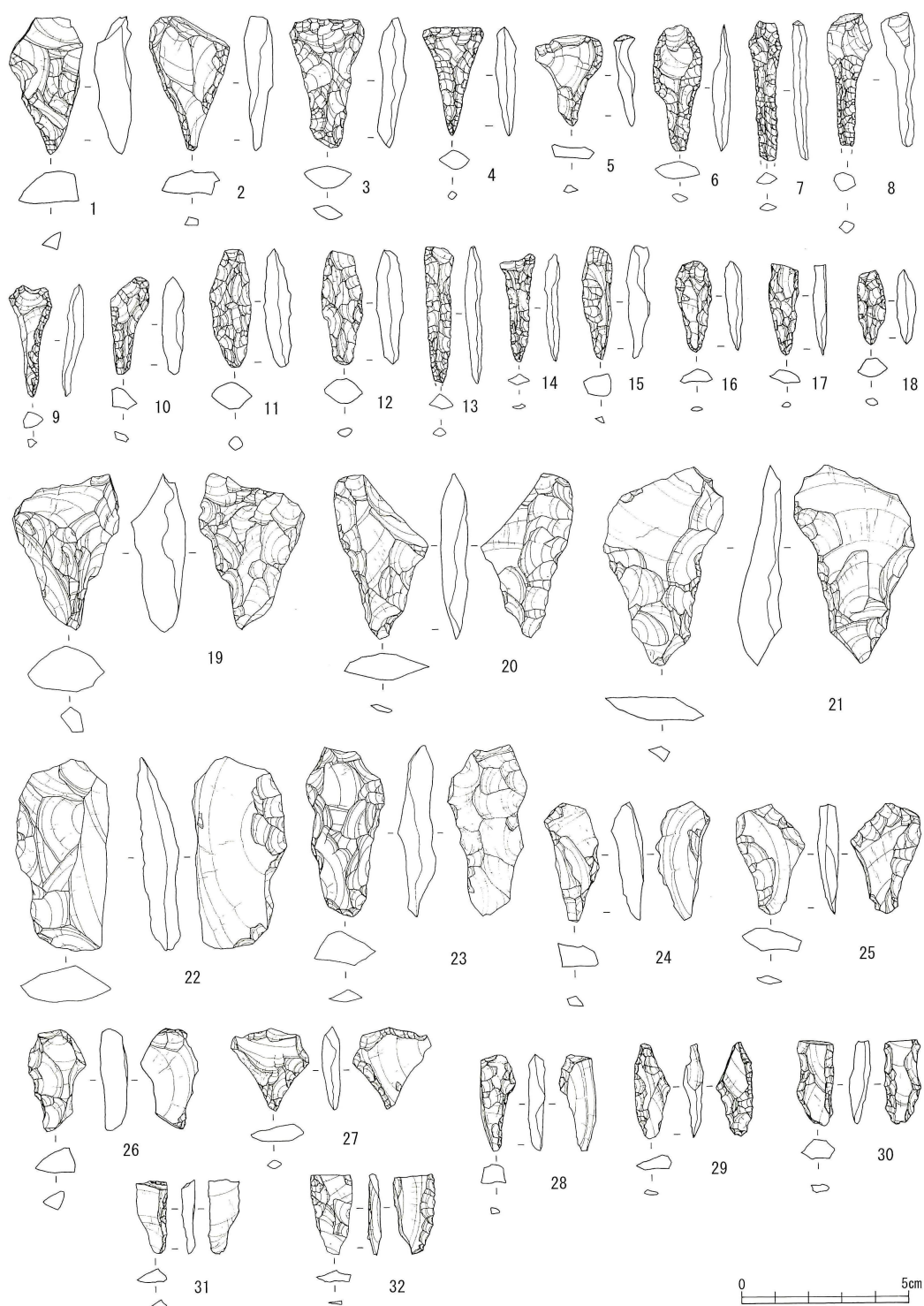
石鏃（第122図1～18） 形状から以下のように類別した。

1類（1～5） 幅広の基部をもち、逆三角形を呈す。1と2は、両側縁の表面側に調整され、2は左側縁下半が緩く内湾する。3は両面中央まで、4は周辺中心に調整され、両側縁が緩く内湾する。3は、刃部が顕著に磨滅している。4は、刃部が尖鋭に作出される。5は、右側縁と左側縁下半の表面側に調整され、側縁中程で内湾する。

2類（6～10） 側縁に屈曲や段をもち、細長い刃部が作出される。基部と刃部の境は明瞭である。6は、周辺に調整され側縁中程で内湾する。基部は楕円形となる。7～9は、側縁が内湾し、基部境に緩く段をもつ。7と8は、両面に調整され、8は基部が厚手である。9は、右側縁と左側縁上位の表面側に調整され、基端は内湾する。10は、両面中央まで平坦に調整される。左側縁上位に段をもち、基部は右上方へ屈曲する。

3類（11～18） 細長い刃部をもち、基部と刃部の境が不明瞭である。11～14は、両面中央まで調整される。11と12は、やや幅広く厚手で、12は側縁中程で緩く内湾する。13と14は細身で、13は器体中軸が鎗状となる。14は、基部左端が側方、右端は右上方へ突出する。15～17は、周辺中心に調整される。15は、素材面を多く残し器体が反る。刃部の作出も不十分であり、未製品とも考えられる。16は、表面が周辺、裏面は基部に調整される。18は、両面中央まで調整され、側縁下位で緩く内湾する。小形だがやや厚手である。刃部は磨滅し、断面が円形状となる。

石鏃未製品（第122図19～32） 器体に凹凸をもち刃部の作出は不十分だが、製作工程のより



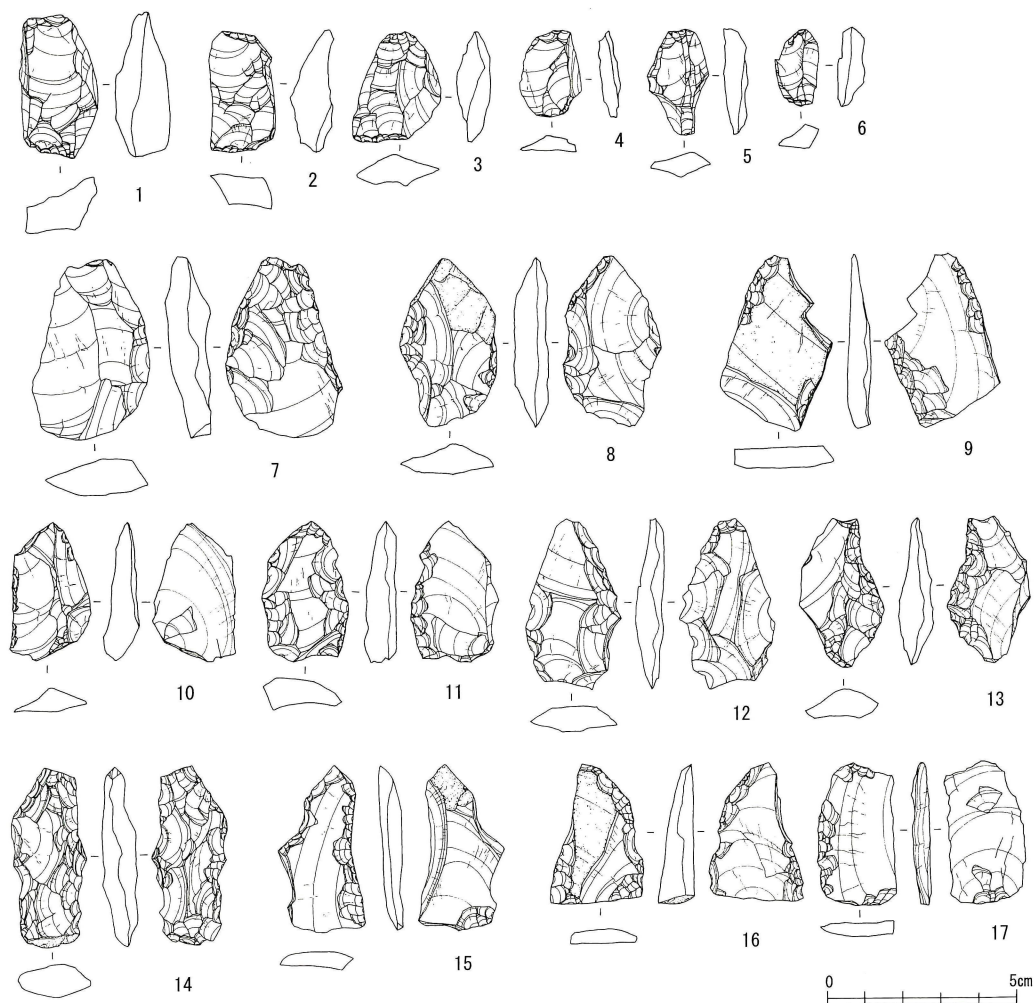
第122図 石器実測図4(縮尺1/2)

後半の一群と考えられる。多くは厚手で側縁が内湾するが、石鏃未製品を含むとも考えられる。19～27は、基部が幅広で逆三角形を呈す。石鏃1類の未製品と考えられる。19～23は、大形厚手の一群。19と23は両面に粗く調整され、23は石鏃1～3類の未製品とも考えられる。20と21は、周辺中心に調整される。20は、基部右半が表面側への調整で剥取され、21は裏面の調整が粗い。22は、左側縁の裏面側に調整される。24～27は、やや小形の一群。24は右側縁、25と26は周辺に調整される。27は、基部と右側縁に調整される。28～30は細身で、側縁に屈曲や段をもつ。石鏃2類の未製品と考えられる。28は、右側縁に調整され上位で屈曲する。29と30は、周辺に調整される。29は右側縁上位で屈曲し、30は左側縁中程に段をもつ。31と32は細身で、側縁が直線的である。石鏃3類の未製品と考えられる。31は右側縁、32は左側縁に調整される。

楔形石器（第123図1～6） 両極技法により作出される。上下にパルプをもつ両極剥離はみられないが、表裏に対向する複数の剥離面がある。また上下端に線状の潰れが形成される。石鏃や石鏃の素材を含むとも考えられる。

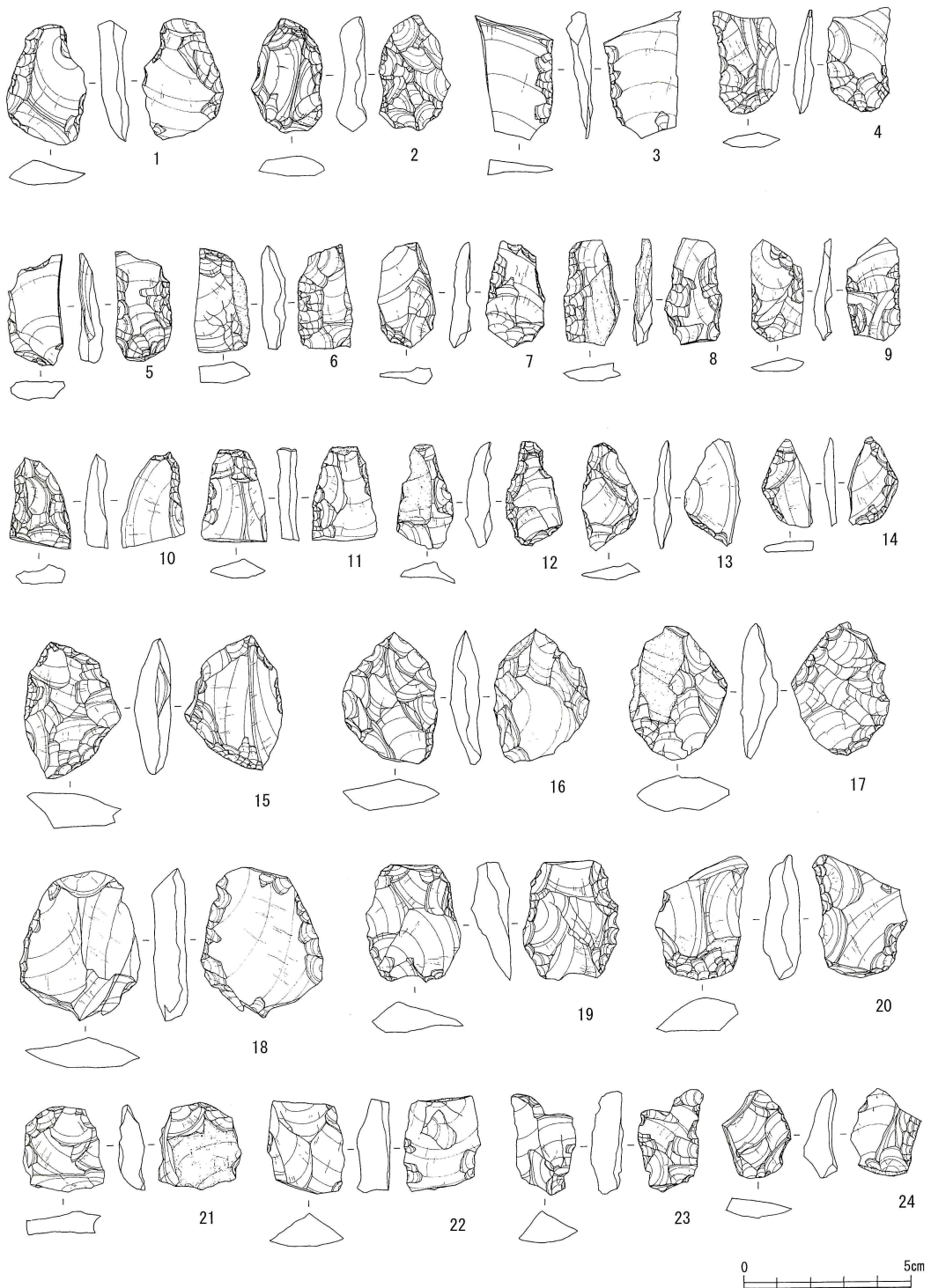
2次加工のある剥片（第123～125図） 石鏃や石鏃の製作工程のより前半にあたる一群と考えられる。両器種の未製品として区分が不明確なため、2次加工のある剥片とした。尖鋭な端部を作出するよう調整される。調整や形状により以下のように類別した。

1類（第123図7～17・第124図1～24） 縦長の形状を呈す。多くは周辺中心で折断による調整もみられる。第123図7～17・第124図1～4は、縦長でやや大形の一群。第123図7は、裏面上半が器体中央まで、8は右側縁の裏面側中心に調整される。9は、左側縁上半と右側縁下半の裏面側へ調整される。10は左側縁、11は表面周辺と右側縁の裏面側に調整される。12は周辺中心、13は右側縁に調整される。14は、両面中央まで調整され細身となる。15は、両側縁に調整される。16は、左側縁上半が折断され、両側縁に調整される。17は、左側縁に調整される。第124図1は、左側縁中心に調整される。2は表面周辺、裏面が器体中央まで平坦だが粗く調整される。3は、上端と左側縁が折断され、右側縁に調整される。4は、左側縁と下端に調整される。5～14は、縦長でやや小形の一群。5は裏面周辺、6は右側縁の裏面側と表面上端に調整される。7は、裏面の両側縁上半に調整される。裏面下半に凹凸がある。8は、左側縁と右側縁の裏面側へ調整される。9は、不連続だが両側縁に調整される。10は表面が器体中央まで、左側縁は裏面側へ調整される。11は右側縁の裏面側、12は裏面周辺に調整される。13は、左側縁と右側縁下半の裏面側へ調整される。14は、左側縁に調整される。15～20は、縦長だが幅広でやや大形の一群。15～17は、器体中央まで調整される。側縁が湾曲して下端も突出する。15は表面が器体中央まで、裏面は周辺に調整される。16は、両面中央まで調整される。17は表面周辺、裏面が器体中央まで調整される。18～20は、周辺中心に調整されるが、端部の作出が不十分である。19は、表面の調整が不連続である。20は、裏面周辺に調整される。21～24は、縦長だが幅広でやや小形の一群。周辺中心に調整される。22は裏面の両側縁一部、23は裏面周辺に調整される。24は、右側縁の表面側と左側縁の裏面側へ調整される。

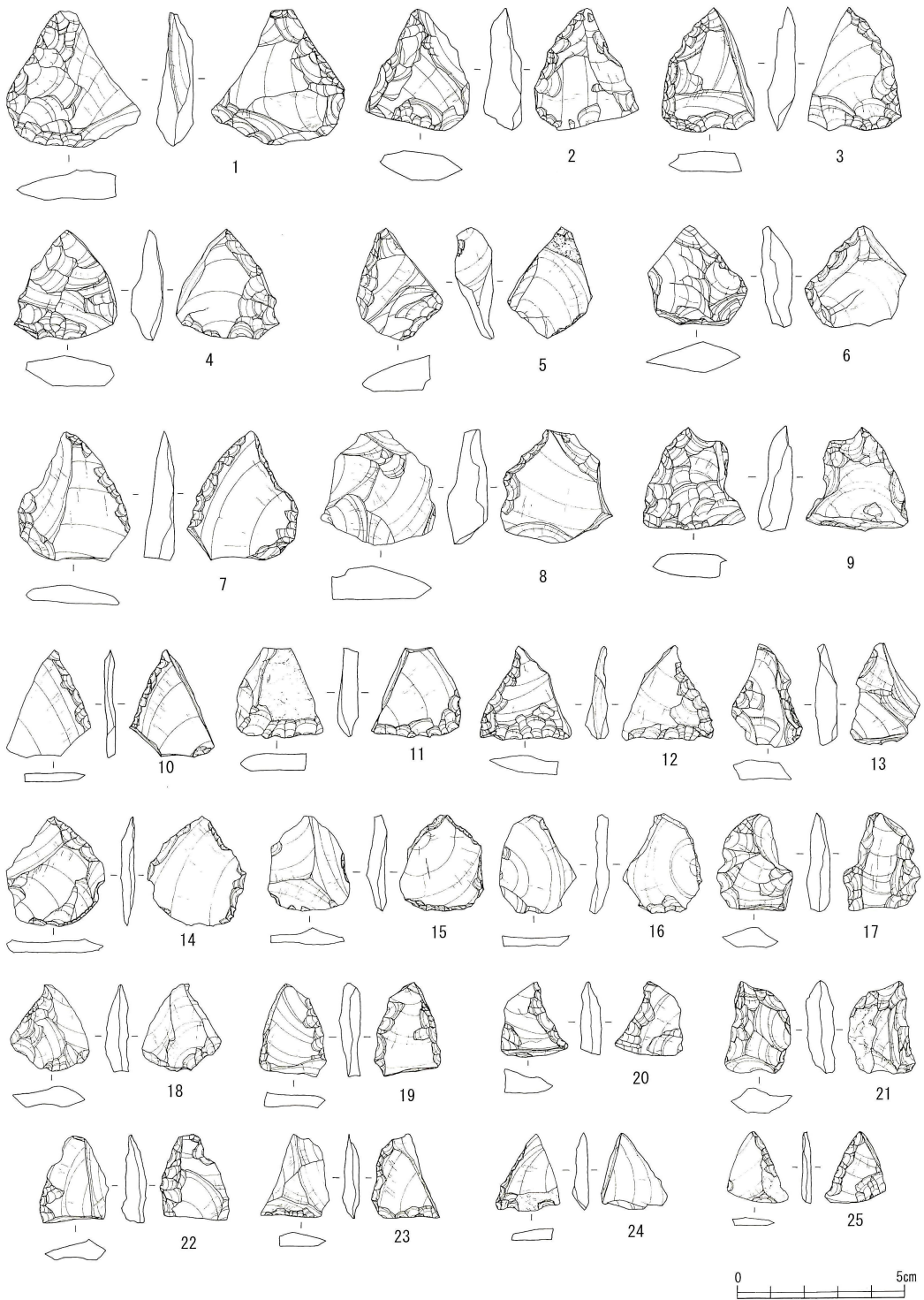


第123図 石器実測図5 (縮尺1/2)

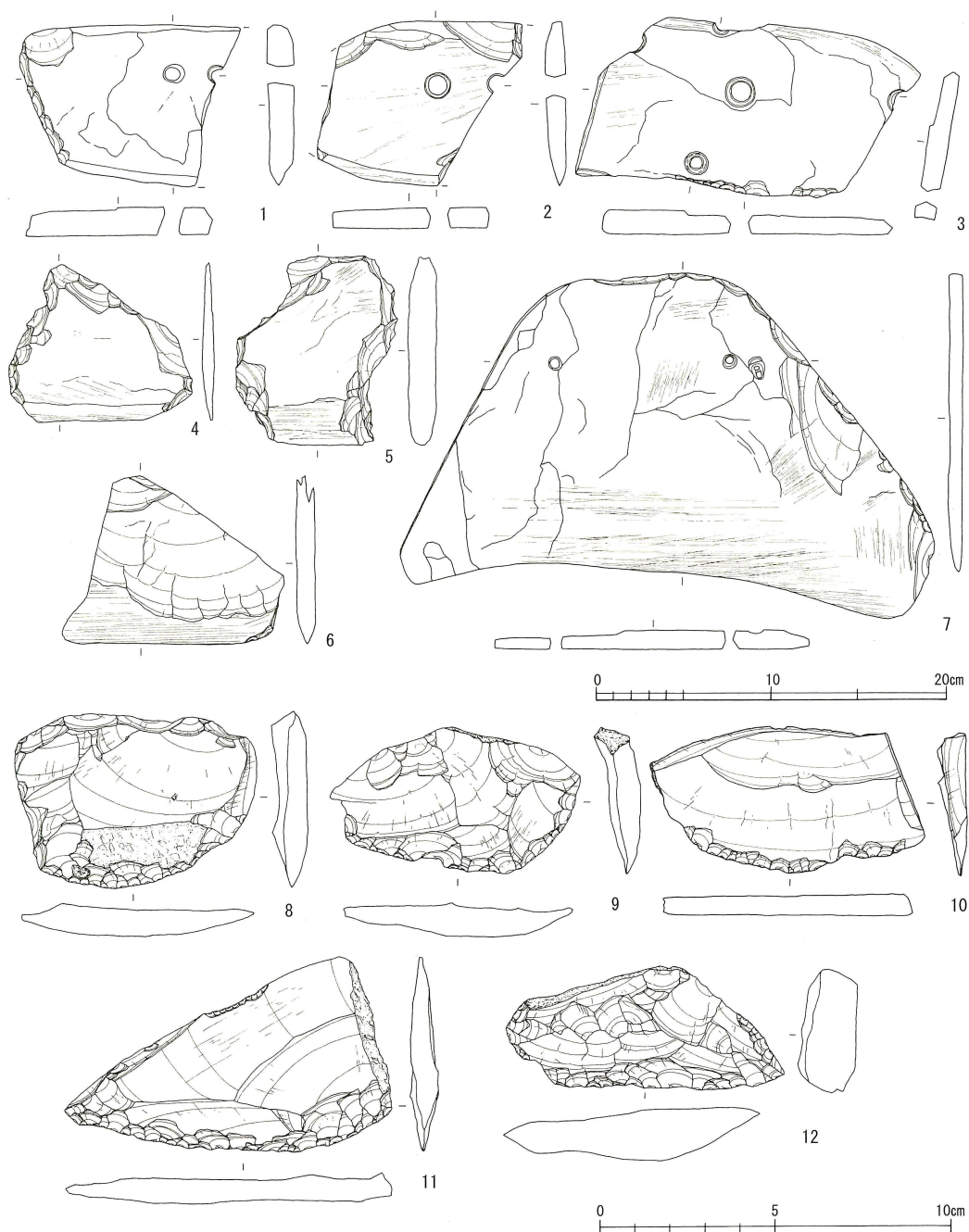
2類(第125図1～25) 三角形状を呈す。多くは折断され周辺中心に調整される。1～9は、厚手でやや大形の一類。2は、左側縁の表面側と右側縁の裏面側へ調整される。4は、表面が器体中央まで平坦に調整される。5は、表面周辺に調整されるが、器体右半に厚みをもつ。6は、表面周辺と右側縁の裏面側へ調整される。8は裏面周辺、9は左側縁の表面側と裏面周辺に調整される。10～25は、やや小形の一類。10は右側縁、11は下端に調整される。13はやや細身で、左側縁下半と右側縁の表面側へ調整される。14は、右側縁と左側縁の裏面側へ調整される。15は裏面周辺、16は下端に調整される。17は、左側縁の表面側と裏面周辺に調整される。18は左側縁中心、19は両側縁、20は右側縁中心に調整される。21は、表面が器体中央まで、裏面は周辺中心に調整される。22は、左側縁下半の表面側と右側縁の裏面側へ調整される。23は、下端と右側縁の裏面側へ調整される。24は左側縁、25は右側縁と下端の裏面側へ調整される。



第124図 石器実測図6(縮尺1/2)



第125図 石器実測図7(縮尺1/2)



第126図 石器実測図8(縮尺1/2、7は1/4)

石包丁(第126図1~12) 調整から以下のように類別した。

1類(1~7) 磨製の一類。主に粘板岩製で、薄手の板状剥片が素材。多くは体部に斜行、刃部には短軸方向の擦痕がみられる。1~3は、相対する紐孔をもつ。1は、背部が直線状で、刃

部はやや外湾する。2は、背部と刃部が外湾する。3は、背部が外湾し左端に礫面を残す。両面とも背部に沿い円弧状の擦痕がみられる。また、器体左半にも上下に相対する紐孔がある。左端を背部とする大形の石包丁が欠損後、右に90度転位し再加工されたと考えられる。4～6は、直線状の刃部をもち、5は背部が僅かに残る。7は、大形で台形状を呈す。背部は紐孔上方で屈曲し、端部が丸みをもつ。刃部は内湾し、何回か再加工されたと考えられる。両面とも体部に剥離面を多く残すが、刃部は丁寧に研磨される。体部は長軸方向や斜行、刃部は主に短軸方向の擦痕がみられる。また紐孔を2対もつが、内1対は裏面から穿孔されるが途中で終えている。

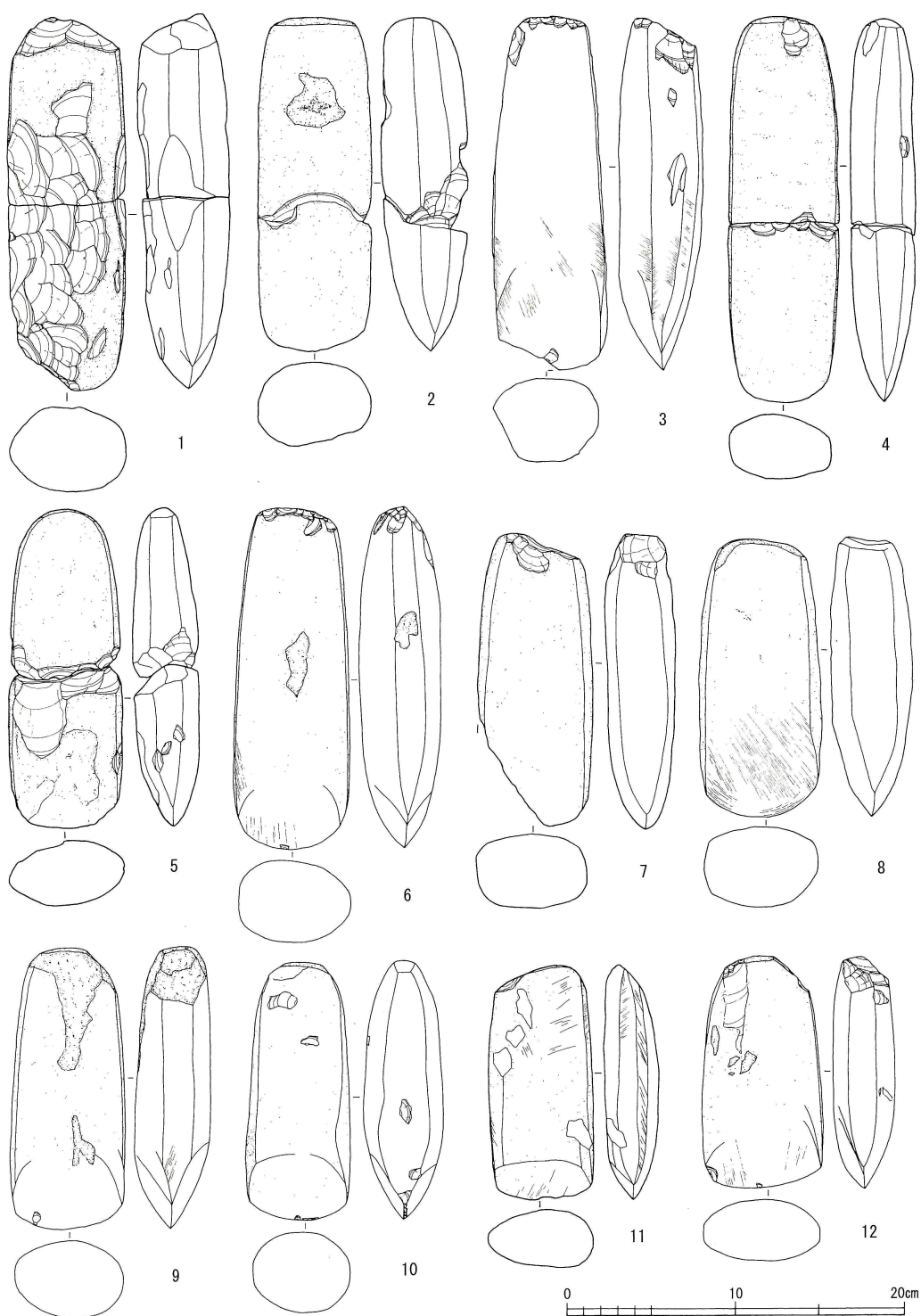
2類（8～12） 打製一群。安山岩やチャート製で、大形の横長剥片が素材。多くは刃部の両面に調整される。素材と調整が石鏃や石錐と共通しており、削器とも考えられる。8～10は背部が僅か、刃部は大きく外湾し楕円形を呈す。8は、背部と左端が両面、刃部は表面側に調整される。9は、背部中程で屈曲する。10は、背部と右端が折断される。11と12は、背部の右上方で屈曲し、刃部が外湾する。端部は尖鋭に作出され扇形状となる。

磨製石斧（第127・128図） 太型蛤刃石斧・柱状片刃石斧・扁平片刃石斧・小型方柱状片刃石斧がある。

太型蛤刃石斧（第127図・第128図1～8） 多くは平坦な基部をもち、刃部に向け側辺がほぼ平行する。断面は厚く円形に近い。第127図1～6は、大形で細身一群。1は基端が周辺、表面は左端から調整されるが作出不十分である。刃部の裏面側に敲打痕が残る。2は、基端が敲打により平坦に作出される。表面上半に敲打痕があり緩く凹む。3は、基部がやや細くすばまり、基端に礫面を残す。右側面下半に斜行する研磨痕がみられる。4と5は、基部が丸みをもち、断面はやや扁平である。5は表面と左側面下半、6は表面と右側面中央に敲打痕が残る。7～10は中形一群。7は、側辺に不明瞭な稜をもち、やや扁平である。8は、表裏とも刃部に斜行、刃縁には円弧状の擦痕が明瞭にみられる。9と10は、基端が敲打により作出され、やや丸みをもつ。9は、両側面から表面側へ斜行する研磨痕がみられる。第127図11～第128図8は小形一群。11と12は、やや扁平な形状を呈す。11は、両側面に斜行する研磨痕がみられ、側辺の稜を除去するよう作出される。12は、基端が周辺から調整され丸みをもつ。第128図1・2・7は、基端が敲打により作出される。1は表裏、2は両側面上位に敲打痕が残る。3は、基端が周辺から調整され、器体上半に敲打痕が多く残る。4は、細くすばまる基部をもち、長三角形を呈す。側辺に面が作出されて断面が方形状となる。5は、全体が研磨される。6は、基端に素材面を残し上端から調整される。側辺に不明瞭な面が作出される。8は、細身の小形である。

柱状片刃石斧（第128図9） 平面が柱状で、断面は厚手の台形を呈す。また、挟りに短軸方向の研磨痕がみられ、二段作出されている。

扁平片刃石斧（第128図10～22） 多くは平面が長方形で、断面は扁平な方形状を呈す。10と11は、大形一群。10は、裏面右端に斜行する研磨痕がみられる。また、刃部は緩く内湾し再加工されたと考えられる。11は、刃部へ向け幅狭となる。12～18は中形一群で、13・15～18

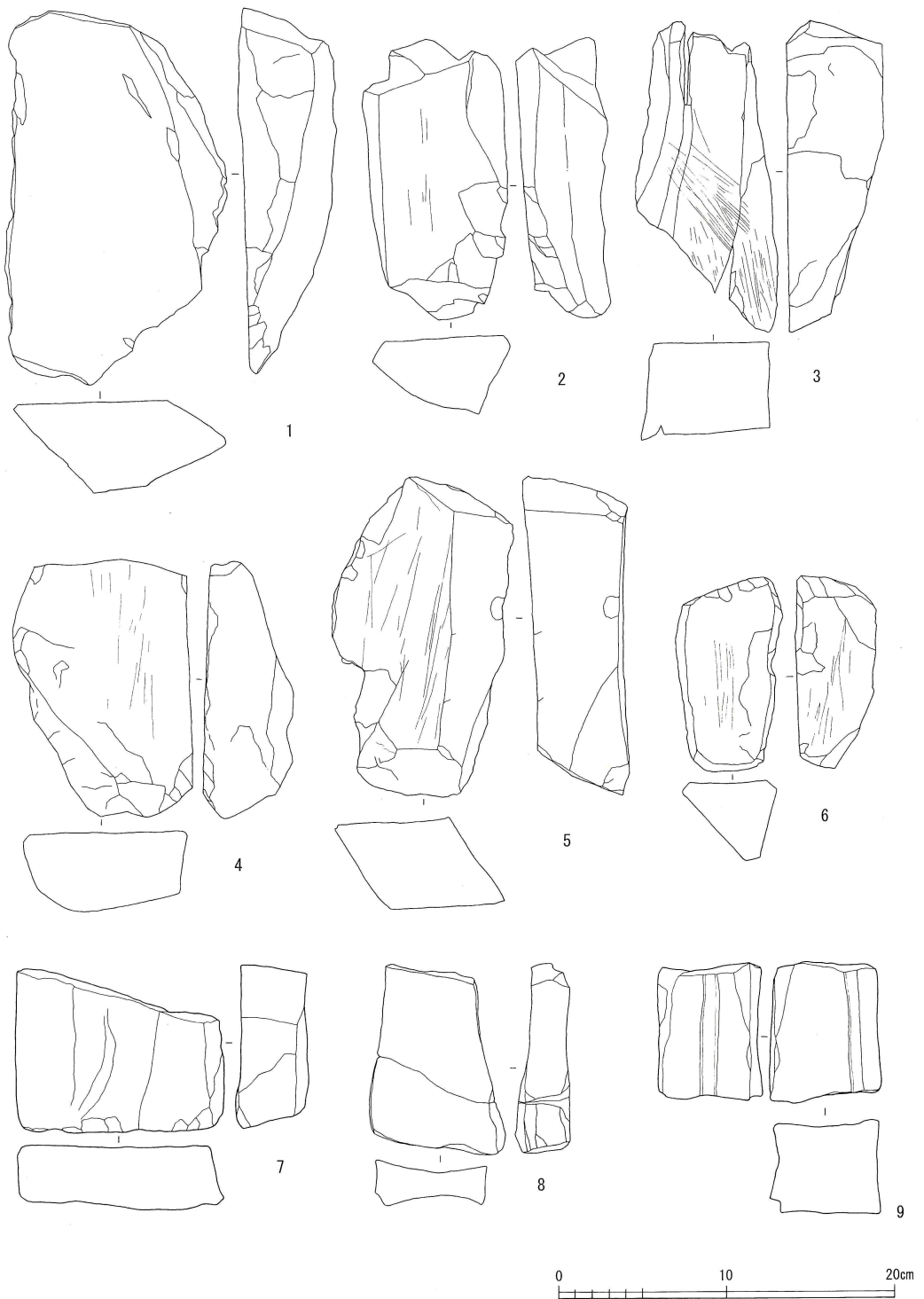


第127図 石器実測図9 (縮尺1/4)



第128図 石器実測図10(縮尺1/4)

は側辺中程の稜上に複数の小剥離面がみられる。12は、基端が左半で屈曲し、右端は剥離面からなる。表面左半に斜行、左側面に長軸方向の研磨痕がみられる。13は、側辺が刃部に向け緩く開く。また13は両側面に長軸方向、15は裏面右半に斜行する研磨痕がみられる。16は、細身でやや厚手である。基端は表裏方向、表裏は斜行と短軸方向、両側面は斜行する研磨痕がみられる。17は、基部がやや丸みをもつ。両側面は稜を除去するよう研磨される。両側面の中軸は長軸方向、端部は短軸方向の研磨痕がみられる。18はやや厚手で、右側面の裏面側は稜を除去するよう研磨される。表裏は斜行、右側面は長軸方向の研磨痕がみられる。19～22は、小形の一群。19は、側辺が刃部へ向け緩く開き、基端中程で屈曲し丸みをもつ。20と22は、両側面の裏面側が稜を除去するよう研磨される。また22は、基部が丸みをもつ。



第129図 石器実測図11(縮尺1/4)



第130図 石器実測図12(縮尺1/4)

小型方柱状片刃石斧(第128図23～26) 小形の方柱状で、断面は厚手の方形状を呈す。23と25は、側面が稜を除去するよう研磨され、断面が丸みをもつ。24は刃部へ向け幅狭となり、25は基部が丸みをもつ。26は、表面が短軸方向、右側面は斜行する研磨痕がみられる。

砥石(第129・130図) 形状と石質から類別した。また、玉作用工具を含むと考えられる。

1類(第129図1～6) 粗悪な安山岩製で、大形厚手の角形を呈す。砥面は平滑となる。1は表面が砥面で、右側面中央に斜行する線状痕がみられる。2と3は、表裏が砥面。2は断面が三角形を呈す。4はやや扁平で、表面が砥面。5は表裏が砥面、6は上下端以外が砥面である。6は、断面が三角形を呈し、表面と右側面中央が緩く凹む。

2類(第129図7～9) 砂岩製で、扁平な板状を呈す。7は、表面と両側面が砥面。8と9は上端以外が砥面。8は表裏が凹み、右側面は湾曲し反る。9は砥面が緩く凹み、表面と左側面は長軸方向に筋状の擦痕がある。

3類(第130図1～11) 頁岩や凝灰岩中心で、扁平な角柱形。1～4は、やや大形の一類。1と3は上下端以外が砥面。2と4は、全て砥面。1は右側辺が湾曲し反り、3と4は表面中央が長軸方向に緩く凹む。5～11は、中小形の一類。5と6・11は上下端以外が砥面。5は、両側面の裏面側が縁取られる。7と9は全て砥面。7は、両側面の表面側が縁取られ、裏面は湾曲し反る。9は、表裏が湾曲し反り、左側面中程が表裏方向に緩く凹む。8は、上端以外が砥面。表面中央が長軸方向に緩く凹む。10は、上下端以外が砥面。表裏とも湾曲し反る。

(3) 吉河遺跡における石器の製作技術と組合せ

石器の形態と製作技術

各器種の形態をまとめ、素材の選択から仕上げに至る工程の技術的な特徴について記す。

石鏃は、円基鏃5割、平基鏃・凹基鏃各々2割弱、有茎鏃と凸基鏃は少量である。有茎鏃と凸基鏃は多くが細身、円基鏃は柳葉形や細身・幅広でずんぐりした形状・長三角形など多様である。平基鏃と凹基鏃は、長三角形や小形の三角形を呈す。円基鏃の一部は平基鏃や凹基鏃と平面形が共通し、基部形状が類別間で漸移的である。有茎鏃や凸基鏃・細身の円基鏃は両面中央まで、円基鏃や平基鏃・凹基鏃は幅広ほど周辺に調整される。

石鏃未製品は、各類とのつながりが不明確である。側縁は湾曲ないし直線的で、細身や三角形を呈す。細身の一群は両面中央まで調整される。三角形の一群は、素材の縁辺や面を残し、または素材の剥片を折断して周辺に調整される。

石錐は、1類が幅広の基部をもち、逆三角形を呈す。多くは側縁が緩く内湾し、周辺中心に調整される。2類は、側縁に屈曲や段をもち、細長い刃部が作出される。基部と刃部の境は明瞭である。基部は周辺中心、刃部は両面に調整される。3類は、細長い刃部をもち、基部と刃部の境が不明瞭である。多くは両面中央まで調整される。

石錐未製品は、各類とのつながりが比較的明瞭である。多くは厚手で側縁が内湾する。石錐1類の未製品で大形厚手の一群は、石鏃と素材が異なる。石錐2・3類の未製品は、石鏃未製品で三角形の一群と調整が共通する。調整が進むと刃部は両面中央まで調整されると考えられる。

2次加工のある剥片は、尖鋭な端部を作出するよう調整されるが、器体に凹凸や反り、素材の面や縁辺を多く残す。作出不十分で不明確だが、大半は石鏃未製品と推察される。石鏃や石錐の未製品より製作工程の前半にあたると考えられる。1類は、縦長形状で多くが周辺中心に調整される。2類は、三角形で折断が多用され周辺に調整される。

剥片は、3cm未満が6割程、3～5cm大が3割強で、5cm以上は僅かである。3cm未満は碎片を多く含み、主に3～5cm大の剥片が石鏃や石錐の素材と考えられる。形状は、幅広の縦長や寸詰まり・横長など多様である。また、礫面をもつ剥片は僅かで、打面や表面一部にみられる。

石器の製作と組成

遺跡における製作・使用・廃棄のあり方からみて、石器群を2つに群別化できる。

1群は、安山岩やチャート等を用いた石鏃等の打製石器である。剥片の特徴から、礫面の多い原石ではなく拳大程度の石核で搬入されたと考えられる。集落域の5～7-E・Fを中心に剥片剥離や調整作業がされ、石鏃や石錐等が製作される。製作作業や製品の使用により、石鏃や石錐・各々の未製品・剥片等が廃棄される。また、製品や未製品は遺跡外へ搬出されたと考えられる。

2群は、粘板岩や砂岩等を用いた磨製石器で、磨製の石剣・石鏃・石包丁・石斧や砥石がある。剥片や碎片が殆どないため、製品や未製品の状態で搬入されたと考えられる。遺跡では、仕上げや再加工中心の製作作業が行われる。1群と比べ破損品が多く、使用中心の石器群と推察される。

第4章 遺物

第7表 石器観察表

番号	器種	出土地	形態	石質	器長	器幅	器厚
119-1	磨製石剣	5F 土壙305	先端欠。	粘板岩	15.6	3.0	1.0
119-2	磨製石剣	7E 土壙291	右上半欠。	粘板岩	8.4	1.6	0.8
119-3	磨製石剣	4H 溝16	上半欠。磨減。	粘板岩	6.0	2.7	0.8
119-4	磨製石剣	10E 建物4	上半欠。	粘板岩	2.8	2.7	0.5
119-5	磨製石剣	8G 包含層	上半と基部右半欠。	粘板岩	5.5	3.3	0.7
119-6	磨製石剣	7H 溝16	大半欠。	粘板岩	3.3	1.9	0.4
119-7	銅鏃	2H 溝16		—	4.5	2.5	0.3
119-8	磨製石鏃	9J 溝32	基部に短軸方向の研磨痕。	粘板岩	4.7	2.5	0.4
119-9	磨製石鏃	方周1	先端欠。	粘板岩	4.2	2.0	0.5
119-10	磨製石鏃	9E 溝		粘板岩	4.4	1.9	0.3
119-11	磨製石鏃	8J 溝32	基部に短軸方向の研磨痕。	粘板岩	3.4	1.8	0.3
119-12	磨製石鏃	9E	両面中央に剥離面を残す。	粘板岩	3.2	1.7	0.3
119-13	磨製石鏃	10G 包含層	裏面に剥離面を残す。	粘板岩	2.4	1.3	0.2
119-14	磨製石鏃	5G 溝	表面下半と基端に剥離面を残す。	粘板岩	2.3	1.4	0.3
119-15	磨製石鏃	方周7北西隅	裏面に剥離面を残す。	粘板岩	1.9	1.4	0.1
119-16	磨製石鏃	7E 包含層	両面に剥離面を残す。先端欠。	粘板岩	2.0	1.9	0.3
119-17	磨製石鏃	7H 溝16	両面に剥離面を残す。	粘板岩	3.3	2.2	0.5
119-18	磨製石鏃	住2	裏面に剥離面を残す。	粘板岩	2.9	1.4	0.4
119-19	磨製石鏃	7E ビット	基端に剥離面を残す。	粘板岩	3.0	1.7	0.3
120-1	石鏃	6E 包含層	裏面中央下半に素材面を残す。先端欠。	安山岩	4.6	2.5	0.7
120-2	石鏃	3H 包含層		安山岩	4.1	1.2	0.5
120-3	石鏃	溝6	両面中央に素材面を残す。	安山岩	3.7	1.5	0.5
120-4	石鏃	8H 溝11	両面中央下半に素材面を残す。先端欠。	安山岩	3.8	1.6	0.7
120-5	石鏃	方周15西溝	裏面中央下半に素材面を残す。	安山岩	3.7	1.4	0.4
120-6	石鏃	9E 包含層	上半欠。	チャート	3.0	1.9	0.7
120-7	石鏃	3G 包含層	両面中央に素材面を残す。	安山岩	3.2	1.9	0.4
120-8	石鏃	2H 溝103		安山岩	2.0	1.6	0.5
120-9	石鏃	4F 土壙305		チャート	4.1	1.0	0.6
120-10	石鏃	8F 溝47	両面中央に素材面を残す。	チャート	5.4	1.4	1.0
120-11	石鏃	7E ビット	表面中央に素材面を残す。	安山岩	3.9	1.3	0.6
120-12	石鏃	5F	両面中央に素材面を残す。	チャート	3.4	1.3	0.6
120-13	石鏃	9F 溝1	両面中央下半に素材面を残す。先端欠。	安山岩	4.4	1.8	0.7
120-14	石鏃	ビット	裏面中央下半に素材面を残す。先端欠。	安山岩	3.9	1.5	0.5
120-15	石鏃	方周1西溝	右側縁一部欠。	安山岩	5.9	1.7	0.5
120-16	石鏃	12G 溝		安山岩	6.4	1.2	0.7
120-17	石鏃	方周3		安山岩	5.1	1.6	0.8
120-18	石鏃	方周15西溝		安山岩	4.4	1.4	0.5
120-19	石鏃	2H	裏面中央下半に素材面を残す。基部右端欠。	安山岩	4.8	1.3	0.5
120-20	石鏃	方周12溝		安山岩	4.2	1.2	0.4
120-21	石鏃	8D 包含層		安山岩	3.8	1.6	0.5
120-22	石鏃	5F 住6ビット	裏面中央に素材面を残す。先端欠。	安山岩	3.4	1.6	0.5
120-23	石鏃	2H 包含層	基端と右側縁一部欠。	安山岩	3.5	1.6	0.5
120-24	石鏃	方周1	先端欠。	安山岩	3.5	1.4	0.6
120-25	石鏃	7E 土壙295	裏面中央に素材面を残す。	安山岩	3.3	1.4	0.6
120-26	石鏃	11D	先端欠。	安山岩	3.1	1.4	0.4
120-27	石鏃	9H 溝11		水晶	3.4	1.5	0.7
120-28	石鏃	12D 方周7台上	基端欠。	安山岩	1.7	1.3	0.5
120-29	石鏃	5F	先端欠。	安山岩	2.4	1.3	0.4
120-30	石鏃	3H	先端欠。	安山岩	2.5	1.2	0.4
120-31	石鏃	方周12北溝	先端と左側縁一部欠。	安山岩	2.3	1.3	0.3
120-32	石鏃	8H 溝11	裏面中央下端に素材面を残す。	チャート	3.4	1.6	0.5
120-33	石鏃	8G 包含層		チャート	2.7	1.3	0.4
120-34	石鏃	表採	裏面中央に素材面を残す。	チャート	2.5	1.2	0.4
120-35	石鏃	方周1	両面中央に素材面を残す。先端欠。	安山岩	2.4	1.1	0.3
120-36	石鏃	5F 包含層	表面中央下半に稜面を残す。	安山岩	3.1	1.7	0.7
120-37	石鏃	10E		安山岩	2.8	1.5	0.3
120-38	石鏃	7D 包含層		安山岩	2.8	1.5	0.3
120-39	石鏃	溝6	基端と先端欠。	安山岩	2.9	1.6	0.4
120-40	石鏃	15C	先端欠。	安山岩	2.9	1.7	0.4
120-41	石鏃	10F	裏面中央に素材面を残す。	安山岩	2.8	1.6	0.4
120-42	石鏃	12D 包含層		安山岩	2.3	1.4	0.5
120-43	石鏃	5F 包含層	先端欠。	安山岩	2.2	1.3	0.3

第2節 遺物各説

番号	器種	出土地	形態	石質	器長	器幅	器厚
120-44	石鏃	5F 包含層		安山岩	2.1	1.3	0.5
120-45	石鏃	12F 包含層		安山岩	3.8	2.3	0.7
120-46	石鏃	溝6		安山岩	3.8	2.3	0.4
120-47	石鏃	土壇18覆土下層		安山岩	3.8	2.3	0.9
120-48	石鏃	10D 包含層		安山岩	3.5	2.7	0.5
120-49	石鏃	9G		安山岩	3.3	2.1	0.4
120-50	石鏃	6E 包含層		チャート	3.0	2.0	0.5
120-51	石鏃	方周17東溝	両面中央下半に素材面を残す。	安山岩	2.8	2.3	0.5
120-52	石鏃	7F 包含層		安山岩	2.3	2.0	0.5
120-53	石鏃	4F		チャート	2.6	1.8	0.3
120-54	石鏃	5F 住6t'ット		安山岩	2.4	1.8	0.3
120-55	石鏃	5E 包含層	両面中央下半に素材面を残す。	安山岩	2.3	2.0	0.4
120-56	石鏃	12C 溝14		安山岩	2.6	1.6	0.5
120-57	石鏃	方周1		チャート	2.1	1.6	0.4
120-58	石鏃	6E 土壇337		チャート	1.8	1.7	0.5
120-59	石鏃	10D 包含層	裏面中央に素材面を残す。	チャート	2.0	1.7	0.4
120-60	石鏃	6F 包含層	磨滅が著しい。	安山岩	1.8	1.5	0.4
121-1	石鏃	方周5北西部上		安山岩	4.2	2.5	0.4
121-2	石鏃	7G 土壇203		安山岩	3.8	2.1	0.5
121-3	石鏃	4F 包含層	基部右端と先端欠。	安山岩	3.3	2.0	0.4
121-4	石鏃	8E 包含層		安山岩	3.4	1.9	0.5
121-5	石鏃	4G 包含層		安山岩	3.0	1.9	0.5
121-6	石鏃	7G 包含層	先端欠。磨滅が著しい。	安山岩	3.0	1.7	0.6
121-7	石鏃	6G 包含層	先端欠。	安山岩	2.9	1.7	0.4
121-8	石鏃	8G 包含層		安山岩	2.9	1.5	0.7
121-9	石鏃	7D	裏面中央に素材面を残す。先端欠。	チャート	2.4	1.7	0.4
121-10	石鏃	9I 包含層		安山岩	2.8	1.5	0.5
121-11	石鏃	9E 包含層		安山岩	2.7	1.8	0.6
121-12	石鏃	6F 包含層	両面中央に斜行する研磨痕。	安山岩	2.4	2.0	0.5
121-13	石鏃	4G 土壇305	先端欠。	チャート	2.5	2.1	0.5
121-14	石鏃	8F 包含層	先端欠。	安山岩	2.2	2.0	0.4
121-15	石鏃	5F 包含層		チャート	1.7	1.4	0.4
121-16	石鏃	5F 包含層		安山岩	1.5	1.3	0.4
121-17	石鏃	5F 土壇299	先端欠。	安山岩	4.0	1.9	0.6
121-18	石鏃	10D		安山岩	3.2	1.6	0.5
121-19	石鏃	2H		安山岩	2.9	1.8	0.4
121-20	石鏃	4G 包含層	先端欠。	安山岩	2.1	1.4	0.4
121-21	石鏃	表採		チャート	2.7	1.8	0.5
121-22	石鏃	7E 土壇295		チャート	2.8	1.2	0.5
121-23	石鏃	8H 包含層		安山岩	2.6	1.4	0.3
121-24	石鏃	3H 包含層	先端欠。	安山岩	2.1	1.4	0.3
121-25	石鏃	住居群1レンヂ	先端欠。	安山岩	2.1	1.4	0.3
121-26	石鏃	17B 溝106		安山岩	2.0	1.5	0.3
121-27	石鏃	12C 包含層	基部右端欠。	安山岩	1.9	1.7	0.4
121-28	石鏃	8G 溝47	右側縁一部欠。	安山岩	1.7	1.3	0.3
121-29	石鏃	7J 表採	先端と基部左端欠。	安山岩	2.2	2.1	0.5
121-30	石鏃	3G	裏面中央に素材面を残す。先端欠。	安山岩	3.1	2.4	0.5
121-31	石鏃	7E 包含層		チャート	3.6	2.3	0.7
121-32	石鏃	8E 遺構内		安山岩	2.9	2.6	0.5
121-33	石鏃未製品	5F 包含層		安山岩	4.1	1.9	0.6
121-34	石鏃未製品	方周7西溝		安山岩	3.5	1.9	0.6
121-35	石鏃未製品	ビ'ット	上半欠。	チャート	3.4	2.1	0.9
121-36	石鏃未製品	7F	器体下半に素材の縁辺や面を残す。	チャート	3.6	1.7	0.9
121-37	石鏃未製品	2H	基端に素材面を残す。	安山岩	3.3	1.7	0.7
121-38	石鏃未製品	6F 包含層	基端に素材の礫面を残す。	チャート	2.2	1.4	0.6
121-39	石鏃未製品	6H 溝5	左側縁に折断面を残す。	チャート	2.8	1.6	0.5
121-40	石鏃未製品	8E 包含層	裏面中央に素材面と先端に礫面を残す。	安山岩	2.2	2.0	0.4
121-41	石鏃未製品	7F 溝83		安山岩	1.9	1.8	0.5
121-42	石鏃未製品	6F 包含層	基端に折断面を残す。	チャート	3.0	2.3	0.6
121-43	石鏃未製品	7E 包含層		頁岩	2.7	2.0	0.8
121-44	石鏃未製品	表採		チャート	2.8	1.9	0.8
121-45	石鏃未製品	7F ビ'ット	基端に素材面を残す。	チャート	2.1	1.5	0.6
121-46	石鏃未製品	8F 包含層	左側縁に素材の縁辺、基端に折断面を残す。	チャート	2.4	1.5	0.4

第4章 遺物

番号	器種	出土地	形態	石質	器長	器幅	器厚
121-47	石鏃未製品	3H 包含層	先端と基端に素材の縁辺を残す。	安山岩	2.5	1.9	0.4
121-48	石鏃未製品	9G	左側縁に素材面、基端に縁辺を残す。	安山岩	2.5	2.0	0.6
121-49	石鏃未製品	7F 包含層	基端に素材の打面、左側縁に折断面を残す。	チャート	2.9	1.9	0.7
121-50	石鏃未製品	5F 包含層	基端に素材の縁辺を残す。	チャート	2.5	2.2	0.5
121-51	石鏃未製品	4F 包含層	右側縁に素材の縁辺、基端に折断面を残す。	安山岩	2.4	1.7	0.3
122-1	石鏃	表採	基端に素材の縁辺と右側辺に折断面を残す。	チャート	4.1	2.2	1.1
122-2	石鏃	9H 包含層	右側辺に折断面を残す。	チャート	4.0	2.4	0.9
122-3	石鏃	表採		チャート	3.9	2.2	0.8
122-4	石鏃	7F 包含層	両面中央上半に素材面を残す。	安山岩	3.2	1.8	0.6
122-5	石鏃	12D 包含層	基端に礫面と左側辺に折断面を残す。	チャート	2.7	2.4	0.6
122-6	石鏃	7F 住5	基部の両面中央に素材面を残す。	安山岩	3.8	1.5	0.5
122-7	石鏃	土壙29	基端に素材面を残す。刃部欠。	安山岩	4.2	1.0	0.4
122-8	石鏃	6E 溝90	基端に礫面を残す。刃部欠。	チャート	4.0	1.3	1.0
122-9	石鏃	10D 溝54	左側縁や裏面に素材面を残す。	安山岩	3.4	1.3	0.7
122-10	石鏃	表採	左側縁下半に素材面を残す。	チャート	2.9	1.1	0.6
122-11	石鏃	5F 包含層	刃部に潰れ。	安山岩	3.5	1.2	0.8
122-12	石鏃	4G 土壙311	刃部欠。	安山岩	3.4	1.3	0.8
122-13	石鏃	3H 包含層	刃部欠。	安山岩	4.1	0.9	0.5
122-14	石鏃	9F	裏面中央に素材面を残す。	安山岩	3.2	1.0	0.4
122-15	石鏃	7G 土壙209	両面中央や両側辺に素材面を残す。	チャート	3.4	0.9	0.7
122-16	石鏃	8F	両面に素材面を残す。	安山岩	2.7	1.1	0.5
122-17	石鏃	9G 包含層	基端に折断面を残す。	安山岩	2.7	0.9	0.4
122-18	石鏃	5F 包含層		安山岩	2.2	0.9	0.5
122-19	石鏃未製品	9E		チャート	4.7	3.2	1.6
122-20	石鏃未製品	5F 包含層		頁岩	4.9	3.2	0.8
122-21	石鏃未製品	4H 溝16	基端に素材の縁辺を残す。	安山岩	6.0	3.6	1.7
122-22	石鏃未製品	表採		チャート	5.8	2.7	1.7
122-23	石鏃未製品	表採		チャート	5.5	2.0	1.1
122-24	石鏃未製品	7G 土壙209	左側辺に折断面を残す。	チャート	3.6	1.6	0.9
122-25	石鏃未製品	5F 包含層	右側辺下半に折断面を残す。	頁岩	3.3	2.1	0.6
122-26	石鏃未製品	1D 包含層	右側辺上半に礫面を残す。	チャート	3.1	1.7	0.7
122-27	石鏃未製品	3G 包含層		安山岩	2.5	2.4	0.5
122-28	石鏃未製品	5F 住6埋土	左側辺に折断面を残す。	安山岩	2.9	1.1	0.5
122-29	石鏃未製品	4G 土壙308	右側辺上半に折断面を残す。	安山岩	2.8	1.1	0.6
122-30	石鏃未製品	溝32	基端に折断面を残す。	安山岩	2.5	1.0	0.6
122-31	石鏃未製品	表採	基端に折断面を残す。	安山岩	2.2	0.9	0.4
122-32	石鏃未製品	7F 包含層	基端と右側辺に折断面を残す。	安山岩	2.4	1.2	0.4
123-1	楔形石器	表採		チャート	3.8	2.1	1.4
123-2	楔形石器	7F 包含層		チャート	3.2	1.8	1.1
123-3	楔形石器	4G	左右側端にも線状の潰れ。	安山岩	3.0	2.3	0.9
123-4	楔形石器	6E		チャート	2.8	1.6	0.6
123-5	楔形石器	5F 包含層		チャート	2.3	1.6	0.6
123-6	楔形石器	7G 溝51		安山岩	2.1	1.1	0.7
123-7	R. F.	6F 包含層		安山岩	4.8	3.1	1.2
123-8	R. F.	4F 土壙308		安山岩	4.5	2.5	0.9
123-9	R. F.	5G	右側辺と左側下半に折断面を残す。	チャート	4.6	3.0	0.6
123-10	R. F.	表採	下端に剥離面打面を残す。	チャート	3.7	2.1	0.9
123-11	R. F.	表採		チャート	3.7	2.3	0.8
123-12	R. F.	5F 包含層	左側辺上半に折断面を残す。	安山岩	4.5	2.5	0.7
123-13	R. F.	9E 包含層		チャート	3.9	2.2	0.9
123-14	R. F.	3G		安山岩	4.8	2.0	0.9
123-15	R. F.	表採		安山岩	4.4	2.3	0.6
123-16	R. F.	9G 包含層	下端に礫打面を厚く残す。	チャート	3.7	2.5	0.9
123-17	R. F.	表採	右側辺に折断面を残す。	チャート	3.8	2.1	0.5
124-1	R. F.	8G 溝47	上端に剥離面打面を残す。	チャート	3.7	2.5	0.8
124-2	R. F.	7E 土壙295		チャート	3.4	2.1	0.9
124-3	R. F.	表採		チャート	3.8	2.3	0.7
124-4	R. F.	3G 土壙	上端に折断面を残す。	安山岩	3.1	1.9	0.6
124-5	R. F.	7F	右側辺に折断面を残す。	チャート	3.3	1.7	0.7
124-6	R. F.	表採	左側辺に折断面を残す。	チャート	3.1	1.5	0.7
124-7	R. F.	7E 包含層		チャート	3.2	1.7	0.7
124-8	R. F.	1H	右側辺に礫面を残す。	安山岩	3.2	1.6	0.6
124-9	R. F.	5F 土壙		安山岩	3.1	1.6	0.5

第2節 遺物各説

番号	器種	出土地	形態	石質	器長	器幅	器厚
124-10	R. F.	住1C区覆土	下端に折断面を残す。	安山岩	2.8	1.9	0.7
124-11	R. F.	13H 溝4	上端に礫打面、下端に折断面を残す。	安山岩	2.8	1.9	0.6
124-12	R. F.	8E 土壌		安山岩	3.1	1.7	0.8
124-13	R. F.	4G 包含層		安山岩	3.2	1.7	0.5
124-14	R. F.	5F ビット	右側面に折断面を残す。	安山岩	2.6	1.5	0.3
124-15	R. F.	表採	左側面に折断面を残す。	安山岩	4.1	3.0	1.1
124-16	R. F.	表採		チャート	4.0	2.9	0.9
124-17	R. F.	4G 包含層		チャート	4.0	2.9	1.1
124-18	R. F.	表採	上端に礫打面を残す。	チャート	4.5	3.7	1.0
124-19	R. F.	表採		安山岩	3.5	2.8	1.1
124-20	R. F.	2G 包含層	上端に折断面、下端に剥離面打面を残す。	安山岩	3.7	2.5	1.1
124-21	R. F.	7F 土壌209	右側面に折断面を残す。	安山岩	2.6	2.5	0.8
124-22	R. F.	7F 包含層	上端に礫打面、下端に折断面を残す。	チャート	2.8	2.2	1.0
124-23	R. F.	8E 土壌249	下端に剥離面打面を残す。	チャート	3.0	1.9	1.0
124-24	R. F.	7E 包含層	下端に礫打面、右側辺上半に折断面を残す。	チャート	2.6	2.1	1.0
125-1	R. F.	8G 包含層	右側辺に折断面を残す。	安山岩	4.0	4.0	1.1
125-2	R. F.	10E 包含層	下端に礫面を残す。	チャート	3.6	3.1	1.1
125-3	R. F.	7G 土壌204	右側辺に折断面を残す。	安山岩	3.7	2.8	0.8
125-4	R. F.	表採	右側辺に折断面を残す。	チャート	3.3	3.1	1.0
125-5	R. F.	8D 溝	右側辺に折断面、裏面上位に礫面を残す。	安山岩	3.3	2.6	1.1
125-6	R. F.	7E 包含層		チャート	3.0	3.0	0.9
125-7	R. F.	方周12北溝	下端に折断面を残す。	安山岩	3.9	3.3	0.9
125-8	R. F.	表採	下端と左側辺下半に折断面を残す。	安山岩	3.4	3.4	1.2
125-9	R. F.	表採	下端に剥離面打面を残す。	チャート	3.1	3.0	1.0
125-10	R. F.	6F ビット	左側辺と下端に折断面を残す。	安山岩	3.2	2.5	0.3
125-11	R. F.	6E 包含層	右側辺に折断面を残す。	安山岩	2.6	2.6	0.6
125-12	R. F.	7E 包含層	右側辺に折断面を残す。	チャート	2.8	2.7	0.7
125-13	R. F.	5F 包含層	左側辺上半と下端に折断面を残す。	安山岩	3.0	2.1	0.6
125-14	R. F.	表採		安山岩	3.2	2.9	0.4
125-15	R. F.	10G ビット	右側辺上半に礫打面を残す。	安山岩	2.8	2.8	0.6
125-16	R. F.	表採	左側辺に礫打面を残す。	チャート	3.0	2.3	0.6
125-17	R. F.	表採	下端に折断面を残す。	チャート	2.9	2.3	0.7
125-18	R. F.	7G 土壌	下端に剥離面打面を残す。	チャート	2.6	2.2	0.7
125-19	R. F.	5F 土壌	左側辺に礫面、下端に折断面を残す。	チャート	2.8	1.8	0.6
125-20	R. F.	7F 包含層	左側辺と下端に折断面を残す。	チャート	2.2	2.0	0.7
125-21	R. F.	6F 土壌	裏面左下半に礫面を残す。	安山岩	2.8	2.0	0.8
125-22	R. F.	8E 包含層	下端に折断面を残す。	チャート	2.6	2.1	0.8
125-23	R. F.	7F 包含層	左側辺に折断面を残す。	安山岩	2.5	2.0	0.5
125-24	R. F.	4G 溝11	右側辺に折断面を残す。	安山岩	2.3	1.9	0.5
125-25	R. F.	5G 住居6溝	左側辺に折断面を残す。	安山岩	2.1	1.8	0.3
126-1	石包丁	方周19南東溝	右半と左端欠。磨滅が著しい。	粘板岩	4.6	6.3	0.8
126-2	石包丁	8H 包含層	右半と左端欠。	粘板岩	4.7	5.9	0.6
126-3	石包丁	表採	左端上位にも紐孔をもつ。刃部と右半欠。	粘板岩	5.0	9.8	0.7
126-4	石包丁	8G ビット	裏面は剥離面。大半欠。	粘板岩	4.5	5.3	0.4
126-5	石包丁	9F 包含層	大半欠。	粘板岩	5.4	4.6	0.9
126-6	石包丁	表採	大半欠。	粘板岩	4.8	6.4	0.6
126-7	石包丁	方周13台上部	左端欠。	粘板岩	20.2	30.3	1.1
126-8	石包丁	7G 包含層		安山岩	5.1	7.0	1.0
126-9	石包丁	表採	背部に素材の打面を残す。左端一部欠。	安山岩	4.2	6.8	1.3
126-10	石包丁	7E 包含層	左端に礫面を残す。	安山岩	4.1	7.1	0.7
126-11	石包丁	表採		安山岩	5.6	9.4	0.8
126-12	石包丁	表採	背部に素材の礫打面を残す。	チャート	3.5	8.0	1.5
127-1	磨斧1類	5F 包含層	裏面上半に敲打痕がみられ、緩く凹む。刃部左半欠。	安山岩	22.7	7.1	5.5
127-2	磨斧1類	7G 包含層	刃部がやや偏る。	安山岩	19.7	6.8	5.1
127-3	磨斧1類	4K	刃部に斜行する擦痕。刃部左半欠。	砂岩	20.7	6.6	4.8
127-4	磨斧1類	表採		安山岩	22.7	6.1	3.8
127-5	磨斧1類	4H 溝16	刃部に潰れ。	安山岩	18.8	6.8	3.9
127-6	磨斧1類	4K	刃部に斜行する擦痕。	砂岩	20.2	7.0	4.8
127-7	磨斧1類	11D 包含層	刃部左半欠。	安山岩	17.3	6.6	4.2
127-8	磨斧1類	13G	基端に礫面が残る。	砂岩	16.4	5.8	4.7
127-9	磨斧1類	4H	表面上半の中軸に敲打痕が残る。	安山岩	16.3	6.6	4.4
127-10	磨斧1類	8F 包含層	左側面下半に敲打痕が残る。刃部に潰れ。	砂岩	15.3	5.8	4.8
127-11	磨斧1類	溝14	刃部に斜行する擦痕。	砂岩	13.8	6.2	3.3

第4章 遺物

番号	器種	出土地	形態	石質	器長	器幅	器厚
127-12	磨斧1類	4K	刃部に斜行する擦痕。	砂岩	14.3	6.9	3.6
128-1	磨斧1類	表採		砂岩	12.9	6.3	4.4
128-2	磨斧1類	16F	裏面に斜行する擦痕。	砂岩	12.9	6.4	4.6
128-3	磨斧1類	13F 土壌外	刃部に斜行する擦痕。	砂岩	13.0	4.5	4.2
128-4	磨斧1類	5K 包含層	両側面に敲打痕が残る。	安山岩	13.3	6.4	3.9
128-5	磨斧1類	表採		安山岩	11.1	6.2	3.9
128-6	磨斧1類	表採	裏面上半と両側面に敲打痕を残す。刃部に潰れ。	安山岩	9.7	5.9	3.7
128-7	磨斧1類	表採	器体上半に敲打痕が多く残る。	砂岩	11.9	5.5	3.9
128-8	磨斧1類	表採	基部半欠。刃部に潰れ。	安山岩	8.9	3.8	2.6
128-9	磨斧2類	7F 土壌280	基部右半と下半欠。	頁岩	9.1	3.1	2.7
128-10	磨斧3類	9F 溝1	刃部の裏面に斜行する擦痕。上半欠。	砂岩	7.2	7.5	1.9
128-11	磨斧3類	4G 土壌	上半と刃部右半欠。	砂岩	9.8	5.9	1.5
128-12	磨斧3類	5F 土壌301	刃部に潰れ。刃部右半欠。	砂岩	6.6	4.4	1.3
128-13	磨斧3類	6E 包含層	刃部の裏面に斜行する擦痕。	砂岩	6.1	3.7	1.1
128-14	磨斧3類	8D 包含層	刃部左半欠。磨滅が著しい。	砂岩	6.0	2.9	0.9
128-15	磨斧3類	6F 溝		安山岩	5.4	3.4	1.0
128-16	磨斧3類	9H 包含層	刃部に斜行する擦痕。	砂岩	6.0	2.6	1.4
128-17	磨斧3類	11H 溝	刃部に斜行する擦痕。	砂岩	4.8	3.7	0.8
128-18	磨斧3類	5I 溝	刃部に斜行、刃縁に円弧状の擦痕。	安山岩	4.2	3.7	1.2
128-19	磨斧3類	5G	表裏と両側面は斜行、刃部は短軸方向の研磨痕。	粘板岩	3.4	2.8	0.8
128-20	磨斧3類	9F 包含層	表面と両側面が長軸方向、刃部は斜行と短軸方向の研磨痕。	砂岩	3.1	2.6	0.7
128-21	磨斧3類	7E 土壌291	両側面が斜行、刃部は短軸方向の研磨痕。	安山岩	2.9	1.9	0.6
128-22	磨斧3類	表採	表面と右側面は斜行、刃部は長軸方向の研磨痕。	チャート	2.7	2.0	0.5
128-23	磨斧4類	9H 包含層		頁岩	5.8	1.2	1.0
128-24	磨斧4類	7E 土壌292	刃部左半欠。	安山岩	5.8	1.3	0.9
128-25	磨斧4類	8D 包含層	刃部欠。	安山岩	4.6	1.1	1.0
128-26	磨斧4類	2H 包含層	刃部に長軸方向の擦痕。基部欠。	砂岩	4.1	1.2	0.8
129-1	砥石	表採	表面に斜行する擦痕。	砂岩	21.7	12.7	5.9
129-2	砥石	14F 溝26	表面に長軸方向の擦痕。	砂岩	16.7	8.6	5.4
129-3	砥石	表採	表面に長軸方向と斜行する擦痕。	砂岩	19.1	8.5	5.7
129-4	砥石	4H 溝16	表面に長軸方向の擦痕。	砂岩	15.3	10.9	5.3
129-5	砥石	表採	表面に不定方向、裏面に長軸方向の擦痕。	砂岩	18.9	10.1	6.2
129-6	砥石	表採	表面と右側面に長軸方向の擦痕。	砂岩	11.4	5.6	4.8
129-7	砥石	方周1北東隅		砂岩	9.7	12.4	4.4
129-8	砥石	9G 包含層		砂岩	11.2	8.1	3.2
129-9	砥石	表採		砂岩	8.3	6.6	6.2
130-1	砥石	住1	表裏に不定方向、両側面に長軸方向の擦痕。	頁岩	16.6	5.6	3.7
130-2	砥石	方周13北溝	表面と両側面は長軸方向、裏面と上下端は斜行する擦痕。	頁岩	15.0	5.9	4.2
130-3	砥石	5G 溝5・6		砂岩	12.2	7.6	4.3
130-4	砥石	11H 溝5	表面は長軸方向、裏面と上下端は不定方向の擦痕。	凝灰岩	11.2	5.7	3.8
130-5	砥石	9E 包含層	表裏に不定方向、両側面に長軸方向の擦痕。	凝灰岩	9.1	4.3	3.2
130-6	砥石	住1	裏面に不定方向、両側面に長軸方向の擦痕。	頁岩	12.0	3.3	1.7
130-7	砥石	6G 溝21内ピット	表面と両側面は長軸方向、裏面は不定方向の擦痕。	凝灰岩	9.6	3.1	2.8
130-8	砥石	7D 包含層	表面は長軸方向、下端面は斜行する擦痕。	凝灰岩	6.9	3.3	1.5
130-9	砥石	10D 包含層	表裏は長軸方向、左側面は表裏方向の擦痕。	凝灰岩	6.4	2.9	2.1
130-10	砥石	11F 包含層	表面と右側面は長軸方向、裏面は斜行する擦痕。	頁岩	5.9	3.3	1.3
130-11	砥石	表採	表面は不定方向、両側面は斜行する擦痕。	凝灰岩	6.0	1.6	1.6

石器の組成表と観察表で、石鏃末は石鏃末製品、石錐末は石錐末製品、R.F.は2次加工のある剥片、磨斧1類は太型蛤刃石斧、磨斧2類は柱状片刃石斧、磨斧3類は扁平片刃石斧、磨斧4類は小型方柱状片刃石斧を示す。
表中の寸法の単位は全てcm。

3 土製品・石製品（図版第111、第131・132図）

鶏形土製品を初めとして、多種多様な品がある。このうち、主要な種類と個数は以下の通りである。

- | | | | | | |
|-------------|----|------------|-----|------------|----|
| (1) 鶏形土製品 | 1個 | (2) 土玉 | 9個 | (3) 勾玉形土製品 | 1個 |
| (4) 算盤玉形土製品 | 1個 | (5) 土製加工円盤 | 23個 | (6) 石錘 | 1個 |
| (7) 石製加工円盤 | 1個 | (7) 有孔円盤 | 1個 | | |

鶏形土製品（第131図1） 頭・頸部のみを確認したもので、体部は欠損する。棒状の粘土塊を芯材とし、さらに粘土を被せて嘴・鶏冠の各部を作り出している。表面はハケ調整後、目、嘴・鶏冠のほか羽毛と思える頭部の沈線をヘラ状工具で描く。また、細い棒状工具の刺突により、嘴の付根には1対の鼻孔も描く。写実的な品である。

土玉（第131図2～10） 丸玉状の品6個（第131図2～7）、洋梨形の品3個（第131図8～10）の総数9個を数える。焼成前に両側から穿孔するが、丸玉状の品のうち2個（第131図6・7）は未貫通品である。丸玉状の品は器高1.55～2.60cm、重さ3.30～16.19gを測り、洋梨形の品は器高2.17～2.75cm、重さ10.22～18.01gを測る。

勾玉形土製品（第131図11） 下半を欠損しているため不明瞭であるが、復元長は7.0cmを超える大型品と考えられる。全体にナデ調整を施し、焼成前に両側穿孔する。

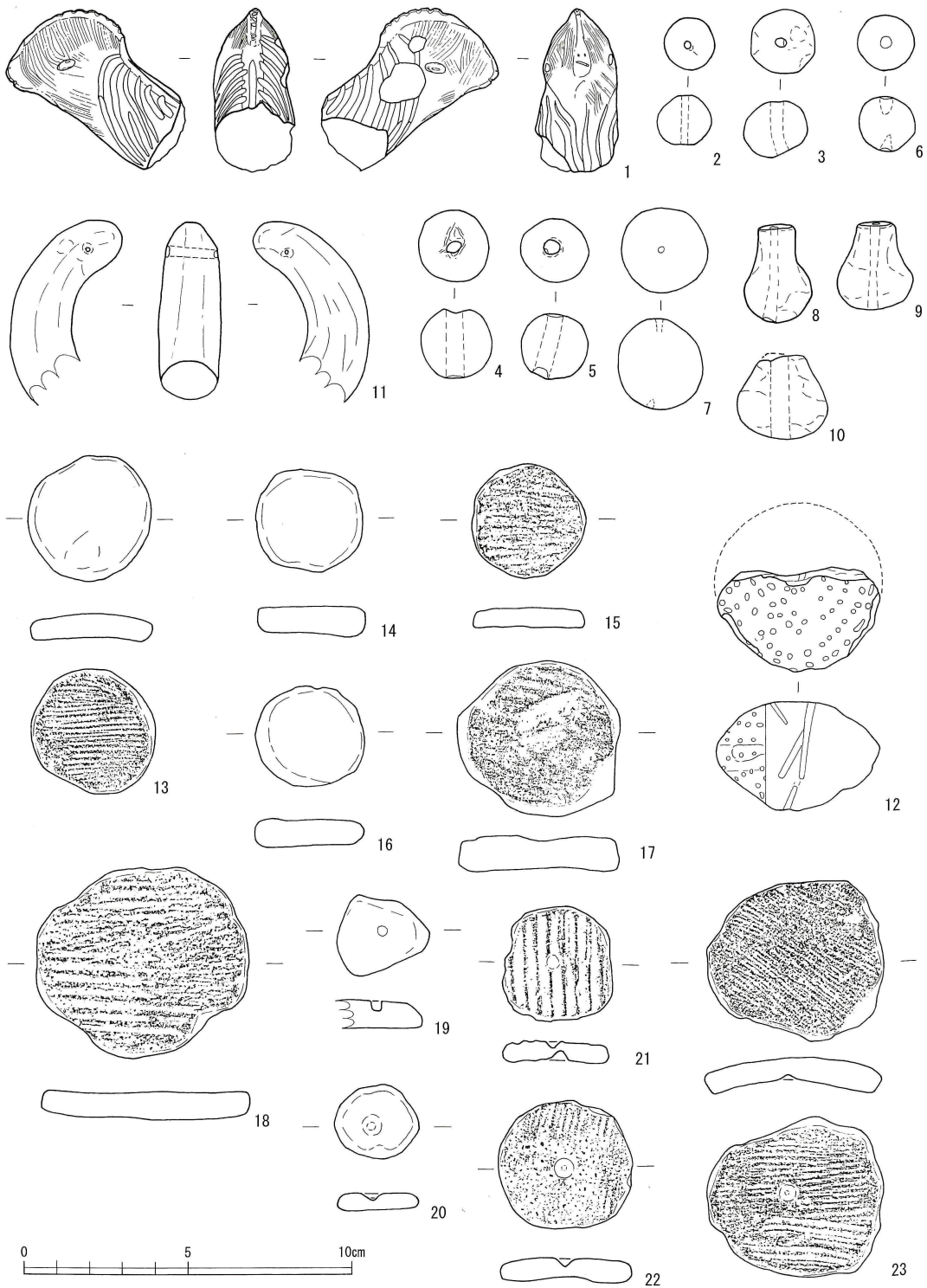
算盤玉形土製品（第131図12） 算盤玉形を呈し、表面には棒状工具による多数の刺突を施す。焼成前に両頂部から小孔を穿っているが、欠損のため貫通していたかどうかは不明である。

土製加工円盤（第131図13～23、第132図1～12） 未穿孔品6個（第131図13～18）、未貫通品7個（第131図19～23、第132図1・2）、貫通品10個（第132図3～12）の総数23個を数える。いずれも曲面を残す土器片を再利用したもので、円形に打ち欠いて成形しただけのもの（第131図18・21・23、第132図1・4・5・7・8・12）と、周縁を研磨整形するもの（第131図13・16・20・22、第132図2・9～11）がある。胴部片を使用するものが大半を占めており、条痕やハケ調整がみられる。なかでも第132図11は、直線文と波状文を巡らせた胴部上半を使用しているため、装飾性が高い。直径3.0cm未満の小型のもの、直径3.0cm以上4.5cm未満の中型のもの、直径4.5cm以上6.0cm未満の大型のもの、直径6.0cm以上の特大のものに分けられる。貫通品は、すべて両側から穿孔を行う。

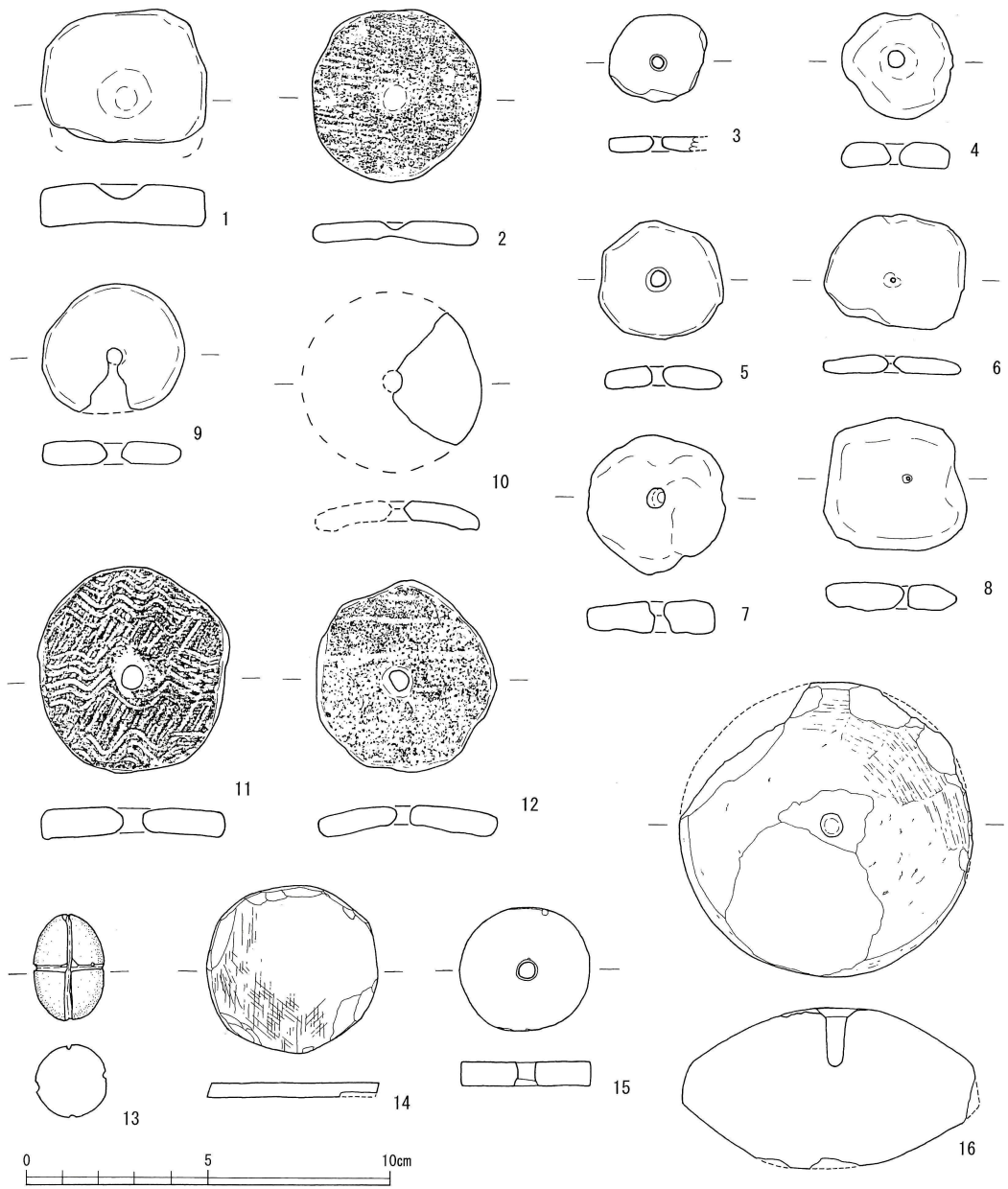
石錘（第132図13） 繭形を呈する。長軸に2条、短軸に1条の直交する凹溝を巡らす。

石製加工円盤（第132図14・15） 第132図14はほぼ円形を呈す未完成品であり、両面に若干の研磨痕を、側面に丁寧な研磨痕を残す。第132図15はほぼ円形を呈し、両面および側面は丁寧に研磨する。また中心には、両面穿孔による貫通孔を有する。

有孔円盤（第132図16） 算盤玉形を呈し、表面は粗い擦痕で被われる。一方の頂部には未貫通の小孔を穿ち、その周辺には磨滅が認められる。なお、無孔面の剥落が著しい。



第131図 土製品実測図 (縮尺1/2)



第132図 土製品・石製品実測図（縮尺1/2）

第4章 遺物

第8表 土製品・石製品観察表

図	番号	グリッド	層	遺構	種類	色調	胎土	焼成	縦幅	横幅	高	厚	重量	孔径	備考
131	1	10F	—	土壇153	鶏形土製品	灰白色	密	良好	(5.6)	(3.7)	(4.9)	2.4	30.44	—	
131	11	2J	—	溝	勾玉形土製品	にぶい黄橙色	密	良好	(5.3)	(1.85)	2.0	2.0	27.30	0.3	
131	12	9F	包含層	—	算盤玉形土製品	灰白色	密	良好	5.0	(2.95)	3.35	—	37.93	0.2	

図	番号	グリッド	層	遺構	種類	色調	胎土	焼成	器高	幅	重量	孔径	備考
131	2	—	—	—	土玉	にぶい黄橙色	密	やや良	1.55	1.50	3.27	0.2	
131	3	8E	包含層	—	土玉	灰白色	密、3mm大の砂含む	良好	2.04	1.75	6.67	0.4	
131	4	7F	—	溝76	土玉	にぶい黄橙色	密	良好	2.24	2.14	9.65	0.4	
131	5	11H	—	住居3	土玉	黒褐色	密	良好	2.14	1.91	3.99	0.5	
131	6	8F	—	—	土玉	浅黄橙色	密	良好	1.75	1.65	7.41	0.35	未貫通・両側穿孔
131	7	—	—	—	土玉	灰黄色	密	良好	2.60	2.70	16.14	0.2	未貫通・両側穿孔
131	8	—	—	方周7東溝	土玉	灰黄色	密	良好	2.26	2.63	10.33	0.3	
131	9	—	—	方周7東溝	土玉	にぶい黄橙色	密	良好	2.17	2.96	10.20	0.3	
131	10	—	—	—	土玉	にぶい黄橙色	密、雲母	良好	2.75	2.60	17.92	0.6	

図	番号	グリッド	層	遺構	種類	色調	胎土	焼成	縦幅	横幅	最大厚	最小厚	重量	孔径	備考
131	13	7G	—	P17	土製加工円盤	にぶい黄橙色	密	良好	3.75	3.8	0.7	0.65	10.75	—	未穿孔
131	14	2H	—	溝16	土製加工円盤	にぶい橙色	やや密	良好	3.25	3.05	0.9	0.75	8.45	—	未穿孔
131	15	9G	包含層	—	土製加工円盤	にぶい黄橙色	密	良好	3.45	3.5	0.55	0.5	7.13	—	未穿孔
131	16	13C	—	—	土製加工円盤	浅黄橙色	密	良好	3.3	3.0	0.85	0.7	7.10	—	未穿孔
131	17	—	—	—	土製加工円盤	浅黄橙色	密	やや悪	5.0	4.70	1.0	0.8	21.57	—	未穿孔
131	18	5G	—	溝11	土製加工円盤	にぶい黄橙色	密	良好	6.45	5.8	0.85	0.7	29.94	—	未穿孔
131	19	6E	包含層	—	土製加工円盤	にぶい黄橙色	やや粗	やや悪	2.8	2.5	0.9	0.5	4.98	0.25	未貫通・片側穿孔
131	20	7E	包含層	—	土製加工円盤	にぶい黄橙色	やや粗	やや悪	2.5	2.3	0.55	0.3	2.81	0.6	未貫通・片側穿孔
131	21	—	—	溝11	土製加工円盤	灰黄色	やや密	良好	3.39	3.45	0.61	0.2	8.20	0.5	未貫通・両側穿孔
131	22	19H	包含層	—	土製加工円盤	灰黄褐色	密	良好	4.1	3.85	0.7	0.3	9.84	0.6	未貫通・片側穿孔
131	23	7G	—	P17	土製加工円盤	灰黄色	密	良好	5.4	4.8	0.6	0.5	20.20	0.5	未貫通・片側穿孔
132	1	6H	—	溝11	土製加工円盤	灰白色	密	やや悪	4.6	3.6	1.1	0.65	25.66	0.7	未貫通・片側穿孔
132	2	5F	—	P42	土製加工円盤	灰黄色	密	良好	4.6	4.75	0.6	0.2	13.41	1.4	未貫通・片側穿孔
132	3	6F	—	—	土製加工円盤	黄灰色	密	やや悪	(2.4)	(2.6)	0.45	0.4	2.60	0.35	貫通
132	4	8G	包含層	—	土製加工円盤	にぶい黄橙色	密	良好	3.05	2.9	0.69	0.5	5.27	0.4	貫通
132	5	10H	包含層	—	土製加工円盤	明赤褐色	やや粗	やや悪	3.4	3.2	0.55	0.5	5.21	0.45	貫通
132	6	7H	—	溝11下部	土製加工円盤	橙色	やや密	やや悪	3.85	3.1	0.5	0.35	6.35	0.1	貫通
132	7	—	—	—	土製加工円盤	橙色	やや粗	やや悪	3.7	3.8	0.85	0.7	11.22	0.55	貫通
132	8	—	—	—	土製加工円盤	黄橙色	やや粗	悪	4.0	3.6	0.8	0.65	9.12	0.15	貫通
132	9	9G	包含層	—	土製加工円盤	灰白色	やや密	良好	3.95	(3.6)	0.7	0.55	8.57	0.45	貫通
132	10	10H	—	P2	土製加工円盤	にぶい橙色	密	良好	(5.0)	(5.0)	0.5	0.3	4.19	0.3	貫通
132	11	9H	包含層	—	土製加工円盤	灰色	密	良好	5.7	5.3	0.8	0.7	24.89	0.7	貫通
132	12	—	—	方周k	土製加工円盤	にぶい黄橙色	やや粗	良好	5.0	5.3	0.6	0.55	17.28	0.5	貫通

図	番号	グリッド	層	遺構	種類	石材	径	幅	重量	孔径	備考
132	13	9E	包含層	—	石鏃	凝灰質砂岩	2.89	1.91	12.72	—	
132	14	8E	—	土壇249	石製加工円盤	千枚岩	4.85	0.42	16.67	—	
132	15	11D	—	土壇224	石製加工円盤	碧玉	3.57	0.65	15.12	0.6	
132	16	10E	包含層	—	有孔円盤	砂岩	8.04	(4.26)	303.4	0.6	

(表中の単位は寸法がcm、重量はg)

4 玉作関連遺物（図版第112・113、第133～135図）

碧玉製管玉製作に関する資料が多数出土した。工具と管玉未成品とに分けて記述する。

（1）玉作工具

玉鋸（第133図7～14）

原石を分割する際に用いる擦り切り工具で、69点が出土した。刃部を有するものが17点出土しており、8点を図化した。完形と思われるものは無く、残りの良いものを図化した。一辺に刃を持つものが殆どで、両辺に刃を持つものは確認できなかった。

厚みにばらつきがあり、2mmから5mmのものがある。碧玉素材の分割が進むにつれて、施溝痕の幅・深さともに小さい値をとるので、これに対応するものと思われる。また、玉鋸の全長と厚みは必ずしも比例関係になく、一概に大型品が初期段階の施溝用のものとは言えない。

刃は石材の層理に沿って付くものが殆どだが、肉厚のものの一部に層理と平行せずに刃を作出するものが認められる。

石針（第135図37～42）

無斑晶質安山岩製磨製石針が見つかった。41は全長10mm、直径1.2mmを測り、先端に回転痕が残る。本遺跡出土管玉の内、細型の管玉に対応する。42は直径1.9mmを測る。両端が欠損するが円柱に近く、製品と思われる。製品はこの2点で、その他は未成品である。39は研磨段階の未成品で、八角柱を呈す。磨かれていない面が残る。40は側面全面を磨く。円柱状にすると直径1.5mm程度であろうか。37は側面調整段階の未成品である。全長20mmを超える四角柱で、大型管玉の穿孔に対応するものの可能性が高い。38は剥片の側縁を調整している。

他に棒状に加工したメノウ片も出土しており、メノウ製穿孔具が存在する可能性もある。

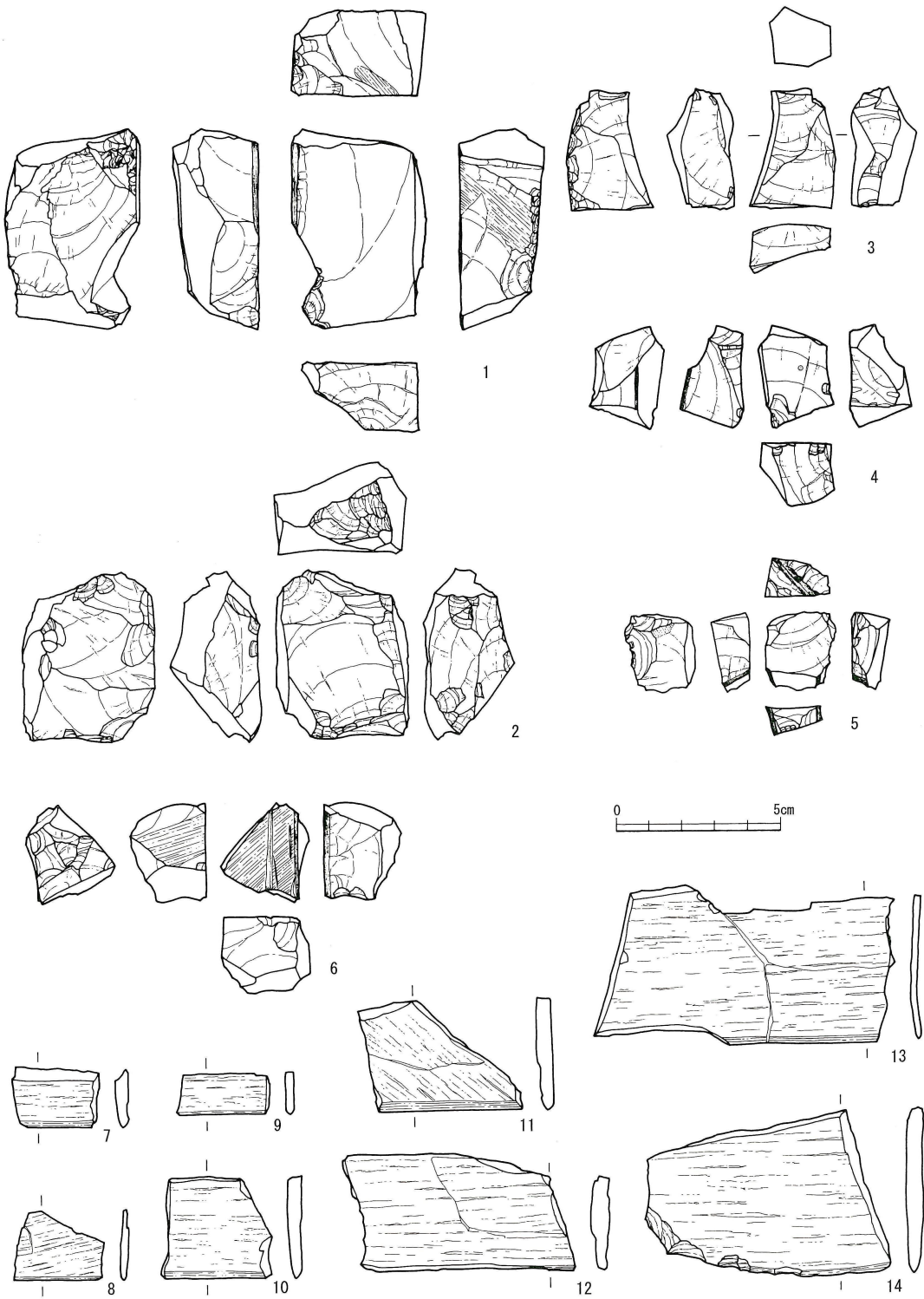
（2）管玉未成品

碧玉製管玉製作に関する各工程の遺物が出土している。しかし、製作工程を検討するには資料不足である。ここでは、北陸各地の碧玉製管玉を集中生産した遺跡を参考に、石材の分割（荒割・形割）・側面調整・研磨・穿孔の4工程に分けて記述する。

石材分割工程（第133図1～6、第134図1～11）

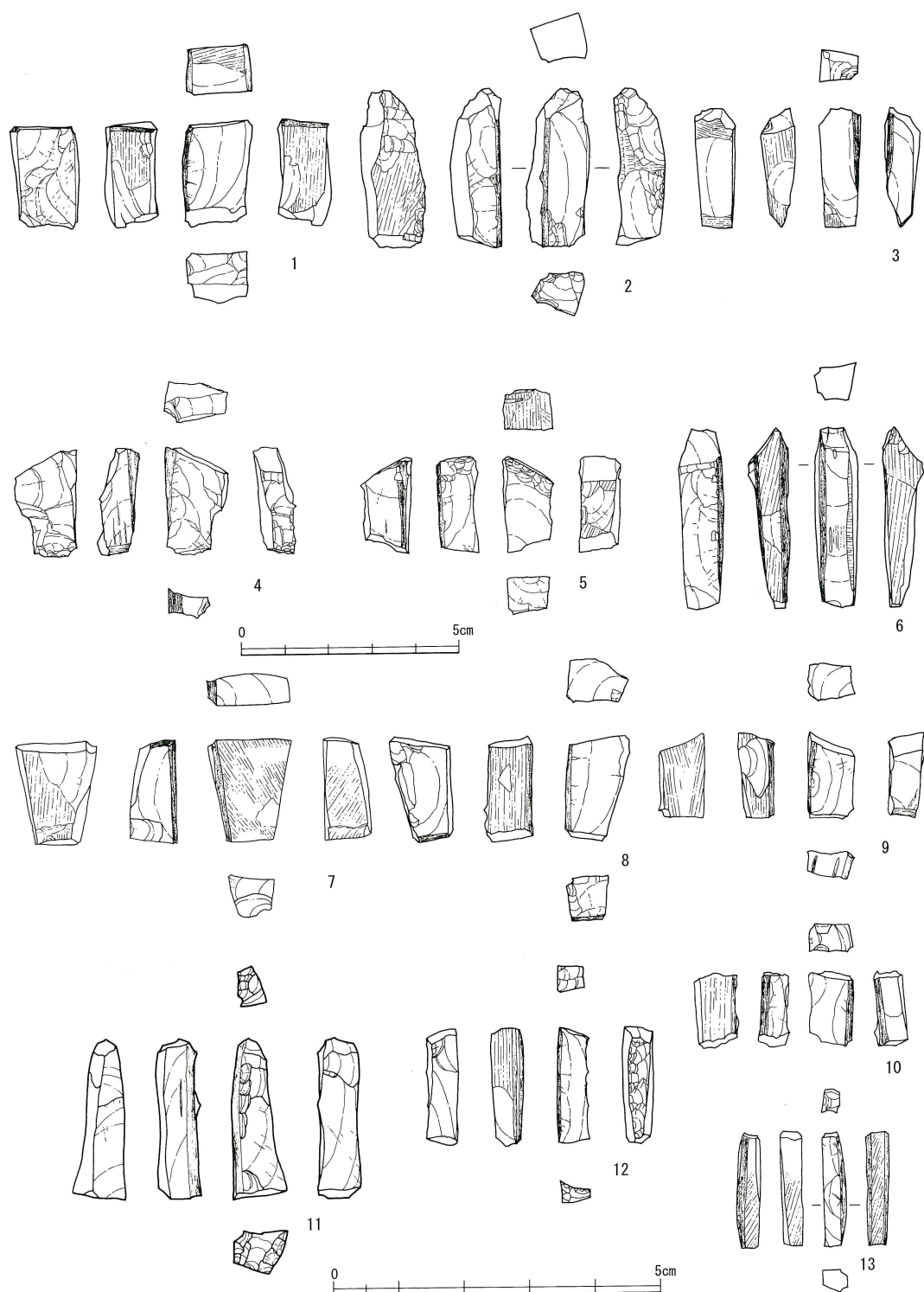
打撃・施溝分割で原石を分割して、目的とする法量の直方体を作成する工程。分割の初期では打撃・施溝分割いずれも利用している。第133図1は本遺跡最大の分割段階未成品で、既に施溝分割が行われている。しかし、それより小型でも同図2や3のように、施溝痕を持たないものもある。5は3本の施溝痕を持ち、施溝分割によって作出した平坦面を利用して、新たに施溝分割を行う。6は丁寧に研磨した面に施溝して分割し、それに平行して新たな施溝を行う。

分割が進むと、施溝分割の比率が高くなる。第134図1～10は分割工程がかなり進行した段階の未成品で、あと1～2回分割すると目的の直方体を作成できる。また、施溝分割を行う前に、施溝を行う面または接地面を磨いて平滑にするものが多く認められる。同図3は一端を研磨し、刃部を作成している。施溝分割に失敗したものを他目的に利用しており、楔の可能性が高い。



第133図 玉作関連遺物実測図1(縮尺1/2)

第2節 遺物各説



第134図 玉作関連遺物実測図2 (1～6は縮尺2/3、7～13は1/1)